

令和 6 年 教育委員会

第 9 回 定例会 議事日程

令和 6 年 5 月 21 日（火）

第 1 議 案

【 指導課 】

- (1) 議案第 20 号「幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例施行規則の一部を改正する規則」

第 2 報 告

【 文化振興課 】

- (1) 千代田図書館における夏休み期間中の繰上げ開館について（試行実施）

【 子ども総務課 】

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について

【 子ども支援課 】

- (1) 幼稚園・保育園・こども園・認定こども園等の在籍状況（令和 6 年 5 月 1 日現在）

【 子育て推進課 】

- (1) 子育て支援に関する区民ニーズ調査の結果について

【 児童・家庭支援センター 】

- (1) 令和 6 年度学童クラブ学年別在籍状況（令和 6 年 5 月 1 日現在）
(2) 令和 6 年度学童クラブの整備について

【 学務課 】

- (1) 令和 6 年度 学級編制（令和 6 年 5 月 1 日現在の児童・生徒・学級数）について

【 指導課 】

- (1) 令和 7 年度使用教科用図書採択について
(2) いじめ、不登校、適応指導教室の利用状況（4 月）

第 3 その他

【 子ども総務課 】

- (1) 教育委員会行事予定表
(2) 広報千代田（6 月 5 日号）

【教育委員情報提供あり】

議案第20号

幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例施行規則の一部を改正する規則

幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例施行規則（平成12年千代田区教育委員会規則第4号）の一部を次のように改正する。

新（改正後）	旧（現 行）
（夏季休暇） 第27条 夏季休暇は、<u>6月1日から10月31日までの期間</u>において、職員が心身の健康の維持及び増進又は家庭生活の充実のため勤務しないことが相当と認められる場合の休暇とする。 2 （現行に同じ。）	（夏季休暇） 第27条 夏季休暇は、<u>夏季の期間（7月1日から9月30日までをいう。）</u>において、職員が心身の健康の維持及び増進又は家庭生活の充実のため勤務しないことが相当と認められる場合の休暇とする。 2 （略）
備 考 1 改正後の欄中下線が引かれた部分（以下「改正後部分」という。）に対応する改正前の欄中下線が引かれた部分（以下「改正部分」という。）がない場合には、当該改正後部分を加える。 2 改正部分に対応する改正後部分がない場合には、当該改正部分を削る。 3 改正部分に対応する改正後部分がある場合には、当該改正部分を当該改正後部分に改める。	

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例施行規則の一部改正について

1 改正趣旨

区長部局職員の夏季休暇については、本年6月から条件を設けず、一律、夏季休暇の承認期間(取得可能期間)を6月1日から10月31日までとする見直しを行うこととなった。

区長部局職員との均衡を図るため、幼稚園教育職員についても同様の見直しを行う。

2 改正内容

夏季休暇の承認期間(取得可能期間)を6月1日から10月31日までとする。

【参考】令和2年度から令和4年度における夏季休暇期間の特例措置

夏季休暇期間(現行)	令和2年度 (特例延長)	令和3年度 (特例延長)	令和4年度 (特例延長)
7月1日から 9月30日まで	7月1日から 11月30日まで	7月1日から 11月30日まで	7月1日から 10月31日まで
	【延長理由】 コロナウイルス感染症 オリンピック パラリンピック	【延長理由】 コロナウイルス感染症 オリンピック パラリンピック	【延長理由】 コロナウイルス感染症

3 新旧対照表

別紙のとおり

4 施行期日

公布の日

千代田図書館における夏休み期間中の繰上げ開館について（試行実施）

千代田図書館では、小中高校生の読書活動推進のため、平成26年度より夏休み期間中（7/21～8/31）の開館時間を1時間繰り上げて午前9時からとしているが、令和6年度の夏休み期間中の一部について、繰上げ開館の実施期間や実施内容を試行的に変更して実施する。

1 試行実施の趣旨

繰上げ開館を行っている時間帯（午前9時～10時）の小中高校生の利用状況をみると、前半（7/21～8/10）の期間はあまり利用がなく、後半の期間に利用が集中する傾向にある。

その理由として、小中学生の夏休みの宿題に対するニーズが高くなることが想定されている。

そこで、令和6年度は試行的に、小中高校生が比較的多く来館する8/11以降に繰上げ開館の実施時期を特化するとともに、夏休みの学習環境や学習支援体制をより充実させることで、読書及び学習活動の一層の推進に寄与していく。

2 見直しの内容

（1）繰上げ期間の変更

8/11～8/31 20日間（従前は40日間） ※休館日の8/25を除く

（2）繰上げ期間中の学習環境、学習支援体制の充実

① 千代田図書館の中高生専用席の増席

現状は中高生学習ルーム8席＋中高生席8席 ⇒各2席増やし、計20席に増席

② 千代田図書館研修室を自習スペースとして一部開放

毎週月・水曜日の9時～17時、第1・第2研修室を開放

※かがやきプラザの自習スペースとは異なる曜日・時間に設定

③ 小中学生の学習支援体制の強化

学校支援員によるレファレンジャーの対応を強化

※レファレンジャー …夏休みの宿題に役立つ本と一緒に探すなど、子どもと保護者のための読書相談

3 利用促進のための周知

① 広報千代田6月20日号、図書館だより、SNS（YouTube、X、Facebook等）による周知

② 図書館の館内掲示、カウンターでの案内等による利用の誘導

4 その他

令和7年度以降の対応は、試行実施の検証結果を踏まえて決定する。

令和6年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、毎年、有識者の知見を活用した上で、千代田区教育委員会が主要な施策や事務の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、区民等への説明責任を果たすことを目的とする。

2 これまでの変遷【参考資料あり】

平成20年度～令和元年度	主要施策の成果を使用して点検評価実施
令和2年度～令和4年度	教育委員会の主要課題（2～3項目）で点検評価実施
令和5年度	主要施策の成果を使用して点検評価実施

3 委員 ※任期 3年（現任：令和5年7月1日～令和8年3月31日）

上岡 学	武蔵野大学教育学部長（副学長）
清水 哲	元多摩市教育長
藤井 千恵子	元国士舘大学体育学部こどもスポーツ教育学科教授
条原 淳子	日本女子大学家政学部児童学科特任教授
日永 龍彦	山梨大学 大学教育センター教授

4 令和6年度の方向性

- （1）千代田区の子育て・教育行政の主要な施策を理解してもらうため、昨年度に引き続き主要施策の成果を使用して点検及び評価を実施する。
- （2）昨年度は、主要施策のうち7事業について点検及び評価を実施したが、2回の会議の中で施策の課題や成果を全て網羅することが難しかったため、今年度は、点検及び評価を実施する事業を7事業から3～5事業程度とする。
- （3）点検及び評価を実施した結果を次年度（7年度）の予算に反映させるため、上半期を目途に点検及び評価を実施する。

5 今後の日程

令和6年	6月4日	部課長会において実施方針及び実施項目の審議
	6月11日	実施方針及び実施項目の選定（教育委員会協議）
	7月～8月	有識者会議の開催（2回開催）
	9月中	教育委員会での審議を経て議案提出（教育委員会議決）
	9月中	地域文教委員会へ報告

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

幼稚園・保育園・こども園・認定こども園等の在籍状況(令和6年5月1日現在)

幼稚園・こども園

園 名	学 級 数 (定員数)				園 児 数			
	3歳	4歳	5歳	計	3歳	4歳	5歳	計
麴 町 幼 稚 園	1 (35)	1 (35)	1 (35)	3 (105)	13	22	35	70
九 段 幼 稚 園	1 (35)	1 (35)	1 (35)	3 (105)	13	13	19	45
番 町 幼 稚 園	2 (35)	1 (35)	1 (35)	4 (105)	24	20	23	67
お 茶 の 水 幼 稚 園	1 (20)	1 (35)	1 (35)	3 (90)	11	11	7	29
千 代 田 幼 稚 園	1 (25)	1 (25)	1 (25)	3 (75)	20	20	22	62
					短時間 11	10	12	33
					長時間 9	10	10	29
昌 平 幼 稚 園	1 (25)	1 (25)	1 (25)	3 (75)	13	16	13	42
					短時間 6	6	4	16
					長時間 7	10	9	26
い ず み こ ど も 園	1 (35)	1 (35)	1 (35)	3 (105)	32	28	28	88
					短時間 12	8	9	29
					長時間 20	20	19	59
ふ じ み こ ど も 園	2 (50)	2 (50)	2 (50)	6 (150)	34	33	45	112
					短時間 11	12	17	40
					長時間 23	21	28	72
合 計	10 (260)	9 (275)	9 (275)	28 (810)	160	163	192	515
					短時間 101	102	126	329
					長時間 59	61	66	186

保育園・こども園・認定こども園

園 名	定 員							園 児 数						
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
麴 町 保 育 園	6	18	18	18	20	20	100	6	18	18	17	19	19	97
神 田 保 育 園	12	17	20	22	24	25	120	12	17	18	21	22	19	109
西 神 田 保 育 園	12	15	18	18	18	18	99	8	13	17	18	12	17	85
四 番 町 保 育 園	11	14	16	18	19	19	97	4	14	15	16	17	18	84
い ず み こ ど も 園	9	12	15	(20)	(20)	(20)	36 (60)	8	11	15	(20)	(20)	(19)	34 (59)
ふ じ み こ ど も 園	12	20	23	(25)	(28)	(28)	55 (81)	10	20	23	(23)	(21)	(28)	53 (72)
アスクニ番町保育園	6	15	15	15	16	13	80	5	15	15	11	16	13	75
ポピンズナーサリースクール 一 番 町	9	12	13	14	16	16	80	4	9	10	11	8	11	53
ほっぺるランド西神田	9	10	12	13	13	13	70	2	10	11	12	10	12	57
グ ロー バ ル キ ャ ッ プ 飯 田 橋 園	18	24	24	24	24	24	138	8	14	24	24	21	22	113
アイグラン保育園東神田	6	10	11	11	11	11	60	4	10	9	10	7	11	51
グ ロー バ ル キ ャ ッ プ 飯 田 橋 こ ど も 園	12	17	18	29	29	29	134	7	13	17	17	21	24	99
				10	10	10	短時間 30				3	2	9	短時間 14
				19	19	19	長時間 104				14	19	15	長時間 85
クレアナーサリー市ヶ谷	6	12	12	15	15	15	75	1	6	8	11	8	9	43
神 田 淡 路 町 保 育 園 大 き な お う ち	9	18	18	18	18	18	99	8	17	17	17	17	17	93
グローバルキッズ六番町園	6	10	11	11	11	11	60	3	6	11	9	11	8	48
二 番 町 ち と せ 保 育 園	12	14	14	20	20	20	100	7	16	16	20	14	16	89
千 代 田 せ い が 保 育 園	6	7	8	10	10	10	51	6	8	9	6	10	7	46
ベネッセ内神田保育園	6	8	10	12	12	12	60	6	8	10	10	7	8	49
保 育 園 神 田 ペ ア ー ス	5	9	9	9	9	9	50	3	9	9	8	6	4	39
AIAI NURSERY 三 番 町	6	8	9	9	9	9	50	2	8	8	7	6	6	37
平 河 町 ち と せ 保 育 園	9	12	12	12	12	12	69	7	12	9	10	11	5	54
ほっぺるランド外神田	6	12	15	18	11	18	80	4	9	14	9	8	11	55
岩 本 町 ち と せ 保 育 園	12	18	18	18	16	8	90	11	18	19	14	13	8	83
外 神 田 か な り や 保 育 園	6	8	9	3	2	2	30	0	6	7	4	4	1	22
まなびの森保育園神保町	9	17	7	5	1	1	40	9	16	6	4	0	1	36
合 計	220	337	355	332 (45)	326 (48)	323 (48)	1,893 (141)	145	303	335	283 (43)	266 (41)	258 (47)	1,590 (131)

※園児数が定員に達していない部分を赤字で表記しています。

施 設 名			定 員							園 児 数													
			0 歳 児	1 歳 児	2 歳 児	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	計	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		計	
										全数	うち 区民	全数	うち 区民	全数	うち 区民	全数	うち 区民	全数	うち 区民	全数	うち 区民	全数	うち 区民
地域型保育事業	保育 事業 模 型 業 型	あい・ぼーと小さな家麹町	1	4	5	—	—	—	10	0	0	4	4	3	3	—	—	—	—	—	—	7	7
		厚生労働省5号館保育室	8	5	3	—	—	—	16	0	0	5	1	2	0	—	—	—	—	—	—	7	1
	事業 所 内 保 育 事 業	アソシエナーサリー霞が関	7	7	5	—	—	—	19	1	0	6	1	6	0	—	—	—	—	—	—	13	1
		グローバルキッズ経済産業省保育室	3	9		—	—	—	12	0	0	3	0	1	0	—	—	—	—	—	—	4	0
		ゆうてまち保育園	9	11	6	—	—	—	26	4	3	1	1	3	1	—	—	—	—	—	—	8	5
		財務省らる保育園	7	6	6	—	—	—	19	1	0	3	0	2	0	—	—	—	—	—	—	6	0
		保 育 宅 訪 問 業 型	(株)ボビンスファミリーケア	10			—	—	—	10	—	0	—	0	—	0	—	—	—	—	—	—	0
	(株)アルファコーポレーション		5			—	—	—	5	—	0	—	0	—	0	—	—	—	—	—	—	0	0
	サンフラワー・A(株)		10			—	—	—	10	—	0	—	0	—	0	—	—	—	—	—	—	0	0
	(特非)フローレンス		—			—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認可外保育所	施 幼 保 一 設 体	マミーズエンジェル千代田保育園	3	7	10	—	—	—	20	3	3	9	9	10	10	—	—	—	—	—	—	22	22
		小学館アカデミー昌平保育園	5	10	10	—	—	—	25	3	3	10	10	10	10	—	—	—	—	—	—	23	23
	認 証 保 育 所	保育園ドルチェ	6	9	10	5	5	5	40	5	3	11	4	10	7	4	2	4	1	5	5	39	22
		キッズスクウェア丸の内東京ビル	6	10	6	—	—	—	22	4	0	1	0	1	0	—	—	—	—	—	—	6	0
		マミーズエンジェル神田駅前保育園	5	7	6	6	13		37	5	5	7	6	6	6	6	6	8	8	5	5	37	36
		小学館アカデミー神保町保育園	6	7	9	6	6	6	40	1	1	7	7	8	7	4	4	5	5	4	3	29	27
		ピノキオ幼児舎番町園	4	5	5	4	8		26	1	1	4	4	5	4	1	1	1	1	2	2	14	13
		キッズスクウェア永田町	6	7	9	4	8	0	34	1	0	6	2	9	5	4	4	8	3	0	0	28	14
		キッズスクウェア丸の内永楽ビル	8	8	6	2	1	1	26	0	0	7	2	3	0	2	1	1	0	1	1	14	4
		保育室「愛の園」	6	8	10	6			30	5	1	6	3	9	3	4	2	—	—	—	—	24	9
	施 緊 急 保 育 所 象 区 保 補 育 助 室 対	グローバルキッズ神田駅前保育園 (旧今川中学校)	6	8	8	6	6	6	40	0	0	2	2	5	5	1	1	6	6	0	0	14	14
		ひまわり育児室	5	4	6	5	6		26	2	1	1	0	4	1	3	3	2	2	—	—	12	7
		ハイブリッドmamブリススクール ナーサリー千代田富士見	6	8	7	7	6	6	40	2	2	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	25	25
計			—	—	—	—	—	—	533	38	23	98	61	102	67	34	29	39	30	21	20	332	230

※園児数が定員に達していない部分を赤字で表記しています。

令和6年度 保育園・こども園等(長時間)の待機児童数・留保の状況(5月1日現在)

- 待機児童数(該当者なし)
いずれの保育所にも入所できなかった方

○留保(2名)
認証保育所等に入所しているが、認可保育所を希望している方

○育児休業延長希望(48名)
育児休業の延長を希望する方
- 特定園留保(16名)
希望する保育所に入れず、自宅で待つ方など

○転所留保(9名)
認可保育所に入所したが、別の認可保育所を希望する方

○申請取下・辞退(4名)
転居等により保育園入園の必要がなくなった方
入所が決定したが辞退した方

子育て支援に関する区民ニーズ調査の結果について

1 調査の目的

子ども・子育て支援法に基づき、令和7年度から令和11年度までの5年間を計画期間とする「第3期千代田区子ども・子育て支援事業計画」を策定するために必要な基礎データの収集等を目的とした調査を実施した。

2 調査の概要

(1) 調査対象者

令和5年12月1日時点で区内に住所を有する小学生までの全児童（※）の保護者

※ 抽出日時点で住民票が削除されている者を除く。

(2) 回答方法

原則、オンライン（専用ウェブサイト）による回答

※ 個別の要望があったときに限り、紙の調査票を郵送し、郵送による回答を受け付けた。

(3) 調査期間

令和6年1月29日（月）～2月16日（金）

(4) 回収状況

	対象者	対象者数	回収数	回収率
A	就学前児童のみの保護者	2,111	685	32.4%
B	小学生児童のみの保護者	2,289	717	31.3%
C	就学前児童および小学生児童の保護者	911	281	30.8%
	合計	5,311	1,683	31.7%

3 設問、回答内容等（☒……未就学児のいる世帯が対象 ☐……小学生のみの世帯が対象）

(1) 子育てを主に行っている人（2頁）【☒・☐】

(2) 充実してほしい子育て支援サービス（3・4頁）【☒・☐】

(3) 保育園等における保育サービスで特に充実してほしいもの（5・6頁）【☒・☐】

(4) 配慮が必要な子どもへの区の支援事業の認知度（7・8頁）【☒・☐】

(5) 保護者の就労状況（9・10頁）【☒・☐】

(6) 定期的に利用している施設・事業の類型（11・12頁）【☒】

(7) 「こども誰でも通園制度」の利用希望等（13頁）【☒】

(8) 定期的に利用したい施設・事業の類型（14頁）【☒】

(9) どのようなサービスがあれば区立幼稚園を利用したくなるか（15頁）【☒】

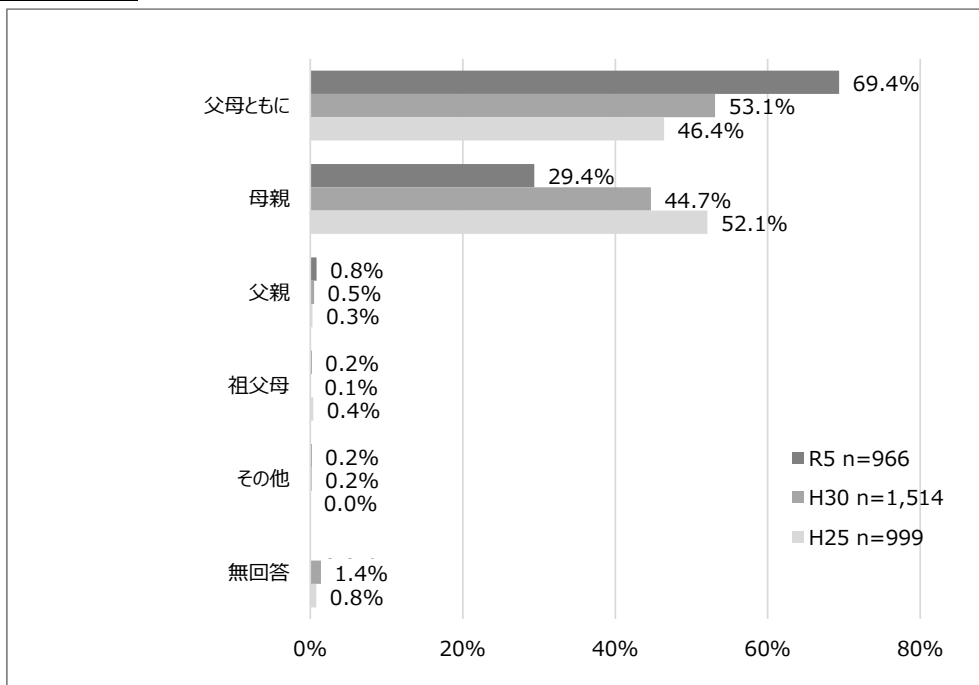
(10) 病児保育事業のニーズ（16～19頁）【☒】

(11) 子育て支援事業の小学生保護者の認知度・利用意向（20・21頁）【☐】

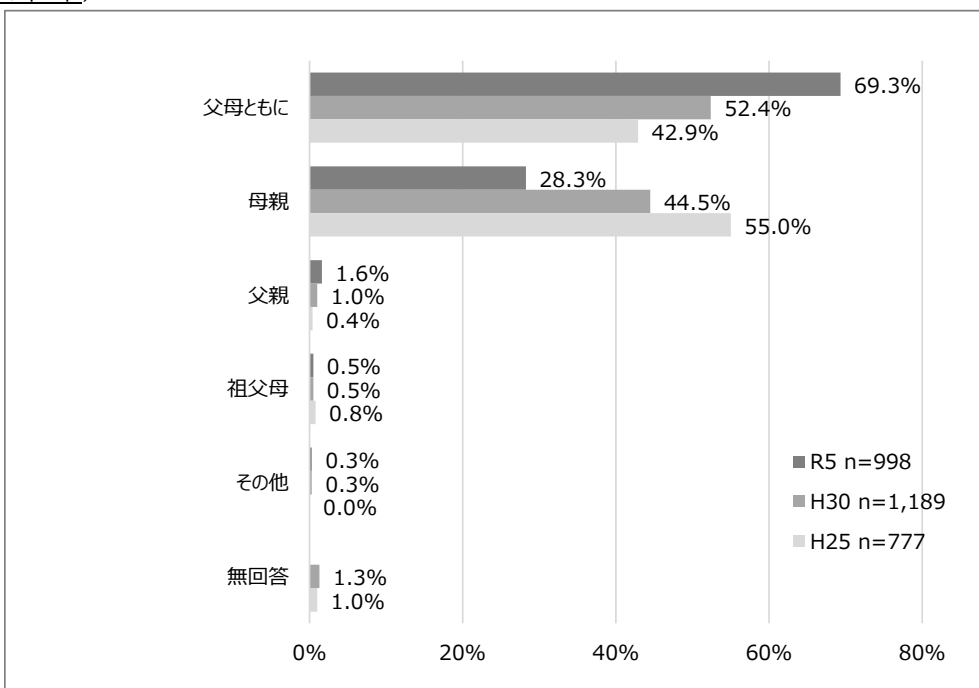
(12) 放課後の時間の過ごし方（22頁）【☐】

◆ 調査を経るごとに、子育てを主に行っている人を「母親」と答える保護者の割合が減少し、「父母ともに」と答える保護者の割合が増加している。

【AQ6】【BQ7】子育てを主に行っている人
(未就学児がいる世帯)

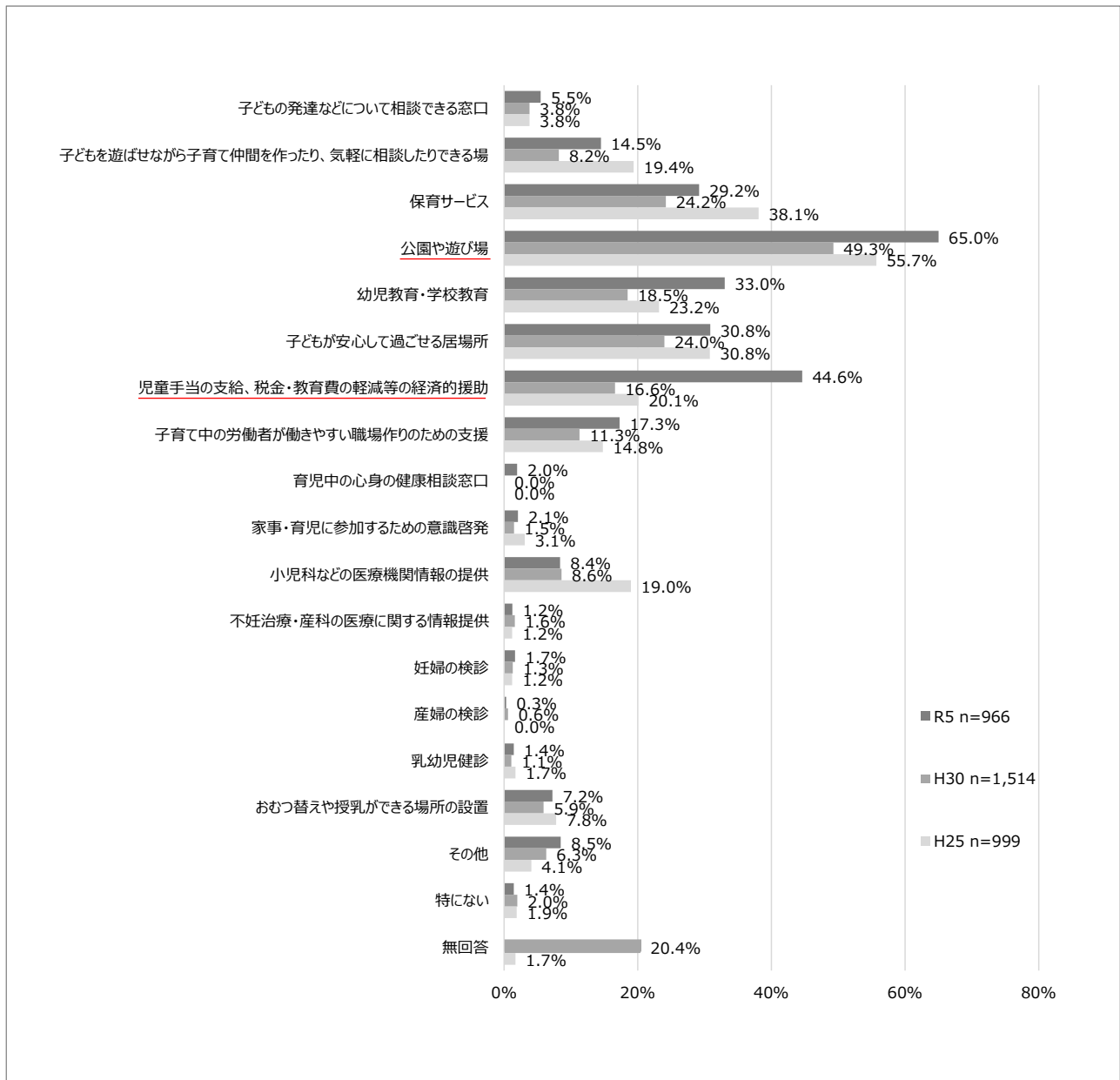


(小学生のみ世帯)

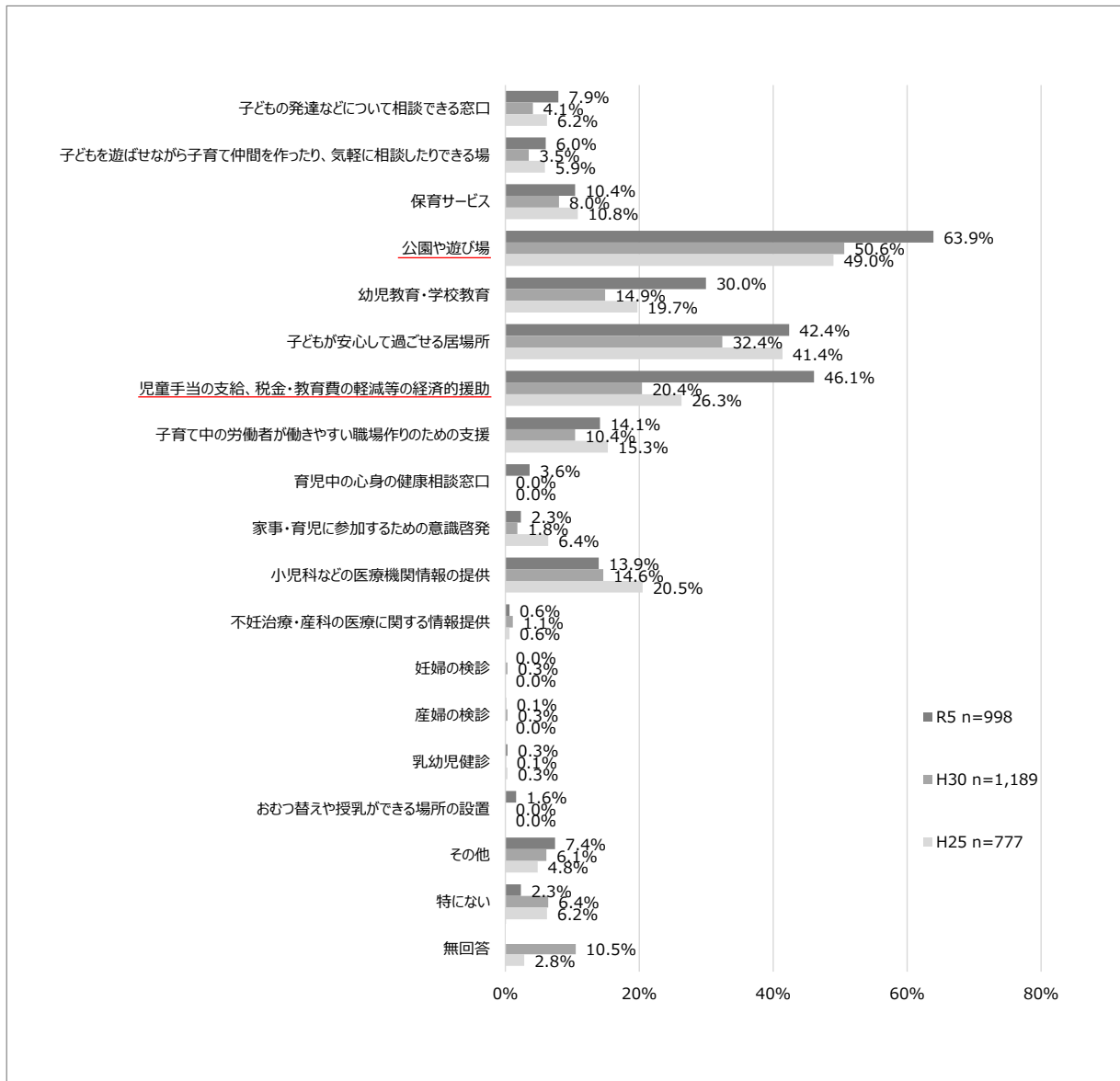


- ◆ 充実してほしい子育て支援サービスとして「公園や遊び場」を挙げる保護者の割合が、H30 調査及び H25 調査と同様、最も高い。
- ◆ 「児童手当の支給、税金・教育費の軽減等の経済的援助」が約 45%と、これまでの調査にはみられなかった高い割合になっている。近年、今年 10 月に予定されている児童手当制度の改正に関する議論が報道等において頻繁に取り上げられ、現在に至るまでこれに関連した国民負担の在り方等の議論が続いていることが一因と推察される。

【AQ9】【BQ10】充実してほしい子育て支援サービス【3つまで回答】
(未就学児がいる世帯)



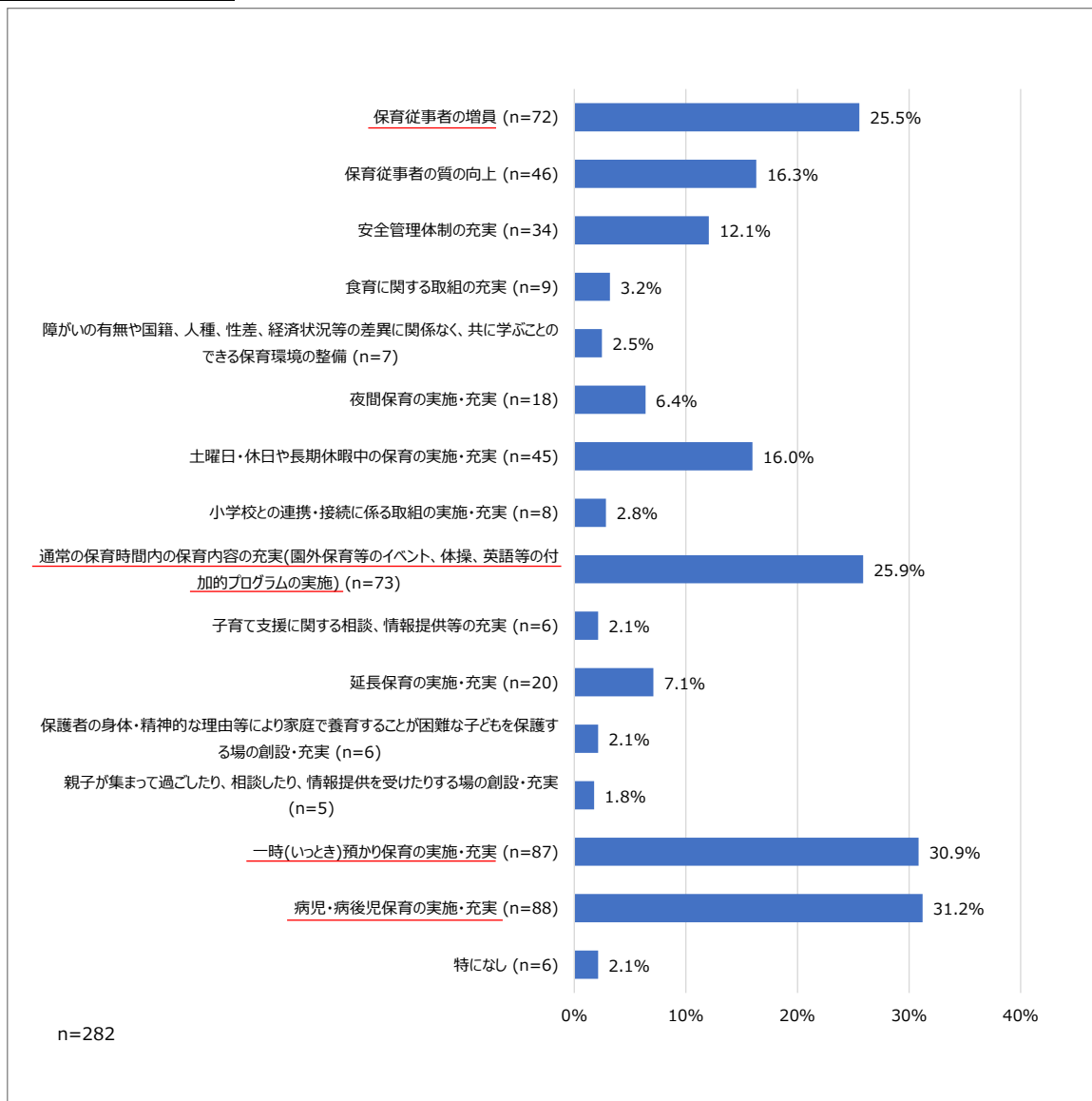
(小学生のみ世帯)



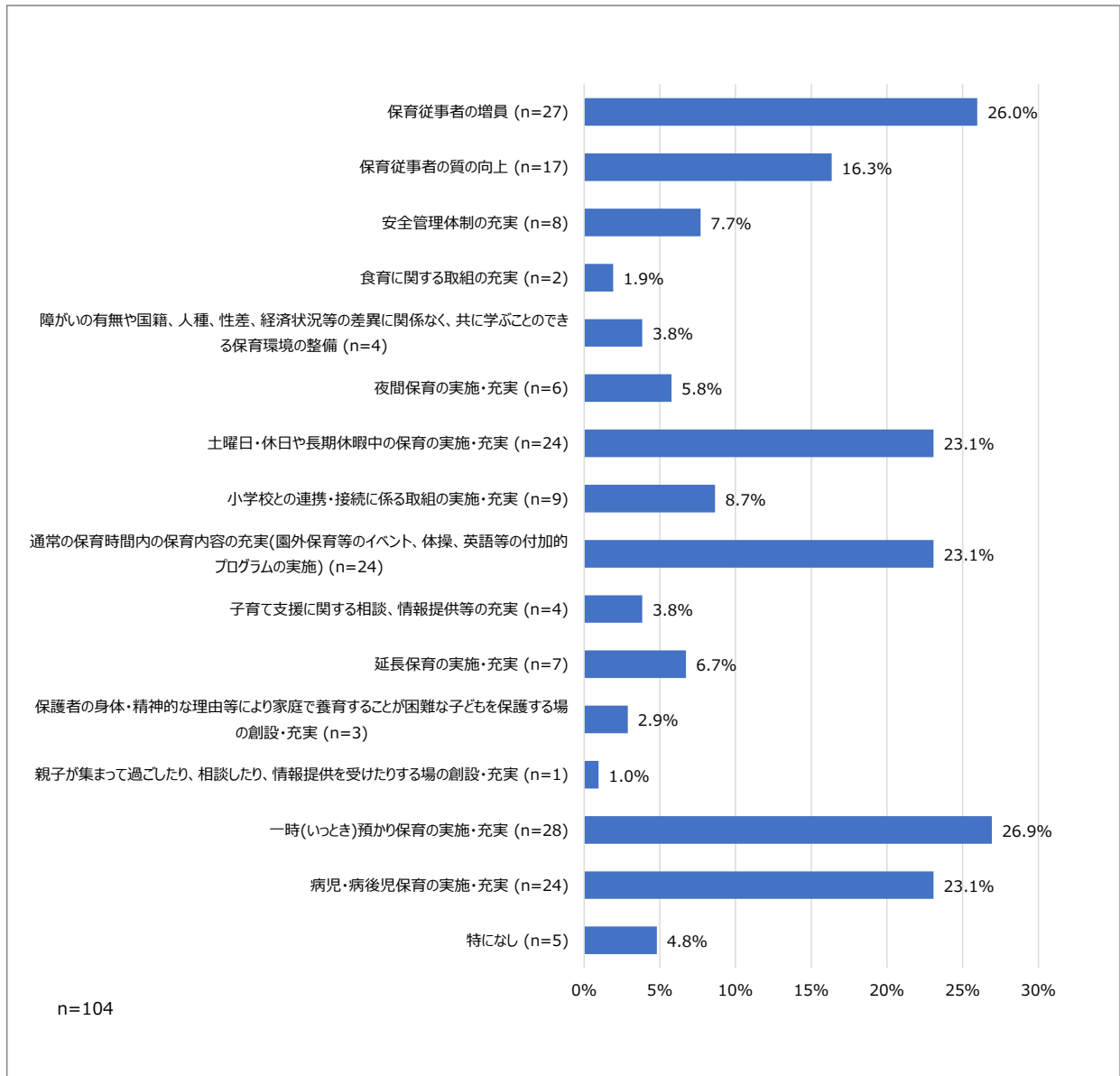
新規

- ◆ 【AQ9_1】【BQ10_1】は、保育の量の確保という目下の課題が一区切りを迎えた現在、保育園等の物的、人的な余剰資源等の活用方法の議論において、保育の「質」の意味が多義的になりやすいことを踏まえ、保育の「量以外の部分」について区民ニーズはどこにあるのかを明らかにする観点から、今回調査において初めて本区独自に設けた設問である。
- ◆ 選択肢については、大きく①「保育所等の機能拡充（例：病児保育の実施等）」、②「狭義の保育の質の充実（例：保育従事者の増員、付加的プログラムの実施等）」に分け、①と②のそれぞれについて細分化した選択肢を設け、区民ニーズの強弱を明確にするため、回答数を2つまでに制限した。
- ◆ 保育園等における保育サービスで特に充実してほしいと思うものについては、「病児・病後児保育の実施・充実」が31.2%（未就学児がいる世帯。以下同じ。）と最も多く、次に「一時（いっとき）預かり保育の実施・充実」が30.9%となっている。一方で、付加的プログラムの実施を求める割合も25.9%と高い。
- ◆ 保育従事者の増員を求める割合も25.5%と高い。なお、令和6年4月1日に保育士等の最低配置基準が改正され、現在移行期間中。

【AQ9_1】【BQ10_1】保育園等における保育サービスで特に充実してほしいと思うもの【2つまで回答】
（未就学児がいる世帯）



(小学生のみ世帯)



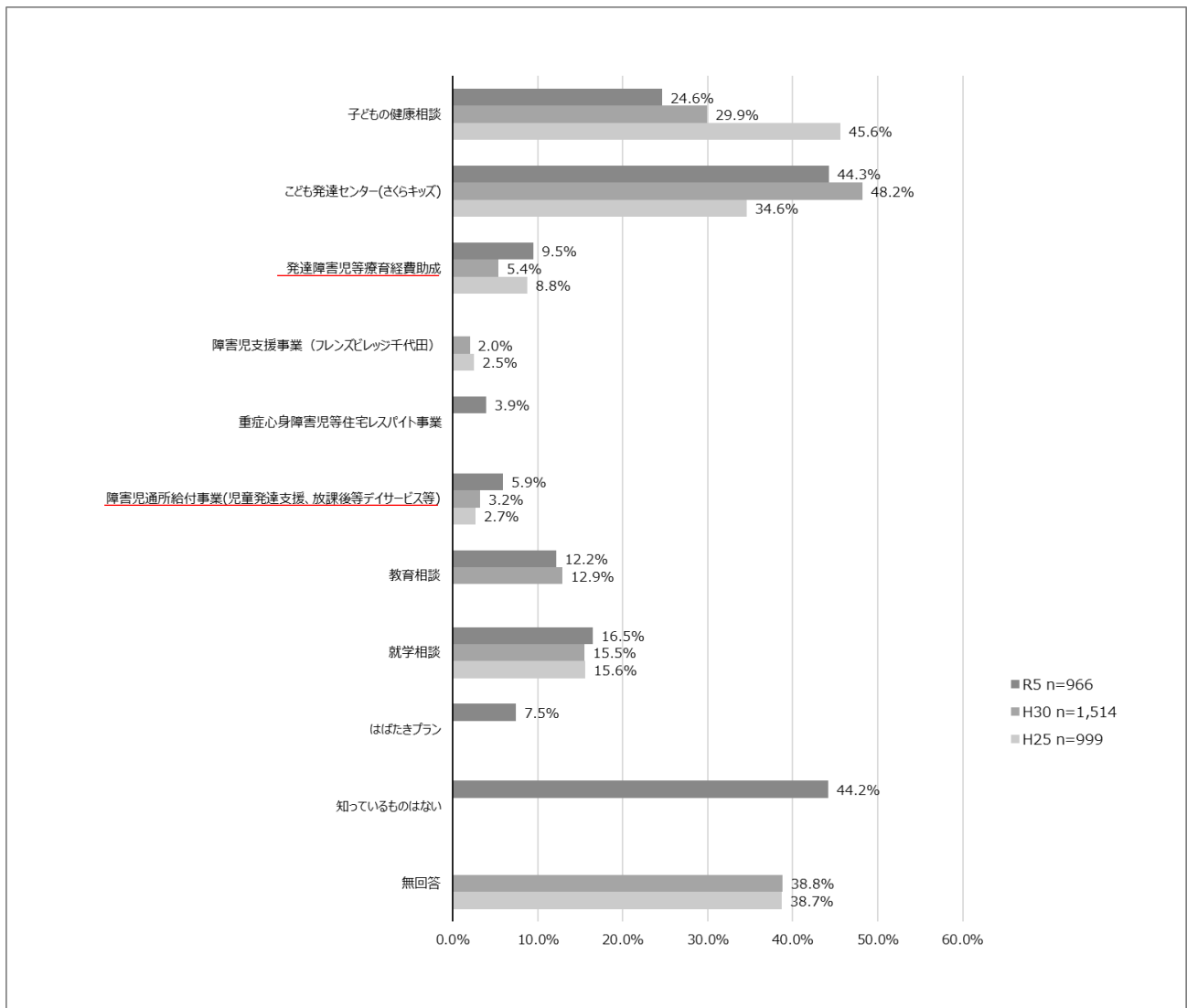
◆ 発達障害児等療育経費助成と障害児通所給付事業の認知度が、未就学児の保護者と小学生の保護者のいずれについても H30 調査から上昇している。

【AQ12】【BQ13】配慮が必要な子どもへの区の支援事業の認知度

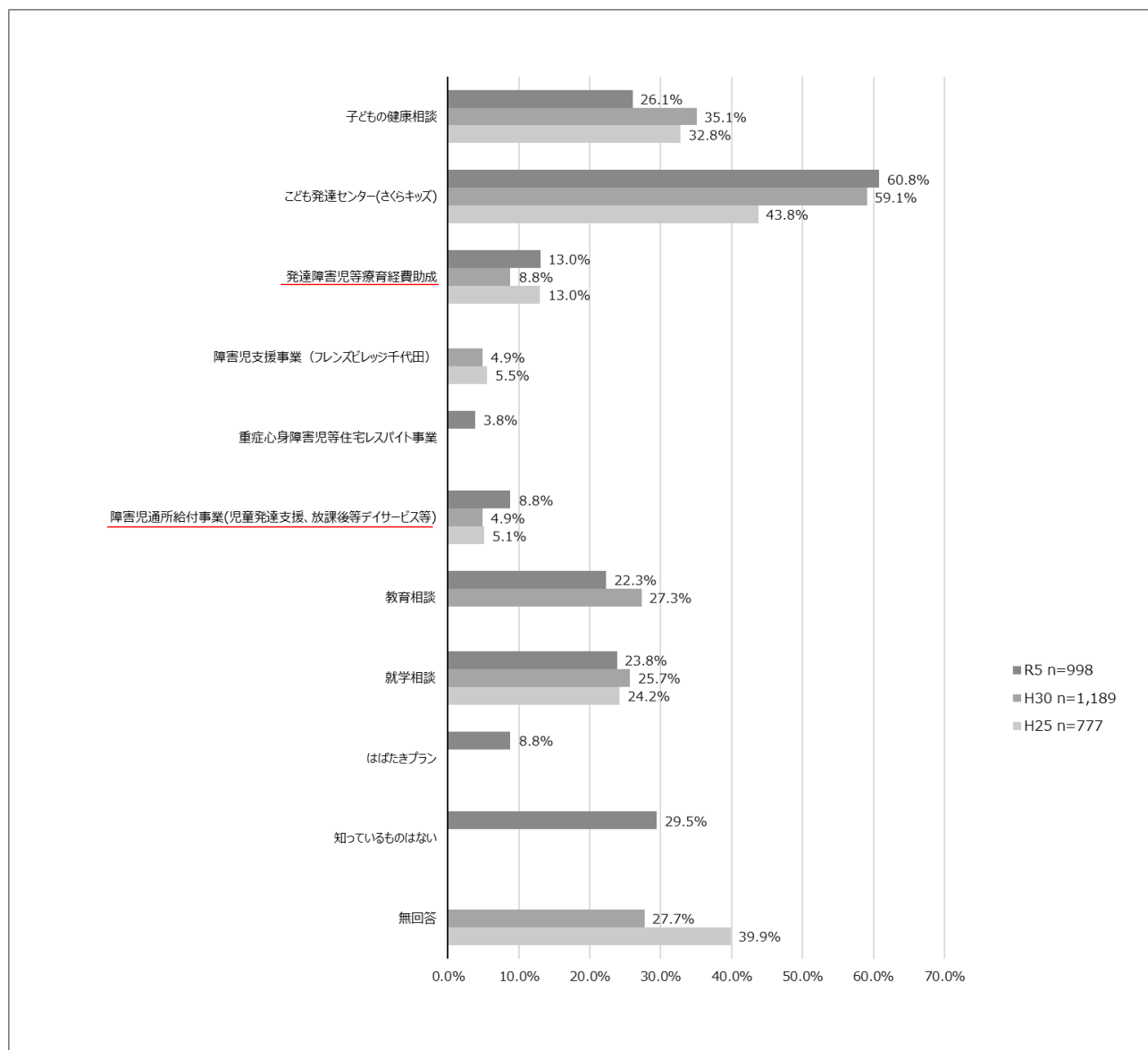
※ 「重症心身障害児等住宅レスパイト事業」「はばたきプラン」「知っているものはない」は今回調査から、「教育相談」は H30 調査から追加。

※ 「障害児支援事業（フレンズビレッジ千代田）」は、「こども発達センター（さくらキッズ）」の一部であるため、今回調査から削除。

（未就学児がいる世帯）

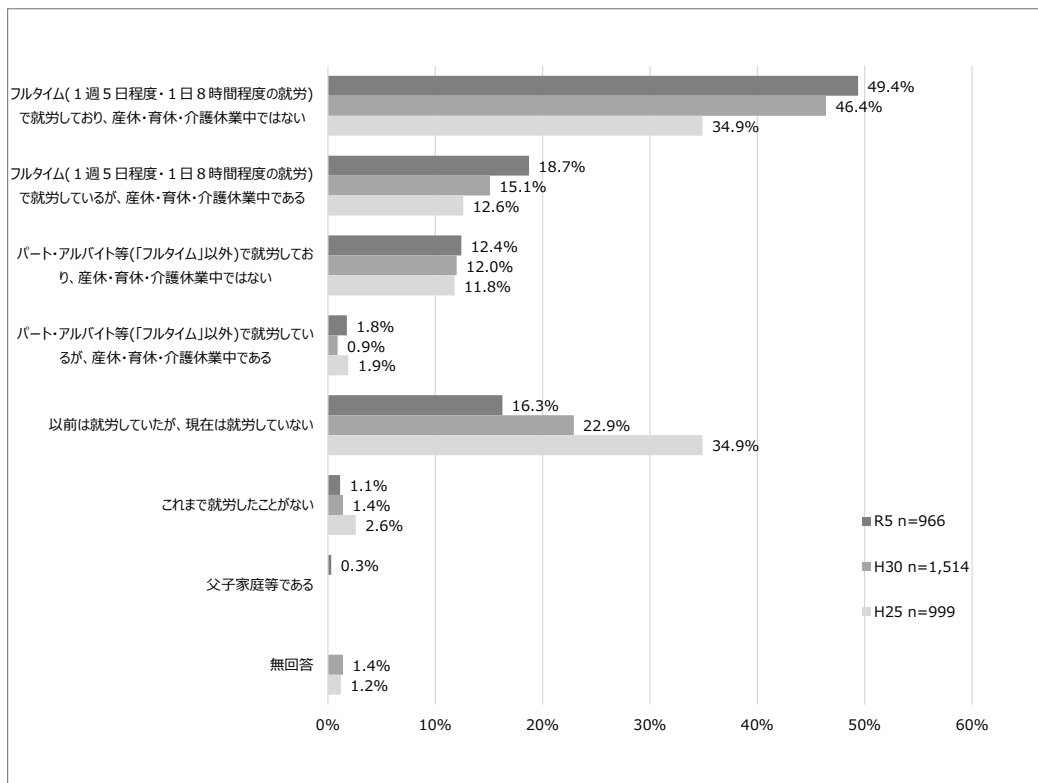


(小学生のみ世帯)

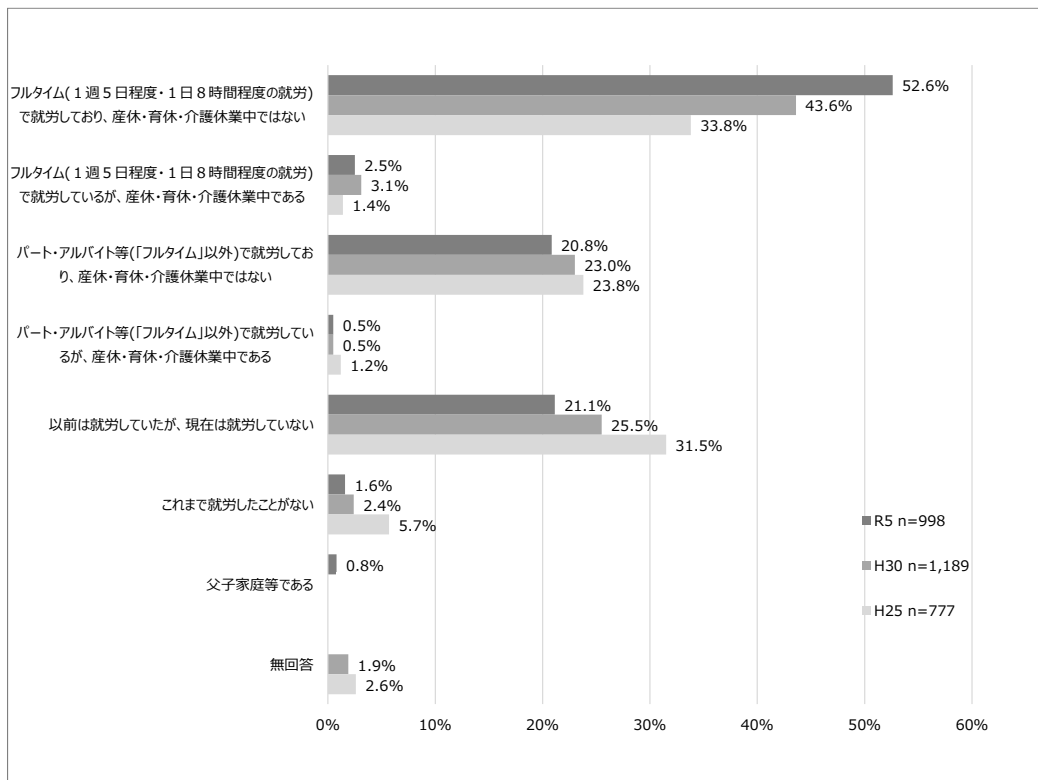


◆ 調査を経るごとに、母親、父親の両方について、就労者がフルタイムを中心に増加している。

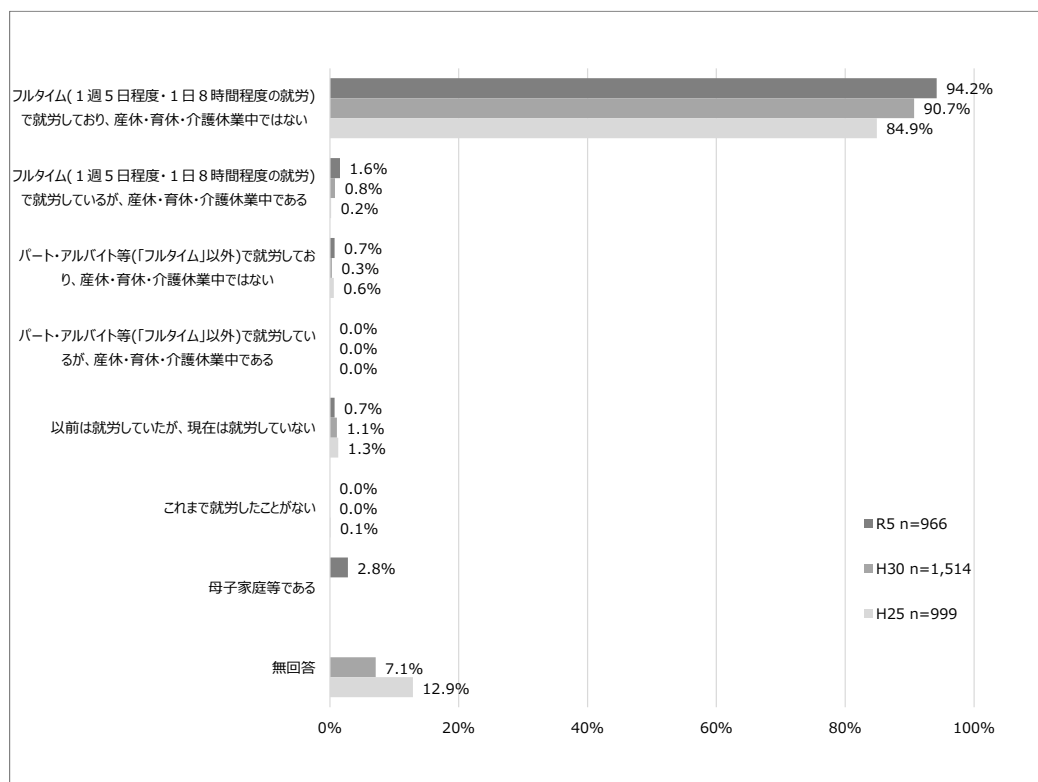
【AQ13】【BQ14】保護者の就労状況（母親） ※「父子家庭等である」は、今回調査から追加。
（未就学児がいる世帯）



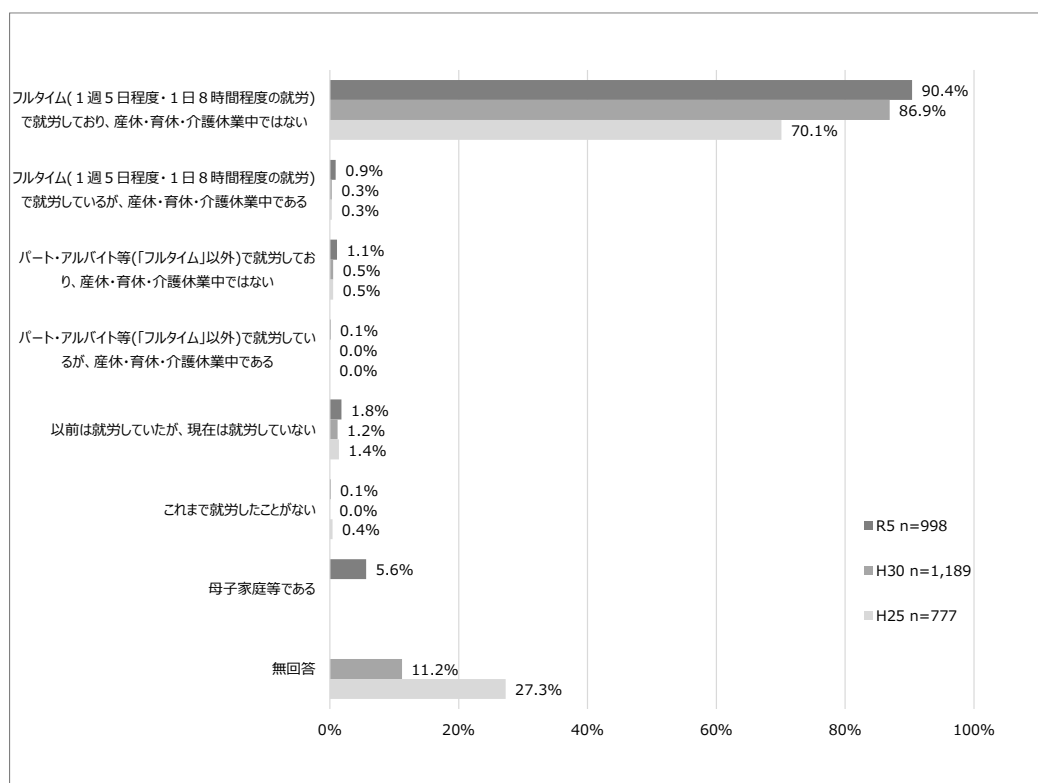
（小学生のみ世帯）



【AQ14】【BQ15】保護者の就労状況（父親） ※「母子家庭等である」は、今回調査から追加。
 （未就学児がいる世帯）

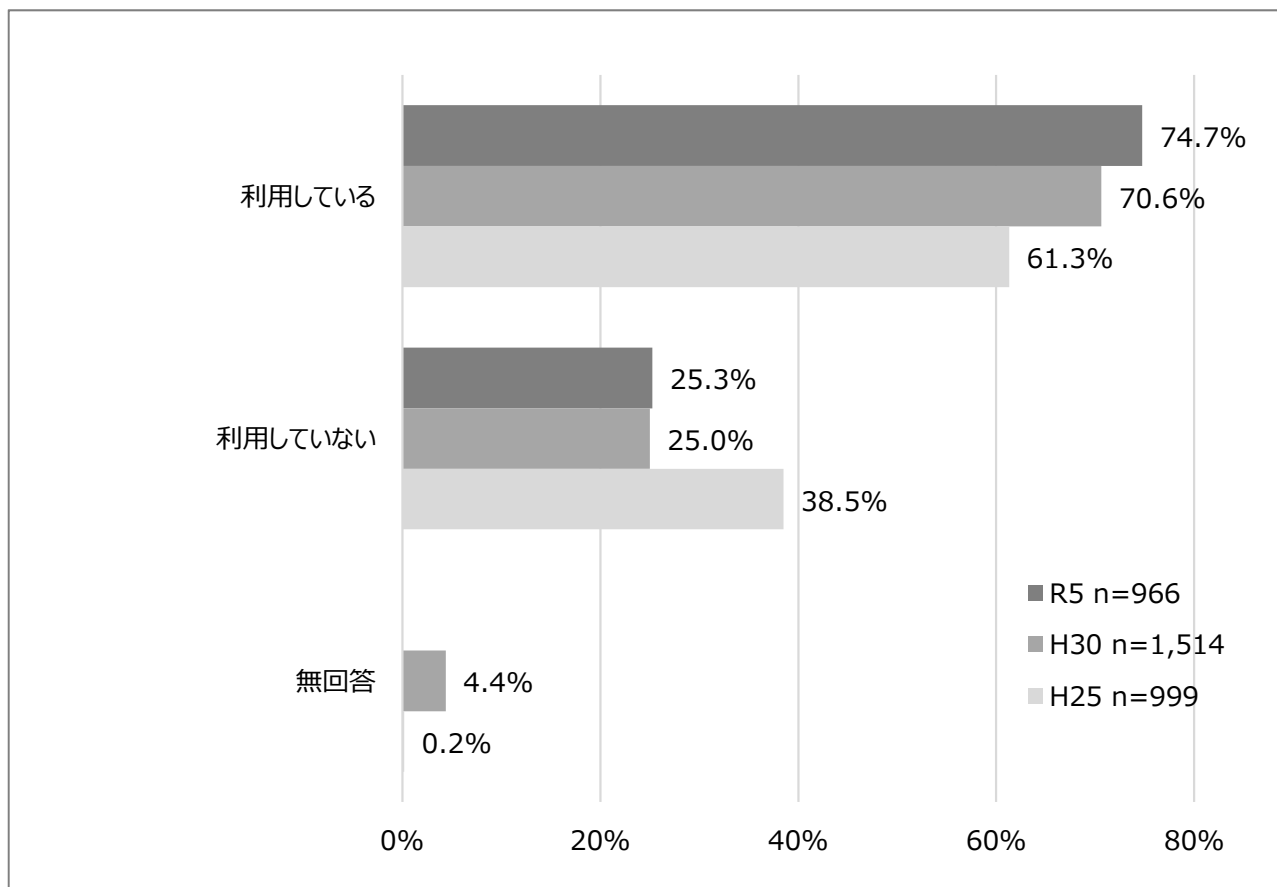


（小学生のみ世帯）



- ◆ 調査を経るごとに、施設・事業の定期的利用者の割合は増加している。
- ◆ H30 調査との比較において、保育園の定期的利用者の割合は区立、私立ともに増加している一方で、幼稚園を定期的利用者の割合は、H30 調査の割合 15.6%から 10.4%（私立 2.6%＋区立 7.8%）に減少している。

【AQ19】 幼稚園や保育園などの施設・事業の定期的利用の有無



【AQ19_1】定期的に利用している施設・事業【複数回答】

(AQ19で「1. 利用している」を選択した保護者が回答)

※「私立幼稚園」「区立幼稚園」は、H30調査までは「幼稚園」という選択肢のみ。

※「区立幼稚園(長時間保育)」「区立幼稚園の預かり保育」は、H30調査までは「幼稚園(長時間保育)」「幼稚園の預かり保育」として選択肢を設けている。

※「企業主導型保育事業」は今回調査から、「私立認定こども園」「小規模保育事業」「居宅訪問型保育事業」「区補助対象保育室・区緊急保育施設」「子ども発達支援センター」「子育てひろば」「あい・ぽーと」麹町の一時預かり保育」はH30調査から追加。

※「保育園・こども園の一時保育」は、定期的利用を予定した事業ではないため、今回調査から削除。

※ 各選択肢に付した例示を H30 調査及び H25 調査よりも詳細に記載した。

(例：H30 調査「認可外保育施設(例 ベビーホテル等)」→今回調査「認可外保育施設(インターナショナルスクール、ベビーホテル等)」)。

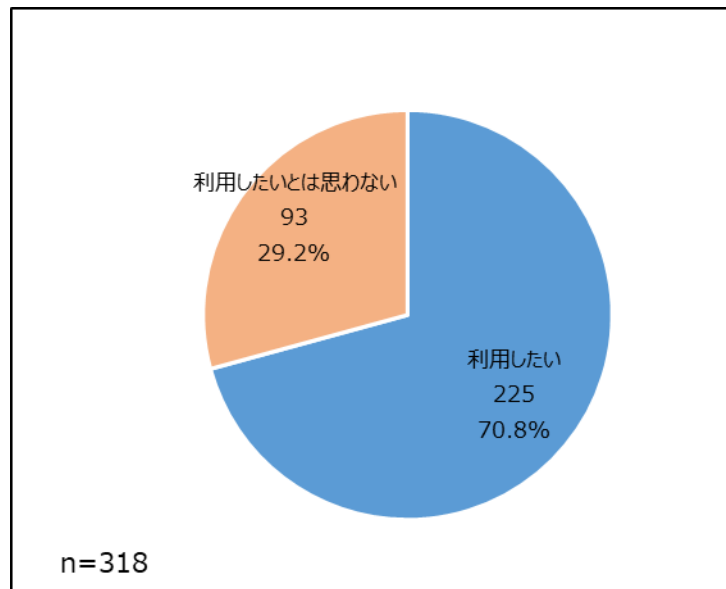


新規

- ◆ 保育園、認定こども園、地域型保育事業の定期的利用のない3歳未満児については、70.8%の保護者が「こども誰でも通園制度」の利用を希望している。

【AQ19_2】「こども誰でも通園制度」の利用希望

(幼稚園、保育園等（認可外保育施設等を除く。）の定期的利用がないと答えた保護者が回答)
(3歳未満児がいる世帯)



(参考)【需要量の見込み(概算)】(利用枠(②)を月10時間と仮定)

	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
① 0～2歳の未就園児数(人)	672	673	675	677	680
② ひと月当たりの受け入れ時間数(時間)	10	10	10	10	10
③ 定員1人当たりの受け入れ可能時間数(時間)	176	176	176	176	176
必要定員(人) (①×②÷③)	38	38	38	38	39

◆ H30 調査との比較において、多くの施設・事業の類型について定期利用希望者の割合が減少しているなか、その他認可外保育施設の定期利用希望者の割合が H30 調査時 3.2%から 14.1%へと大きく増加しているほか、居宅訪問型保育事業やベビーシッターの定期利用希望者の割合も増加している。

【AQ19_15】平日に「定期的に」利用したい施設・事業【複数回答】

※「私立幼稚園」「区立幼稚園」は、H30 調査までは「幼稚園」という選択肢のみ。

※「区立幼稚園（長時間保育）」「区立幼稚園の預かり保育」は、H30 調査までは「幼稚園（長時間保育）」「幼稚園の預かり保育」として選択肢を設けている。

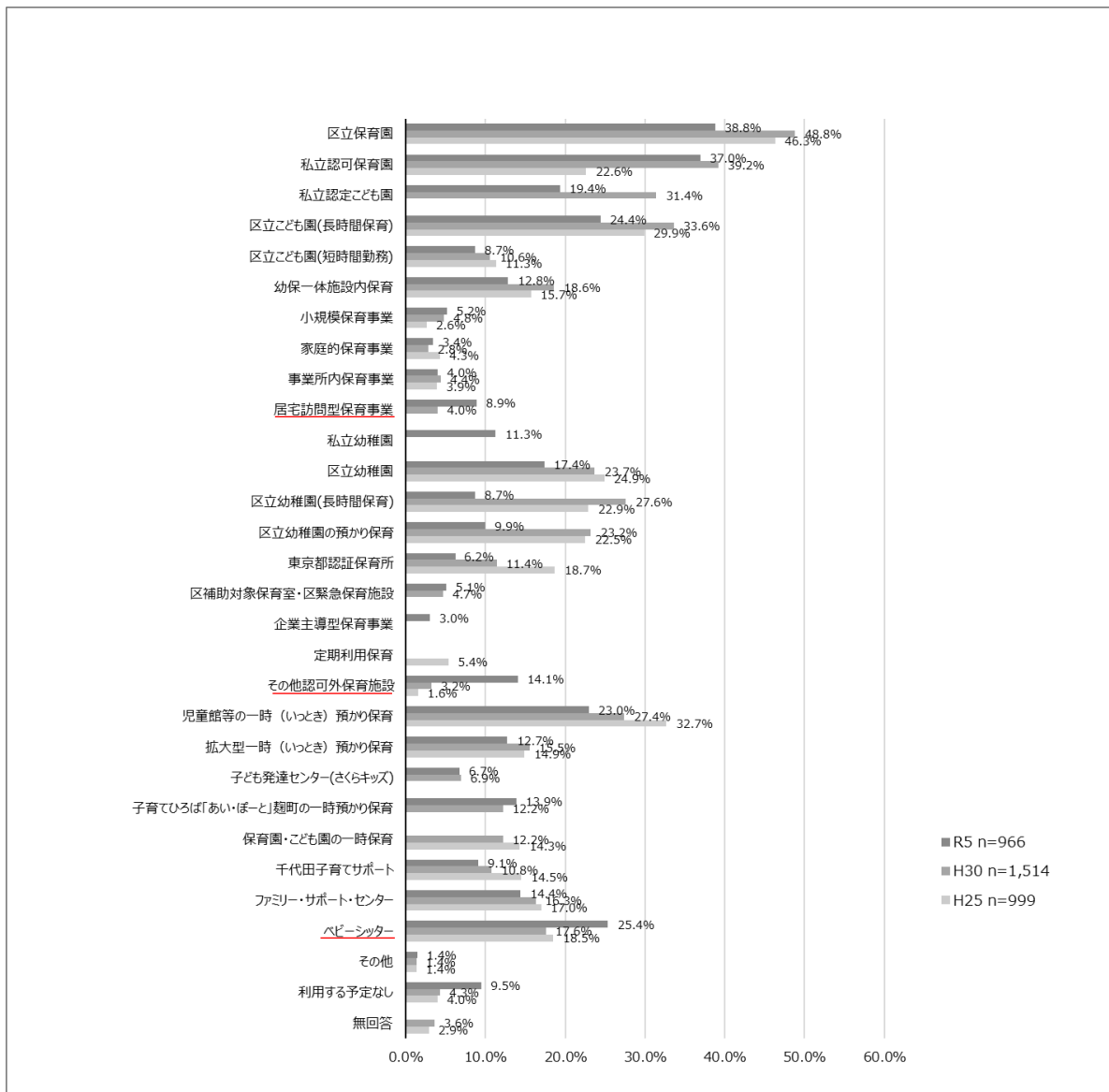
※「企業主導型保育事業」は今回調査から、「私立認定こども園」「小規模保育事業」「居宅訪問型保育事業」「区補助対象保育室・区緊急保育施設」「子ども発達支援センター」「子育てひろば」「あい・ぼーと」麹町の一時的預かり保育」は H30 調査から追加。

※「保育園・こども園の一時保育」は、定期的利用を予定した事業ではないため、今回調査から削除。

※「定期利用保育」（週 1 ～ 3 日程度の定期的な保育サービスの利用）は、H30 調査から削除。

※ 各選択肢に付した例示を H30 調査及び H25 調査よりも詳細に記載した。

（例：H30 調査「認可外保育施設（例 ベビーホテル等）」→今回調査「認可外保育施設（インターナショナルスクール、ベビーホテル等）」）。

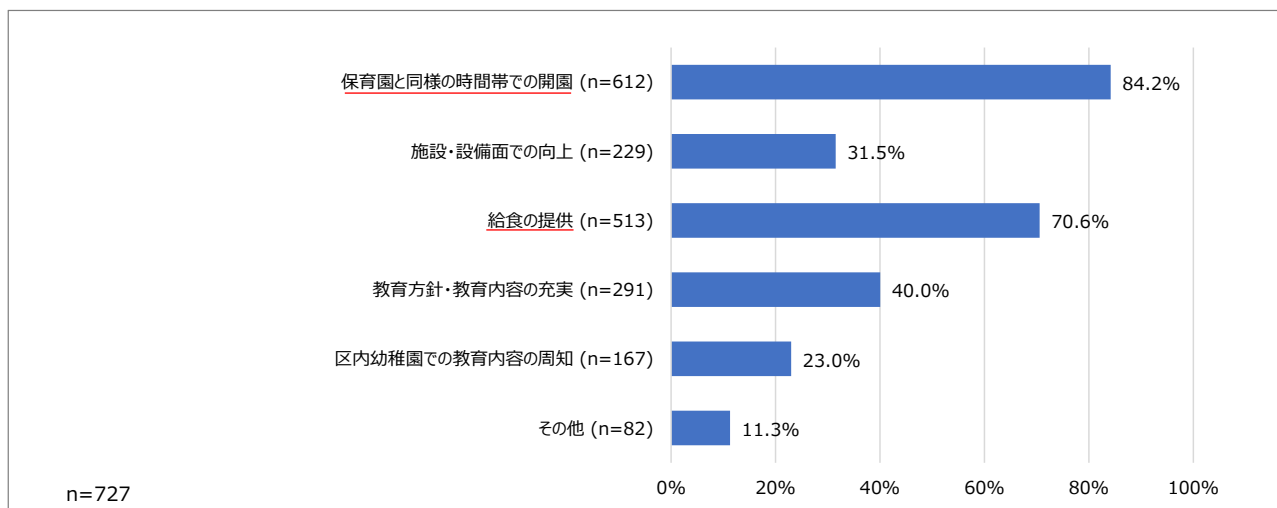


新規

- ◆ 【AQ19_16】は、定員充足率が低迷する区立幼稚園の運営の改善等を検討する観点から、今回調査において初めて本区独自に設けた設問である。
- ◆ どのようなサービスがあれば区立幼稚園を利用したいかという設問に対し、「保育園と同様の時間帯での開園」を求める割合が84.2%と最も高い。両親フルタイムでの共働き世帯等が年々増加していることから、開園時間が短い施設はそもそも入園を検討する対象にならない実態が浮かび上がっている。
- ◆ 「給食の提供」を求める割合も70.6%と高く、保育園よりも開園時間が短いという問題を解決することに加え、給食の提供を行うことによって初めて区立幼稚園の利用を検討することができる家庭環境が多く存在することが背景にあるものと推察される。

【AQ19_16】どのようなサービスがあれば区立幼稚園を利用したいか【複数回答】

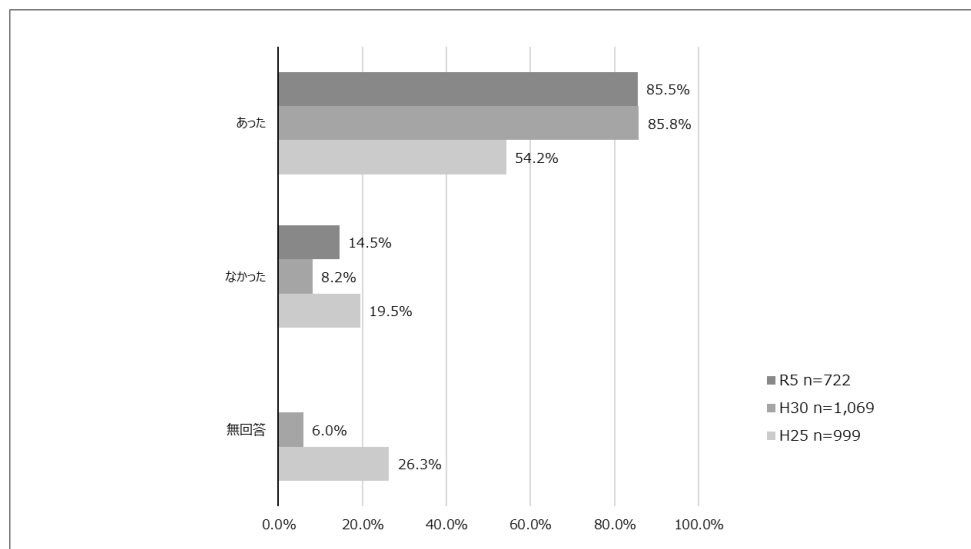
(平日定期的に利用したい施設・事業として「12. 区立幼稚園」「13. 区立幼稚園(長時間保育)」のいずれも選ばなかった保護者が回答)



一部新規

- ◆ 病児保育の事業形態として「保育園や幼稚園などに併設した施設で子供を預かる事業」や「小児科に併設した施設で子どもを預かる事業」が望ましいとする割合が、いずれも 70%（未就学児がいる世帯。以下同じ。）を超える。
- ◆ H30 調査との比較において、病児の看病に当たって仕事を休んで対応した割合は、父母ともに増加しており、その日数も増加している。
- ◆ 現在、区内に「病児」（回復期に至らない児童や感染症に罹患した児童）を対象とした病児保育事業は、令和 6 年 4 月 1 日に開始した 1 事業（定員 3 名）のみであるが、回復期に至らない段階においても病児保育を利用したい割合は 47.7%、感染症に罹患した場合においても病児保育を利用したい割合は 74.6% と高い。

【AQ27】この 1 年間で、病気やケガで保育園や幼稚園などに通えなかったことはあるか
(幼稚園や保育園などを利用している保護者が回答)



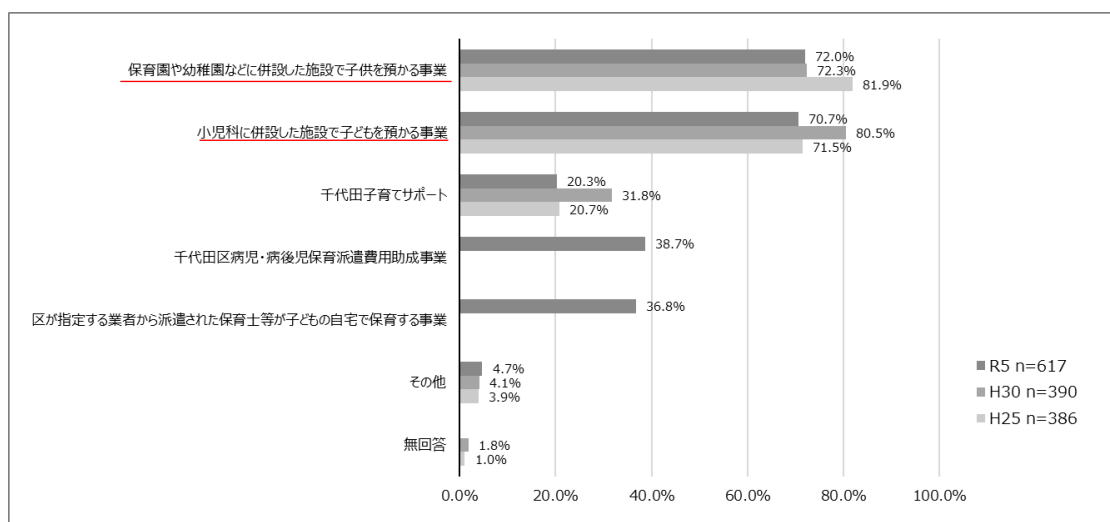
【AQ27_1】病気やケガの子どもを預ける場合の望ましい事業形態【複数回答】

(AQ27 で「1. あった」を選択した保護者が回答)

※ H30 調査のみ「病後児保育」の利用希望者が回答対象外。

※ H25 調査の集計結果は今回調査の集計方法に合わせて改めて算出したもの。

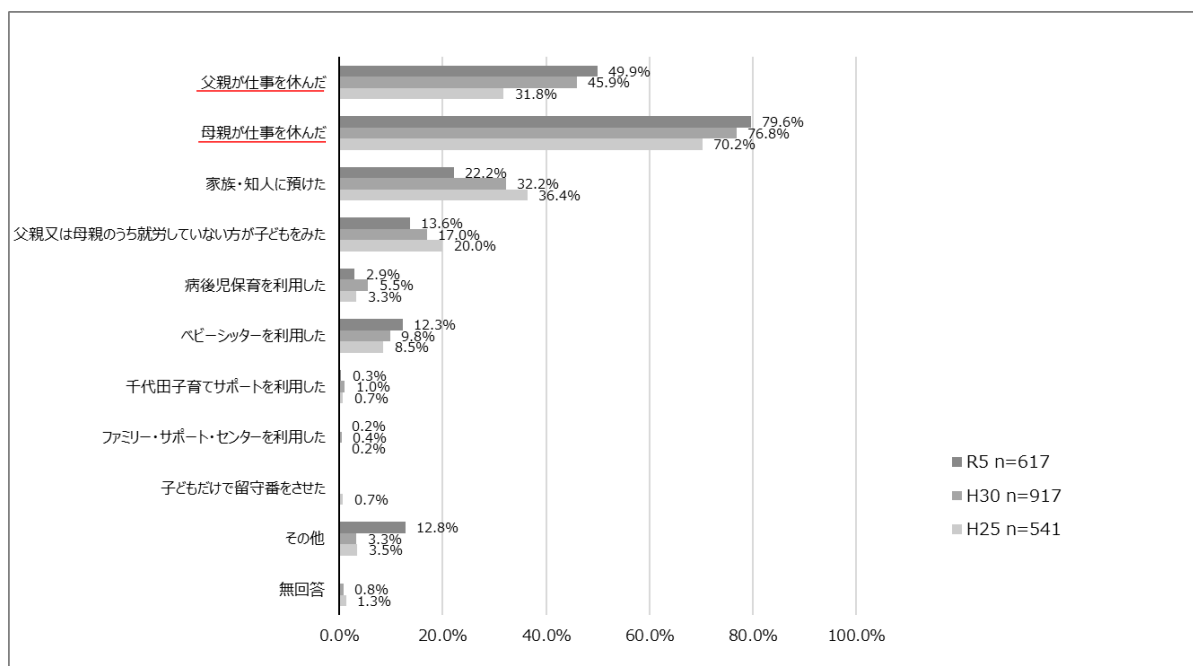
※「千代田区病児・病後児保育派遣費用助成事業」「区が指定する業者から派遣された保育士等が子どもの自宅で保育する事業」は、今回調査から追加。



【AQ27_2】病気やケガで保育園、幼稚園等が利用できなかったときの対応【複数回答】

(AQ27で「1. あった」を選択した保護者が回答)

※ 「子どもだけで留守番をさせた」は、H30 調査から削除。



・対処方法別平均日数（年間）

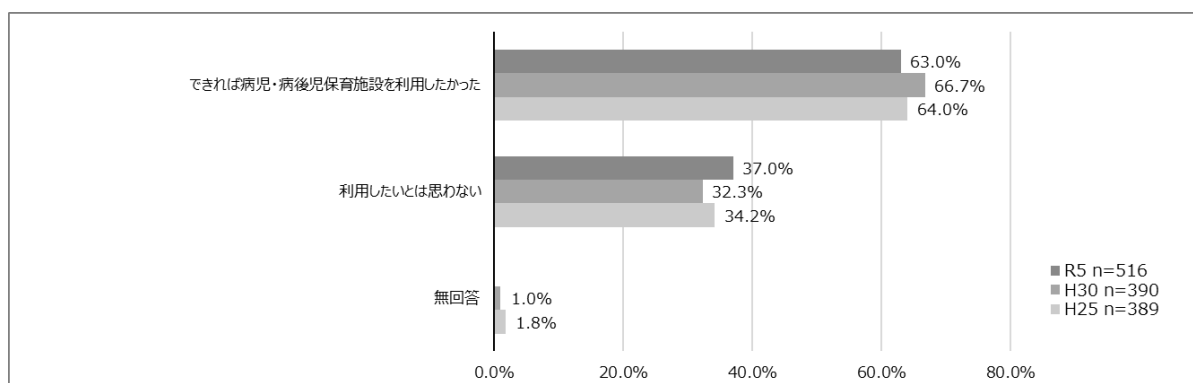
	平均日数		
	R5	H30	H25
父親が仕事を休んだ	5.4	4.3	3.6
母親が仕事を休んだ	10.3	7.2	7.2
家族・知人に預けた	8.7	5.9	7.0
父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	11.6	7.2	8.1
病後児保育を利用した	4.3	3.4	4.2
ベビーシッターを利用した	8.7	5.8	6.1
千代田子育てサポートを利用した	2.5	2.6	4.3
ファミリー・サポート・センターを利用した	5.0	1.3	8.0
子どもだけで留守番をさせた	-	-	2.5
その他	8.4	8.3	6.1

【AQ27_3】病児・病後児のための保育サービスを利用したかったか

(AQ27_2で「1. 父親が仕事を休んだ」「2. 母親が仕事を休んだ」のいずれかを選択した保護者が回答)

※ H30 調査及び H25 調査については「できれば病児・病後児保育施設を利用したかった」に相当する選択肢が複数あったため、100%から「利用したいとは思わない」の割合と「無回答」の割合の合計を控除した割合を当該選択肢の割合として表示している。

※ H30 調査及び H25 調査における利用希望平均日数（年間）は、今回調査と比較が困難であるため未記載。



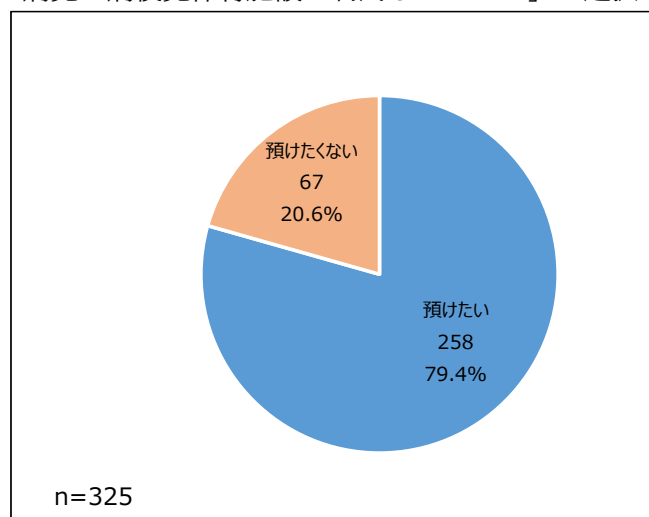
・利用希望平均日数（年間）

（AQ27_3で「1. できれば病児・病後児保育施設を利用したかった」を選択した保護者が回答）

	平均日数
できれば病児・病後児保育施設を利用したかった	12.3

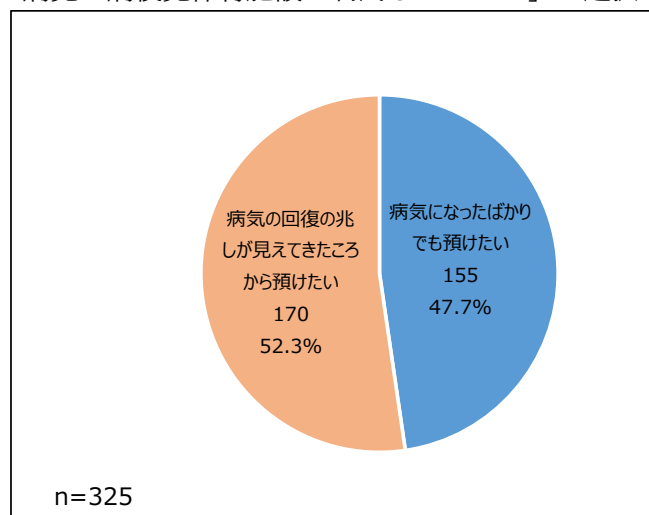
【AQ27_4】インフルエンザ、アデノ等の感染症に感染した場合に通園禁止期間中、施設に子どもを預けたいか

（AQ27_3で「1. できれば病児・病後児保育施設を利用したかった」を選択した保護者が回答）



【AQ27_5】子どもが感染症以外の病気やけがで保育園等が利用できない場合、どのような状態から子どもを預けたいか

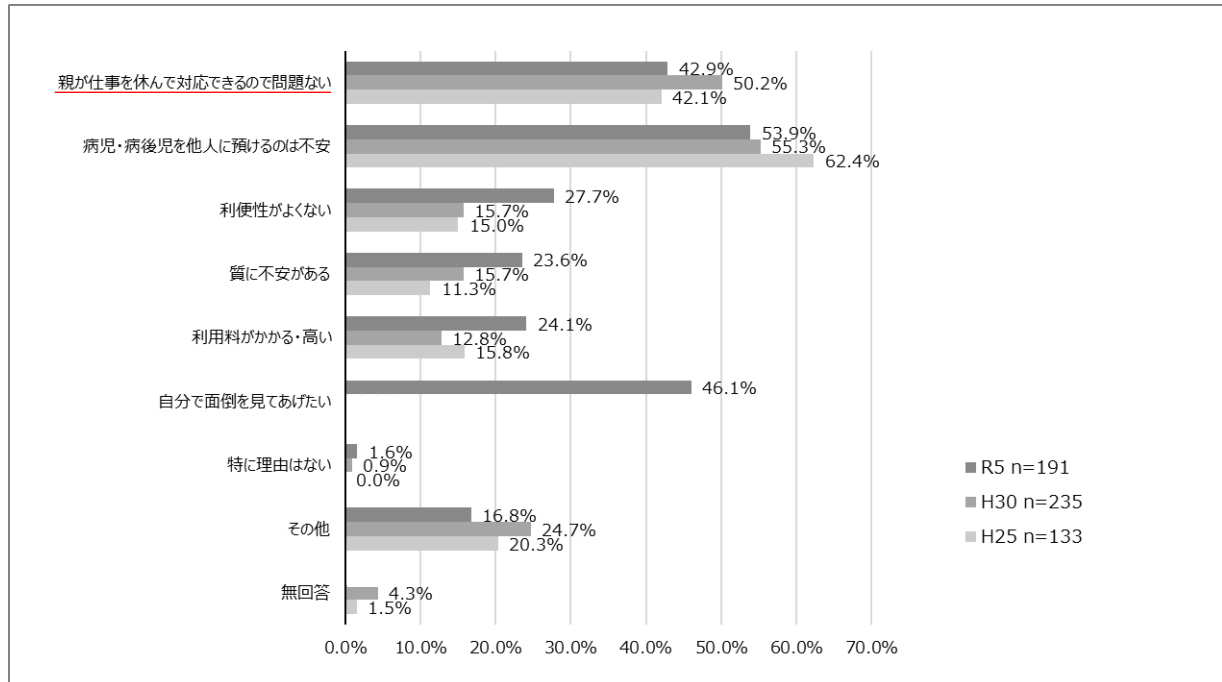
（AQ27_3で「1. できれば病児・病後児保育施設を利用したかった」を選択した保護者が回答）



【AQ27_6】病児・病後児のための保育サービスを利用したいとは思わなかった理由について【複数回答】

(AQ27_3で「2. 利用したいとは思わない」を選択した保護者が回答)

※ 「自分で面倒を見てあげたい」は、今回追加した選択肢。

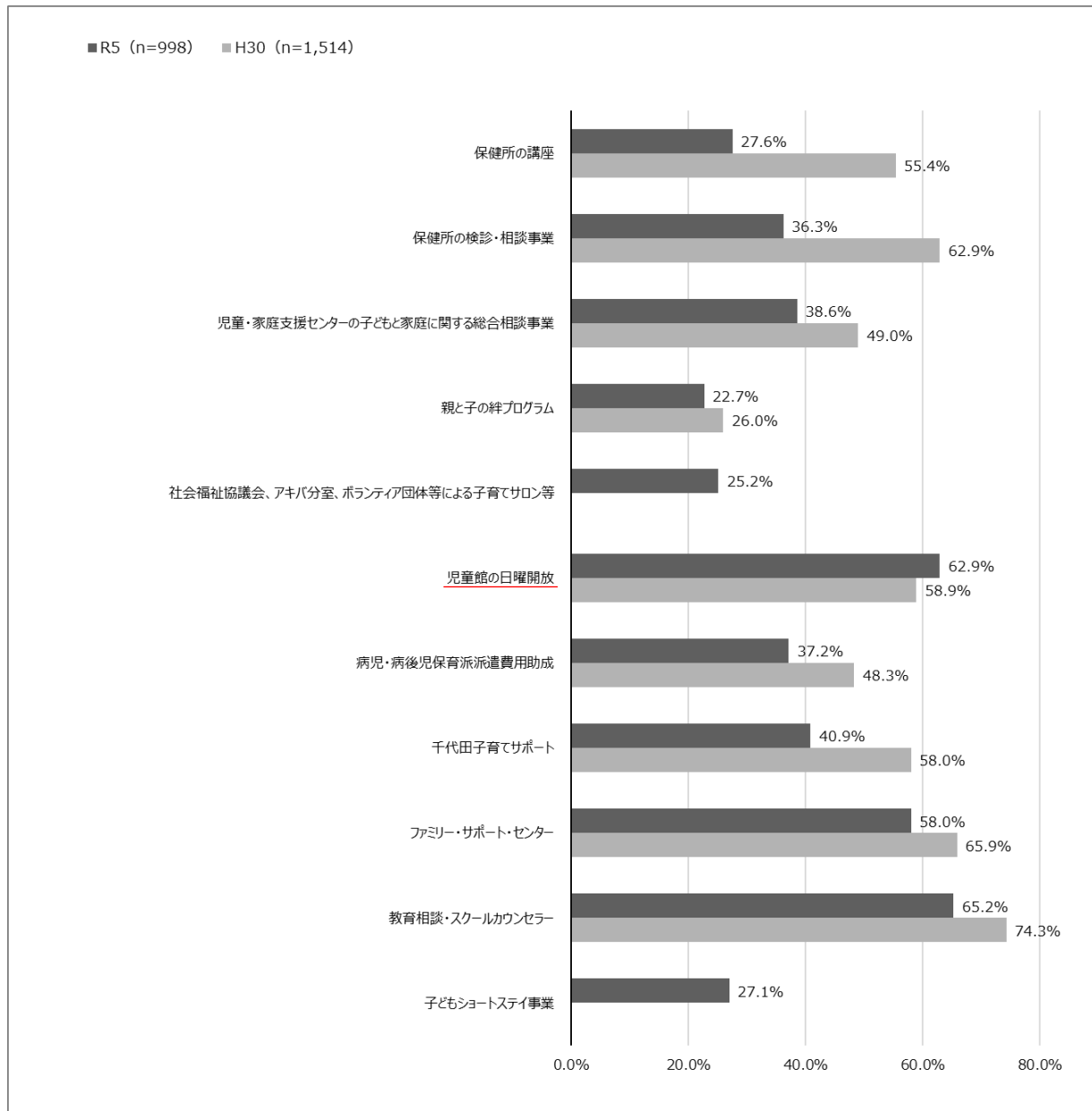


◆ 子育て支援事業の認知度や利用意向は全般的に低下しているなか、「児童館の日曜開放」の認知度や利用意向はいずれも上昇している。

【BQ20】小学生の保護者の子育て支援事業の認知度

※ H25 調査の類似設問は、選択肢の内容に大きな変更があり比較が困難であるため未記載。

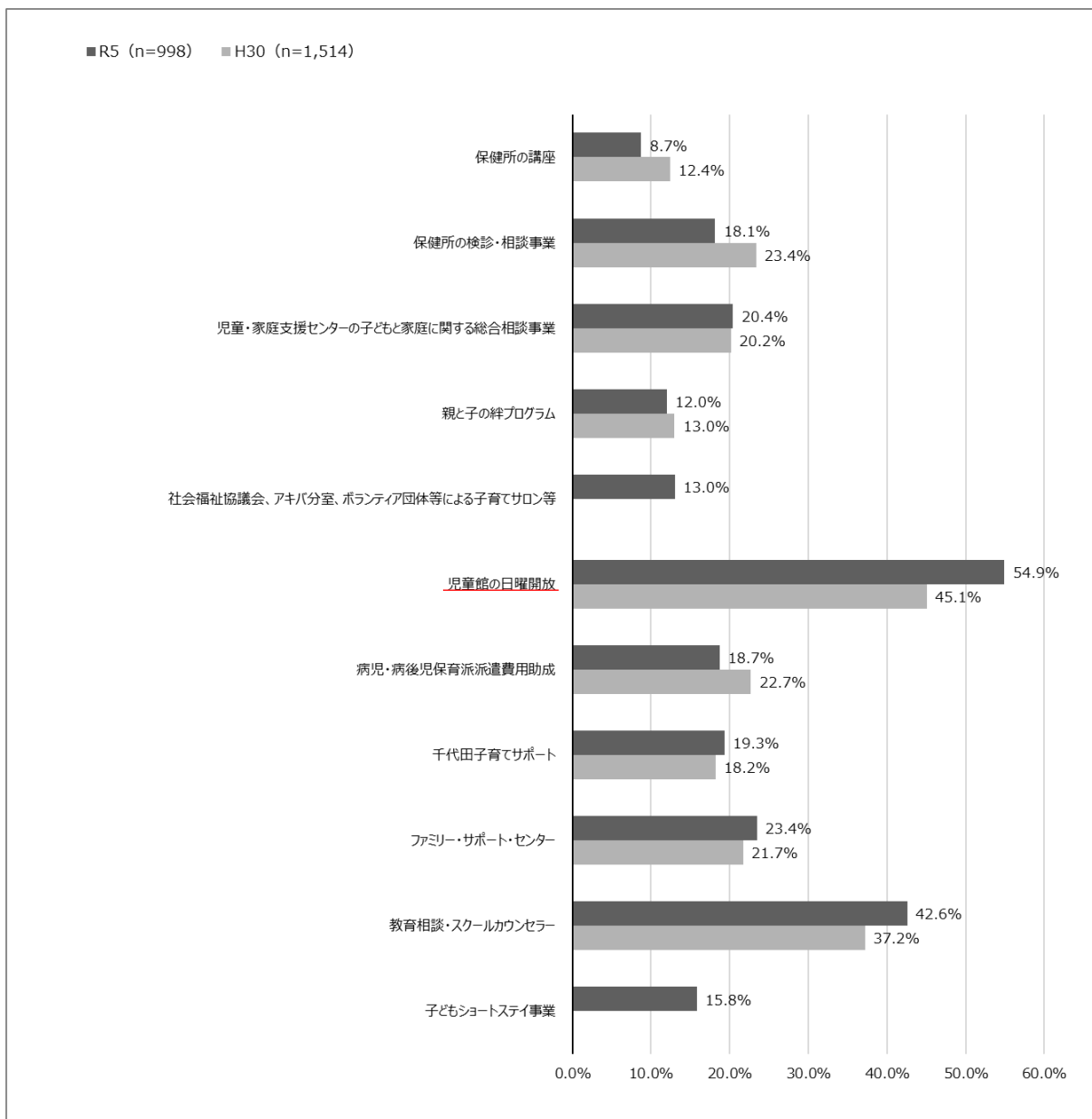
※ 「社会福祉協議会、アキバ分室、ボランティア団体等による子育てサロン等」「子どもショートステイ事業」は、今回調査で新たに設けたもの。



【BQ22】小学生の保護者の子育て支援事業の利用意向

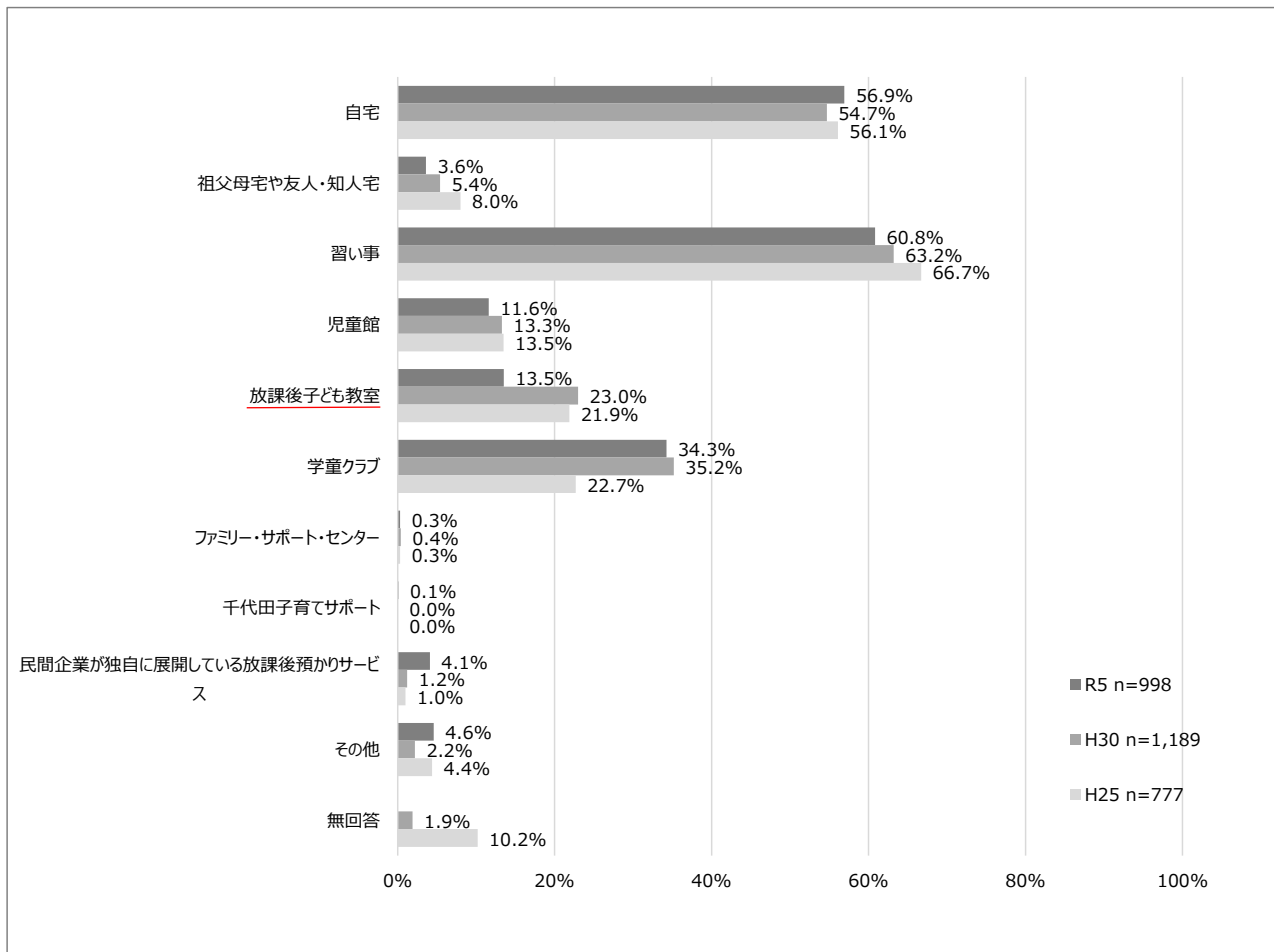
※ H25 調査の類似設問は、選択肢の内容に大きな変更があり比較が困難であるため未記載。

※ 「社会福祉協議会、アキバ分室、ボランティア団体等による子育てサロン等」「子どもショートステイ事業」は、今回調査で新たに設けたもの。



◆ 放課後の過ごし方について「放課後子ども教室」の割合がH30調査23.0%から13.5%へと大きく減少している。

【BQ29】放課後の時間の過ごし方について【複数回答】



・放課後の時間（週当たりの平均日数）

	平均日数		
	R5	H30	H25
自宅	3.2	3.1	3.0
祖父母宅や友人・知人宅	2.1	1.8	2.1
習い事	2.8	2.9	2.9
児童館	2.3	2.2	2.1
放課後子ども教室	2.5	2.4	2.1
学童クラブ	4.0	4.3	4.1
ファミリー・サポート・センター	2.3	1.4	1.0
千代田子育てサポート	1.0	0.0	0.0
民間企業が独自に展開している放課後預かりサービス	3.0	2.7	3.4
その他	2.6	2.4	2.4

令和6年度 学童クラブ学年別在籍状況（令和6年5月1日現在）

（単位：人）

	区立・児童館併設学童クラブ					学校内学童クラブ							私立学童クラブ										
		(昌平小)			区営 合計 (①～④)	(和泉小)	(富士見小)	(千代田小)	(麹町小)	(番町小)	(お茶の水小)	(九段小)	⑫ 二番町こ どもクラ ブ	⑬ ポピンズ アフター スクール 一番町	⑭ グローバル キッズ 飯田 橋学童ク ラブ(1・ 2)	⑮ 麹町こど もクラブ	⑯ キッズク ラブ神田	⑰ 東神田ら る学童ク ラブ	⑱ 学童保育 じゃんぶ 九段クラ ブ	ベネッセ 万世橋学 童クラブ	民営 合計 (⑤～⑱)	合計 (①～⑱)	
	① 西神田	② 神田	③ 四番町	④ 一番町		⑤ いずみ学 童クラブ (1・2)	⑥ 富士見わ んぱくひ ろば学童 クラブ (1・2)	⑦ アフタース クールさ くら (1・2)	⑧ アフタース クールこ うじ町	⑨ 番町小学 校アフタ ースク ール(1・ 2)	⑩ アフタース クールお 茶の水	⑪ 九段小学 校アフタ ースク ール											
1年生	22	12	9	6	49	32	37	28	37	16	29	41	17	5	25	4	5	8	8	13	305	354	
2年生	15	19	10	13	57	33	39	40	10	26	23	26	15	18	36	7	4	8	11	3	299	356	
3年生	11	16	7	8	42	23	30	24	1	26	14	0	15	17	16	14	3	14	18	8	223	265	
1～3年生	48	47	26	27	148	88	106	92	48	68	66	67	47	40	77	25	12	30	37	24	827	975	
4年生	13	11	11	22	57	1	3	15	2	11	6	0	11	14	31	6	5	14	3	8	130	187	
5年生	0	4	11	7	22	0	1	2	0	1	0	0	17	1	13	7	1	0	0	9	52	74	
6年生	0	0	0	4	4	0	0	1	0	0	0	0	5	0	3	7	3	0	0	4	23	27	
4～6年生	13	15	22	33	83	1	4	18	2	12	6	0	33	15	47	20	9	14	3	21	205	288	
令和6年 5月1日 在籍人数	61	62	48	60	231	89	110	110	50	80	72	67	80	55	124	45	21	44	40	45	1,032	1,263	
定員	50	50	47	42	189	88	110	110	50	76	70	60	70	50	110	45	50	40	40	40	1,009	1,198	
令和5年 5月1日 在籍人数	62	59	52	60	233	90	110	109	51	81	63	52	80	56	122	43	21	42	40	36	996	1,229	
在籍人数 増減 (R6－R5)	△ 1	3	△ 4	0	△ 2	△ 1	0	1	△ 1	△ 1	9	15	0	△ 1	2	2	0	2	0	9	36	34	
備考 (区立小以外)	6	3	13	2	24	2	6	0	0	0	0	0	14	4	25	8	3	1	1	8	72	96	

令和6年度学童クラブの整備について

1 令和6年度予算

- ・ 令和7年度も待機児童ゼロを継続できるよう、私立学童クラブを誘致し、整備に係る経費を助成するための予算（私立学童クラブ整備補助：138,175千円）を確保

2 整備の考え方

- ・ 令和6年5月1日時点の状況を各区立小学校の地域ごとに見ると、富士見小学校及び和泉小学校の地域については、利用児童数に対して学童クラブが限られ、今後、追加的な受け入れが困難な状況になると見込まれる。
- ・ こうした状況を踏まえ、今年度はこの2つの地域での整備を検討

（参考）富士見小学校と和泉小学校近隣の学童クラブ在籍状況（人）

小学校	学童クラブ	R6 定員	R6. 5. 1 在籍数	R1. 5. 1 在籍数
富士見 小学校	⑥富士見わんぱく ひろば（1・2）	110	110	110
	⑭グローバルキッズ 飯田橋（1・2）	110	124	95
和泉 小学校	⑤いずみこども プラザ（1・2）	88	89	90
	⑰東神田らる	40	44	8

3 今後の予定等

- ・ 令和7年4月1日からの受け入れ開始に向け、プロポーザルにより誘致事業者を決定することとし、概ね以下のスケジュール（直近の私立学童クラブ誘致時のものを参考）を想定
 - ・ 7月頃 … 事業者公募開始
 - ・ 11月頃 … 事業者決定
 - ・ 12月以降 … 補助金交付決定、開設準備

※令和7年度入会案内等において利用者向け周知等

令和6年度学級編制（児童・生徒数 / 学級数）

令和6年5月1日現在

[小学校]

学 校 名	学 級 数							児 童 数						
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計
麴 町 小 学 校	3	3	3	3	3	3	18	94	84	85	104	96	108	571
九 段 小 学 校	3	3	2	3	3	3	17	81	78	67	88	84	88	486
番 町 小 学 校	2	3	3	2	2	2	14	49	79	75	62	70	73	408
富 士 見 小 学 校	3	3	2	3	3	3	17	72	93	67	97	83	85	497
お 茶 の 水 小 学 校	3	2	2	2	2	2	13	78	55	57	62	50	47	349
千 代 田 小 学 校	2	2	2	2	2	2	12	47	65	47	65	61	58	343
昌 平 小 学 校	1	2	2	2	1	2	10	24	41	43	54	25	49	236
和 泉 小 学 校	2	2	3	2	2	2	13	57	65	71	70	66	56	385
小 計	19	20	19	19	18	19	114	502	560	512	602	535	564	3,275
富士見小学校（特別支援学級 知的障害）							1	1	1	4	0	1	1	8
千代田小学校（特別支援学級 知的障害）							3	2	4	6	4	4	2	22
小 学 校 合 計	-						118	505	565	522	606	540	567	3,305

※学級数合計の計は特別支援学級（固定級）を含む

[中学校・中等教育学校（前期課程）]

学 校 名	学 級 数				生 徒 数			
	1	2	3	計	1	2	3	計
麴 町 中 学 校	3	4	4	11	84	129	133	346
神田一橋中学校	3	3	3	9	103	109	94	306
小 計	6	7	7	20	187	238	227	652
麴町中学校（特別支援学級 知的障害）				1	2	0	3	5
中 学 校 合 計	-			21	189	238	230	657
九段中等教育学校（前期課程）	4	4	4	12	160	155	159	474
中学校・中等教育学校（前期課程）合計	-			33	349	393	389	1,131

※学級数合計の計は特別支援学級（固定級）を含む

[通級指導学級・特別支援教室]

学 校 名	学 級 数							児 童 ・ 生 徒 数						
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計
千代田小学校（言語）	2						2	2	3	6	6	5	2	24
小学校特別支援教室（情緒）								36	36	46	40	36	26	220
中学校特別支援教室（情緒）								11	13	18				42
通 級 合 計	2						2	49	52	70	46	41	28	286

※通級指導学級・特別支援教室の児童・生徒数は、在籍校の児童・生徒数に含まれている。

[中等教育学校]

学 校 名	学 級 数							生 徒 数						
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計
九段中等教育学校	4	4	4	4	4	4	24	160	155	159	149	148	144	915

令和7年度使用 教科用図書採択について

別添「令和7年度使用 千代田区立小・中・中等教育学校（前期課程）教科用図書の採択事務日程並びに千代田区立九段中等教育学校（後期課程）、特別支援学級（小・中）」のとおり、令和7年度使用 教科用図書採択事務を行う。

【資料 1-1】 千代田区立小・中学校・中等教育学校（前期課程）教科用図書採択事務取扱要綱

【資料 1-2】 千代田区立小・中学校・中等教育学校（前期課程）教科用図書採択事務取扱要綱
に関する細目

【資料 2】 千代田区立九段中等教育学校後期課程用教科書採択にかかわる基本方針

【資料 3】 千代田区立学校特別支援学級用教科用図書採択にかかわる基本方針

【資料 4】 教科書採択における公正確保の徹底及び令和7年度使用教科書の採択事務処理に
ついて（通知）

（令和6年4月18日付 6教指管第123号の写し）

【資料 5】 教科書採択における公正確保の徹底等について（通知）

（令和6年3月29日付 5文科初第2567号の写し）

【資料 6】 令和6年度使用教科書の採択事務処理について（通知）

（令和6年3月29日付 5初教科第34号の写し）

【資料 7】 令和7年度使用義務教育諸学校用教科書の採択方針について（通知）

（令和6年4月30日付 6教指管第192号の写し）

【資料 8】 教科書の採択方針について（答申）

【資料 9】 教科書展示会の実施について

【別 添】 令和7年度使用 千代田区立学校教科用図書採択事務日程

千代田区立小・中学校・中等教育学校(前期課程)教科用図書採択事務取扱要綱

17 千教教指発第79号

平成17年5月11日教育長決裁
平成19年4月2日教育長決裁
平成20年4月1日教育長決裁
平成21年4月1日教育長決裁
平成22年4月1日教育長決裁
平成26年4月1日教育長決裁
平成27年4月1日教育長決裁
平成29年4月1日教育長決裁
平成30年4月1日教育長決裁
令和2年4月1日教育長決裁

(目的)

- 第1条 この要綱は、千代田区立小・中学校・中等教育学校(前期課程)で使用する教科用図書について、千代田区教育委員会(以下「教育委員会」という。)が、公正かつ円滑な採択を行うために、必要な事項を定めることを目的とする。

(採択の基本方針)

- 第2条 調査研究が、十分行われるように配慮し、その調査研究の結果を生かして採択する。

(採択の時期)

- 第3条 教科用図書の採択は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第13条の定めるところにより、当該教科用図書を使用する年度の前年度の8月31日までにを行う。

(教科用図書選定委員会)

- 第4条 教育委員会は、採択に必要な資料を得るために教科用図書選定委員会(以下「選定委員会」という。)を設ける。なお、検定年度に新たな図書の申請がなかった教科は、前回の検定合格図書から採択を行うことができる。その際は4年間の使用実績を踏まえ、前回の採択における調査研究内容を活用し、教育委員会による簡易採択も行えるものとする。この場合、基本的に選定委員会は設けない。
- 2 選定委員会は、教育委員会の任命する次の委員をもって構成する。
学識経験者2名、千代田区立小・中・中等教育学校長又は副校長、主幹教諭等から選定教科数に応じて必要数(2～12名程度)と、保護者代表2名
 - 3 委員の任期は、委嘱の日から8月31日までとする。
 - 4 選定委員会に委員長及び副委員長をそれぞれ1名おく。
 - 5 委員長及び副委員長は、委員が互選する。
 - 6 委員長は、選定委員会を総理する。
 - 7 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。
 - 8 選定委員会は、教育委員会が招集する。
 - 9 選定委員会は、委員の過半数の出席を必要とし、議事は出席委員の過半数で決し、可否同数の時は委員長の決するところによる。
 - 10 選定委員会は教科用図書調査委員会の報告を受け、調査研究及び審議を行い教育委員会に答申する。

(教科用図書調査委員会)

- 第5条 選定委員会は、選定に必要な資料を得るために、教科毎に教科用図書調査委員会（以下「調査委員会」という。）を設ける。
- 2 調査委員会は、教科毎に、小・中・中等教育学校長から推薦された委員（小学校7名程度、中・中等教育学校1～2名程度）及び選定委員会委員1名をもって構成する。
 - 3 委員の任期は、委嘱の日から8月31日までとする。
 - 4 調査委員会に委員長及び副委員長をそれぞれ1名おく。
 - 5 委員長は、選定委員会委員があたり、副委員長は委員が互選する。
 - 6 委員長は、調査委員会を総理する。
 - 7 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。
 - 8 調査委員会は、選定委員会が招集する。
 - 9 調査委員会は、委員の過半数の出席を必要とし、議事は出席委員の過半数で決し、可否同数の時は委員長の決するところによる。
 - 10 調査委員会は、教科毎に調査研究を行い、その結果を選定委員会に報告する。

（教科用図書研究会）

- 第6条 選定委員会は、選定に必要な資料を得るために学校毎に教科用図書研究会（以下「研究会」という。）を設ける。
- 2 研究会は、当該学校の校長、副校長、主幹教諭、指導教諭、主任教諭、教諭をもって構成する。
 - 3 研究会は、校長が総理し、副校長が補佐する。
 - 4 研究会は、教科毎に研究を行い、その結果を調査委員会に報告する。

（特別支援学級で使用する教科用図書の採択）

- 第7条 区立学校に設置されている特別支援学級で使用する教科用図書については、区立学校の通常の学級で使用する教科用図書を使用する。
- 2 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書を採択するにあたっては、特別支援学級設置校長からの申請による。

（審議の公正確保）

- 第8条 採択を公正かつ適正に行うために、選定委員会、調査委員会、研究会は非公開とし、委員は、調査研究上知り得た事項を他に漏らしてはならない。なお、選定委員会議事録については、採択終了後公開するものとする。

（確認書の提出）

- 第9条 選定委員会委員及び調査委員会委員は、教科用図書選定に関して直接利害関係のない旨の確認書を教育委員会に提出しなければならない。

（所管）

- 第10条 選定委員会に関する庶務は、千代田区教育委員会事務局 子ども部 指導課の所管とする。

（委任）

- 第11条 この要綱の施行に関し、必要な事項は教育長が別に定める。

付則（17千教教指発第79号）

- 1 この要綱は平成19年5月12日から施行する。

付則（19千教指発第337号）

- 1 この要綱は平成19年4月1日から施行する。

付則（20千こ育指発第247号）

1 この要綱は平成20年4月1日から施行する。
付則（21千こ育指発第184号）

1 この要綱は平成21年4月1日から施行する。
付則（22千子指導発第208号）

1 この要綱は平成22年4月1日から施行する。
付則（26千子指導発第268号）

1 この要綱は平成26年4月1日から施行する。
付則（27千子指導発第172号）

1 この要綱は平成27年4月1日から施行する。
付則（29千子指導発第228号）

1 この要綱は平成29年4月1日から施行する。
付則（30千子指導発第61号）

1 この要綱は平成30年4月1日から施行する。
付則（2千子指導発第120号）

1 この要綱は令和2年4月1日から施行する。

千代田区立小・中学校・中等教育学校(前期課程)教科用図書採択事務取扱要綱に関する細目

2 千子指導発第121号
令和2年4月1日指導課長決裁

1 この細目は、千代田区立小・中学校・中等教育学校(前期課程)教科用図書採択事務取扱要綱第11条に基づき、教科用図書の調査研究に関し、必要な事項を定めるものとする。

2 教科用図書選定委員会

(1) 委員の資格要件

- ① 保護者代表については、麹町地区、神田地区PTAから各1名とする。
 - ② 教科用図書の採択に利害関係がないこと（過去3年間、教科用図書及び同指導書の著作・編集に関与しないこと等）。
- (2) 選定委員会は、教科用図書調査委員会から報告された調査研究資料を、5に定める調査研究の観点に照らし検討し、調査内容に意見を付した答申書を作成し、教育委員会に答申する。なお、教育委員会にはすべての調査資料を提出する。
- (3) 選定委員長は選定委員会を総理するため、教科用図書調査委員会には所属しないことができる。

3 教科用図書調査委員会

(1) 調査委員会は、①小学校、②中学校・中等教育学校（前期課程）のそれぞれについて、次のとおりとする。

① 小学校

国語・書写、社会・地図、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育（保健）、英語、特別の教科 道徳

② 中学校・中等教育学校（前期課程）

国語・書写、社会（地理的分野・歴史的分野・公民的分野）・地図、数学、理科、音楽（一般・器楽合奏）、美術、保健体育、技術・家庭（技術分野・家庭分野）、英語、道徳

(2) 委員の資格要件

- ① 教育研究の実績があること。
 - ② 教科用図書の採択に利害関係がないこと（過去3年間、教科用図書及び同指導書の著作・編集に関与しないこと等）。
- (3) 調査委員会は、4に定める教科用図書研究会から提出された調査書（様式1）を参考に、5に定める調査研究の観点に従い研究整理し、調査一覧表（様式2）を作成し、選定委員会に報告する。なお、報告の際、調査書（様式1）及び調査一覧表（様式2）を提出する。

4 教科用図書研究会

- (1) 各学校においては、教科用図書研究会を設置する。
- (2) 研究会は、5に定める調査研究の観点に従い、すべての教科用図書について調査書（様式1）を作成し、各調査委員会に報告する。

5 調査研究の観点

調査研究は学習指導要領を基準に、次の観点を基本とし調査する。

- (1) 内容の選択
教材の適切さ、資料のわかりやすさ、内容のおさえ方及び現代的課題への配慮など
- (2) 構成・分量
系統性、関連性、発達段階、精粗の程度及び分量など
- (3) 表記・表現
文字、語句、語法、記号、式、図形などの関連性及び明確さなど
- (4) 使用上の便宜
資料や素材のわかりやすさ、的確さ、大きさ及び紙質など
- (5) 発展・補充教材の扱い
発展・補充教材の内容、分量など
- (6) その他

6 報告様式の手配

- (1) 報告様式1：各校長 → 各調査委員長 → 選定委員長 → 教育委員会
- (2) 報告様式2：各調査委員長 → 選定委員長 → 教育委員会
- (3) 報告様式3：選定委員長 → 教育委員会

7 その他

- (1) 教科用図書選定委員会、教科用図書調査委員会、教科用図書研究会のいずれについても、会議の過程は非公開とする。なお、採択終了後、調査報告等については公開するものとする。
- (2) 本細目に定める様式は別紙のとおりとする。
- (3) 教科書展示会については、教科書の発行に関する臨時措置法第5条の規定に基づき、東京都教育委員会の依頼をもって実施する。実施に際しては次の点に留意する。
 - 採択関係者による調査研究は、展示会の他、採択地区に送付される教科用図書見本を活用する。

千代田区立九段中等教育学校後期課程用教科書採択にかかわる基本方針

1 教科書採択に当たっての留意事項について

次の事項に留意し、総合的に判断し、教科書の採択を行う。

- (1) 採択は、採択権者である千代田区教育委員会が自らの権限と責任において、適正かつ公正に行う。
- (2) 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（以下「附則第9条図書」という。）を除き、「高等学校用教科書目録（次年度使用）」に登載されている教科書のうちから採択する。
- (3) 区立九段中等教育学校の生徒の実情等を十分配慮する。

2 教科書の採択について

(1) 教科書調査研究資料の活用

教科書の採択に当たっては、東京都教育委員会作成の「高等学校用教科書調査研究資料」を活用し、次の項目について、区立九段中等教育学校で使用することが適当であるかについて検討する。

- ア 内容
- イ 構成・分量
- ウ 表記・表現及び使用上の便宜
- エ 発展・補充・その他

(2) 教科書の採択

教科書、教科書調査研究資料、上記検討結果及び学校の選定結果等を総合的に判断し、区立九段中等教育学校後期課程で使用することが適当と認めた教科書を採択する。

3 教科書の選定について

区立九段中等教育学校は、次の事項に留意し、教科書の選定を行うこと。

なお、その権限と責任は校長にある。

- (1) 教科書の専門的な調査研究及び適正な選定を行うため、学校に「教科書選定委員会」を設置し、その委員長は校長とすること。
- (2) 校長は、学習指導要領の各教科の目標等を踏まえ、東京都教育委員会が作成する「高等学校用教科書調査研究資料」を活用し、教科書の調査研究を行うこと。
- (3) 校長は、教科書の調査研究結果及び生徒の実態等を踏まえて、「高等学校用教科書目録（次年度使用）」のうちから、最も適切な教科書を選定すること。
- (4) 校長は、教科書の選定後速やかに、別に定める様式に具体的な選定理由等を明記し、千代田区教育委員会指導課長に報告すること。

千代田区立学校特別支援学級用教科用図書採択に関わる基本方針

1 採択の方法

千代田区立学校に設置されている特別支援学級において使用する教科用図書は、「千代田区立小・中・中等教育学校（前期課程）教科用図書採択事務取扱要綱」第7条に基づき、区立学校の通常の学級において使用する教科用図書を使用するものとし、また、学校教育法附則第9条の規定による教科用図書を採択するにあたっては、特別支援学級設置校長からの申請によるものとする。

2 採択の期間

特別支援学級に在籍する児童・生徒は、その発達状況が多様であることから、領域・教科を合わせた指導を教育課程に取り入れるなどして、児童・生徒の障害の状態や教育的ニーズに応じた指導を行っている。このため、単年度ごとに児童・生徒の発達段階や学習状況に適した教科用図書を使用できるように採択期間は1年間とする。

3 採択の原則

特別支援学級においては、検定教科書または文部科学省著作教科書を使用することが原則であるが、児童・生徒の障害の種類や程度、能力・特性から判断し、教科により当該学年の検定教科書や文部科学省著作教科書を使用することが適当でない場合、これに替わる適切な一般図書を使用することができる。（学校教育法附則第9条）

- (1) 検定済教科書（通常の学級で使用するものと同一のもの）の当該学年用を使用する。
- (2) 教科により当該学年の使用が適当でない場合は、検定済教科書の下学年用を使用する。（中学校で小学校用検定済教科書を使用することも可能）
- (3) 文部科学省著作教科書（特別支援学校用）を使用する。
- (4) 学校教育法附則第9条図書を使用する。ただし、東京都教育委員会が作成した特別支援教育教科書調査研究資料に掲載される一般図書以外を使用する場合には、独自に十分な調査を行い、実態に即した適切な図書を使用する。

4 一般図書を採択する場合の留意事項

- (1) 児童・生徒の障害の種類・程度、特性及び心身の発達の段階等に最もふさわしい内容（文字、表現、挿絵、取り扱う題材等）のものであること。
- (2) 可能な限り系統的に編集されており、教科の目標に沿う内容をもつものが適切であり、特定の題材もしくは一部の分野しか取り扱っていない図書、参考書、図鑑類、問題集等は適切でない。
- (3) 上学年で使用する事となる図書や採択する他教科の図書との関連性を考慮すること。
- (4) 教科用として使用する上で適切な体裁の図書を採択すること。
- (5) 価格については、教科書無償給与予算との関連から、前年度の実績を考慮するなど、あまり高額なものに偏らないこと。

5 教科用図書の選定及び採択について

- (1) 教科書の専門的な調査研究及び適正な選定を行うため、特別支援学級設置校に「教科書選定委員会」を設置し、その委員長は校長とする。
- (2) 委員長は、その権限と責任において、学習指導要領の各教科の目標及び児童・生徒の実情等を踏まえ、東京都教育委員会が作成する「特別支援教育用教科書調査研究資料（一般図書）」等を活用し、教科書の調査研究を行い、最も適切な教科書を選定する。
- (3) 委員長は、教科書の選定後速やかに、別に定める様式に具体的な選定理由等を明記し、千代田区教育委員会教育長に申請する。
- (4) 教育委員会は、提出された報告書を精査し、在籍する児童・生徒の実情等に十分配慮し、自らの権限と責任において、適正かつ校正に採択を行う。

写

区市町村教育委員会教育長 殿

東京都教育委員会教育長
浜 佳 葉 子
(公印省略)**教科書採択における公正確保の徹底及び令和7年度使用教科書の採択事務処理について（通知）**

このことについて、文部科学省から、別添（写）のとおり、教科書採択における公正確保の徹底及び令和7年度使用教科書の採択事務処理に関する文書が送付されましたので通知します。

令和4年度、特定の教科書発行者が、採択期間中において、採択関係者に飲食を無償提供するなど、不当な利益供与を行っていた事実が確認された件がありました。その利益の供与を受けた採択関係者の中には、教育委員会関係者や、選定委員・調査員等の教科書採択に関与する者が含まれており、教科書採択の公正性・透明性に疑念を生じさせ、教科書に対する信頼を大きく揺るがす事態に至ったところです。

教科書採択の公正確保については、毎年度通知を発出しており、貴教育委員会におかれましては、教科書採択の公正確保に努めていただいているところですが、改めて教科書採択における公正確保の必要性を認識していただくことが重要です。

つきましては、下記のとおり補足説明及び留意事項を付しますので、教科書採択における公正確保の徹底等につきまして、域内の学校をはじめとする各関係者に対して通知の趣旨を改めて周知していただき、より一層の公正確保を図っていただくとともに、採択事務につきましては、事務処理に遺漏のないようお願いいたします。

記

1 送付文書（写し）

- (1) 令和6年3月29日付5文科初第2567号「教科書採択における公正確保の徹底等について（通知）」（以下「公正確保通知」という。）
- (2) 同日付5文科初第2568号「教科書採択の公正確保について（通知）」【別添通知】（以下「発行者宛て通知」という。）
- (3) 同日付5初教科第34号「令和7年度使用教科書の採択事務処理について（通知）」（以下「採択事務処理通知」という。）

2 教科書採択の公正確保の徹底**(1) 趣旨・目的（参照：公正確保通知P.2「1（1）」）**

教科書採択は、児童生徒が学校の授業や家庭における学習活動において用いる教科書を決定する重要な行為である。このことから、教科書採択は、採択権者の判断と責任により、綿密な調査研究を踏まえた上で、公正性・透明性に疑念を生じさせることのないよう適切に行われることが必要である。

(2) 調査員等の選任（参照：公正確保通知P. 2～3「1（2）」）

ア 各教育委員会や学校等において教科書の調査研究を行う調査員等について、「教科用図書の採択に直接の利害関係を有する者」を選任することは不適当であること。

また、「教科用図書の採択に直接の利害関係を有する者」に該当しない者であっても、特定の教科書発行者（以下「発行者」という。）と関係を有する者を選任することは不適当であること。

イ 令和5年度に検定を経た教科書等の編著作者及び編集協力者に関する情報や、教師用指導書及び教科書準拠周辺教材の執筆者に関する情報については、都教育委員会から区市町村教育委員会に対して別途情報提供をするので、必要に応じて参照すること（発行者宛て通知 P. 4「（教科書の編著作者及び編集協力者並びに関連する教材の執筆者に関する情報の取扱いについて）」も併せて参照すること。）。

これらの者については、検定期間中に検定申請本若しくはその内容の一部を了知し、又は特定の発行者と関係を有するものであることから、教科書採択に関与することのないよう留意すること。

(3) その他審議・調査研究における留意事項（参照：公正確保通知P. 4「1（3）」）

調査員等の選任及び調査員等が行う具体の審議や調査研究に当たっては、各教育委員会等における関係部署とも連携し、発行者との関係について聴取又は自己申告などを求めるなどした上で、特定の発行者と関係を有する者が教科書採択に関与することのないよう留意すること。

(4) 教科書見本の取扱い（参照：公正確保通知P. 4～5「1（4）」、発行者宛て通知P. 2～4、事務処理通知P. 6）

ア 発行者が各採択権者等に送付することができる教科書見本の部数の上限等については、文部科学省が当該発行者に通知している。

・ 小学校用教科書

令和6年度は、法令に基づいて、前年度と同一の教科書が採択されることとなることから、原則として教科書見本は送付されない。

・ 中学校用教科書

送付先	送付部数の上限	送付時期（目途）
中核市、特別区教育委員会	教育委員会用 8部	4月末
	採択地区用 4部	
その他の教育委員会 （単独採択地区）	教育委員会用 5部	
	採択地区用 4部	
その他の教育委員会 （共同採択地区）	教育委員会用 5部	
	採択地区用 構成市町村数＋3部	
教科書センター	2部	5月末

※ 原則として、発行者が、新たに検定を経た教科書の見本に限り発行者が送付できるが、新たに検定を経た教科書の見本のほか、令和元年度の検定に合格した教科書の供給本（「中学校用教科書目録（令和7年度使用）」に登載されているものに限る）についても、教科書見本として送付することができることとなっている。

・ 高等学校用教科書

送付先	送付部数の上限	送付時期
中等教育学校（後期課程）を所管する教育委員会	1部	4月末
中等教育学校（後期課程）	1部	4月末
教科書センター	1部	5月末

イ 留意事項

- ・ 発行者から送付される教科書見本の種類及び部数の上限は、毎年度、文部科学省から発行者に通知しており、それを超える送付、又は採択関係者（教育委員会関係者又は校長や教師等を含む全ての学校関係者その他教科書採択に関与し得る全ての者）に対する献本若しくは貸与は認められていない。採択関係者から発行者に対して上限を超える送付、又は献本若しくは貸与を求めることのないようくれぐれも留意すること。
- ・ 授業研究や教材研究等のための採択期間終了後における教科書見本の送付は、令和元年度からは行われていないため、発行者に対して、教科書見本の献本又は貸与を求めることのないよう留意すること。このため、令和元年度以降は、採択期間に教育委員会等に送付された教科書見本を採択終了後の授業研究や教材研究のために有効活用すること。
また、採択替えの際の調査研究に支障が生じないように、適切に保管・管理をすること。
- ・ 教科書見本と併せて、又は個別に、学習者用デジタル教科書の部分サンプルや内容解説資料その他発行者が広く無償で配布する資料を受け取ることは差し支えないこと。ただし、資料の名称を問わず、有償の商品やサービスを無償又は廉価に提供を受けるなど発行者からの不当な利益供与が禁止されていることにくれぐれも注意すること。
また、「学習者用デジタル教科書」の完全見本については、紙の教科書の内容と同一であるため、提供や貸与を受けてはならないので注意すること。

（５）過大な宣伝活動等への対処（参照：公正確保通知 P. 5～7 「1（５）」）

- ア 公正確保通知 1（５）の外、「教科書発行者行動規範」（以下「行動規範」という。公正確保通知 P. 13 に URL の掲載あり。）を参照すること。

イ 各教育委員会においては、これらを十分に踏まえ、域内の学校とも情報共有をはじめ密に連携した上で、事前に適切な措置を講ずること。その際、文部科学省の指導や行動規範等に違反する行為について、発行者に求めることのないようにすることはもとより、発行者からそういった申出があった場合には明確に断るよう関係者への周知を徹底すること。

（６）発行者との関係（参照：公正確保通知 P. 7～10 「1（６）、（７）」）

- ア 質の高い教科書の実現のためには、発行者が教師等から意見を聴取することは大きな意義を有する側面もあり、また、学習者用デジタル教科書など新たな教材の開発等に当たり両者が連携して研究等を行うことが重要となると考えられる。

一方で、仮に教師等と発行者の認識が、教科書の著作・編集活動あるいは授業研究や教材研究等の一環であったとしても、地域住民等から見れば教科書採択の公正性・透明性に疑念を生じさせるものと受け止められかねないことから、発行者と健全かつ適切な関係を保つよう、全ての学校・教師等に対して、利害関係者との接触に当たり、法令の外、貴教育委員会の条例・規則等に従う必要がある旨を周知徹底すること。

イ 採択関係者は、教科書発行者に対して飲食の無償提供や金銭等を要求したり、これを受領したりすることがないように留意すること。また、このことを十分に踏まえ、各教育委員会においても、本通知を採択関係者に周知徹底するなど、必要な措置を講ずること。

ウ 発行者による不適切な行為が確認された場合には、速やかにその所属する学校・教育委員会等に報告するよう、全ての教師等に対して指導するとともに、報告を受けた教育委員会は、その行為が教科書採択の公正性・透明性に疑念を生じさせるものである場合には、東京都教育庁指導部管理課教科書担当宛てに速やかに情報提供を行うこと。

3 教科書採択方法の改善

(1) 採択権者の判断と責任（参照：公正確保通知 P.10～11「2（1）」）

ア 教科書の採択に当たっては、採択権者の判断と責任に基づいて十分な審議や調査研究を行うこと。

イ 採択権者の責任が不明確となるような以下の方法がなされないように採択手続の適正化に努めること。

＜不適切な採択方法＞

- ・教師等の投票によって決定される
- ・事実上、一部の特定の教師のみによって決定される
- ・十分な審議や調査研究を経ずこれまでの慣例のみによって決定される
- ・その他の採択権者の責任が不明確になる方法によって決定される

(2) 教科書の調査研究の充実等（参照：公正確保通知 P.12～13「2（3）」）

ア 教育長及び委員の人数分の教科書見本が送付されることになっているが、教育長及び委員への教科書見本の提供状況に関する調査結果を見ると、必ずしも教科書見本が十分に活用されているとはいえない。教育長及び委員が十分な時間的余裕を持って教科書見本を閲覧し、その内容について適時吟味することができるような環境を整えることが必要であること。

イ 教科書採択については、教科書発行者に限らず、外部からのあらゆる働きかけに左右されることなく、静ひつな環境を確保し、採択権者の判断と責任において公正かつ適正に行われるよう努めること。

4 採択に当たっての留意事項について

(1) 各学校段階における令和6年度の教科書採択（参照：採択事務処理通知 P.2「1（1）～（5）」）

ア 小学校用教科書の採択について

令和5年度に採択したものと同一の教科書を採択しなければならないこと。ただし、無償措置法第14条及び同法施行令第15条の規定に基づき、同法施行規則第6条各号に掲げる場合は、異なる教科書を採択することができること。

イ 中学校用教科書の採択について

全ての教科書について、令和5年度に採択したものと異なる教科書を採択することができること。その際、「中学校用教科書目録（令和7年度使用）」に登載されているもののうちから採択すること。

ウ 特別支援学校の小・中学部用教科書の採択について

・ 小学部

令和5年度に採択したものと同一の教科書を採択しなければならないこと。ただし、下記オのとおり、学校教育法附則第9条第1項に規定する教科書（以下「附則9条本（一般図書）」という。）の採択を行う場合は、異なる教科書を採択することができる。

・ 中学部

全ての教科書について、令和5年度に採択したものと異なる教科書を採択することができること。その際、「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（令和7年度使用）」に登載されている中学部用の教科書のうちから採択すること。

エ 高等学校用教科書の採択について

現行の高等学校学習指導要領（平成30年文部科学省告示第68号）の適用を受ける生徒が使用する教科書は、「高等学校用教科書目録（令和7年度使用）」の第1部に登載されている教科書のうちから採択しなければならないこと。

従前の高等学校学習指導要領（平成21年文部省告示第34号）の適用を受ける生徒が使用する教科書は、同目録の第2部に登載されている教科書のうちから採択すること。なお、保健体育、芸術、福祉、体育、音楽及び美術については、全部又は一部について、同目録の第1部に登載されている教科書のうちから採択することができる。

オ 附則9条本（一般図書）の採択について

- ・ 特別支援学校の小・中学部及び特別支援学級並びに高等学校（中等教育学校（後期課程）及び特別支援学校（高等部）を含む。）においては、附則9条本（一般図書）を採択することができること。その際、採択権者は教科の主たる教材として教育目標の達成上適切な図書を選定すること。
- ・ 特別支援学校・学級用の附則9条本（一般図書）の採択に際しては、まずは文部科学省著作教科書の使用の適否とともに、文部科学大臣の検定を経た下学年用教科書の採択の適否を十分考慮すること。

（2）採択する際の検討の在り方について（参照：採択事務処理通知 P.2「2（3）、3（2）」）

ア 学習者用デジタル教科書の考慮について

- ・ 教科書採択は紙の教科書を決定する行為であり、調査・検討の対象は紙の教科書であることが基本であること。
- ・ 一方で、令和6年度以降、英語の学習者用デジタル教科書（以下「デジタル教科書」という。）が紙の教科書と併せて提供される予定であり、令和6年度の中学校英語の教科書採択については、中学校英語のデジタル教科書を調査し、考慮の一事項とすることができるとのこと。
- ・ 5月上旬頃、中学校英語のデジタル教科書の一部を見本として文部科学省から提供予定であること。その際の留意事項については、別途通知する。

イ ユニバーサルデザインに関する配慮について

各採択権者においても、教科書の採択に係る調査研究に当たっては、教科書が障害その他の特性の有無にかかわらず児童生徒にとって読みやすいものになっているかどうかについても比較検討することが望ましいこと。

（3）教科書採択に関する情報の公表（参照：採択事務処理通知 P.5「2（4）」）

ア 義務教育諸学校においては、教科書を採択したとき、遅滞なく採択結果、採択理由その他の事項（教科書調査研究資料等）を公表するよう努めるものとされている（無償措置法第15条、無償措置法施行規則第7条）。

イ 毎年度文部科学省が実施する「採択関係状況調査」の結果が「公正確保通知」に別添資料として添付されている。貴教育委員会の状況を確認の上、更に十分な取組がされるよう、採択手続の適正化に努めること。

（4）編修趣意書（参照：採択事務処理通知 P.6「3（4）」）

文部科学省が、教科書の編集の趣旨や基本方針についてまとめられた「編修趣意書」を取りまとめた上で公正確保通知 P.6「3（4）」にURLが掲載されているので、採択事務処理を行う際

には参考にすることができること（令和6年度は4月下旬頃に更新予定）。

4 都教育委員会における令和6年度の調査研究に関する日程（予定）

全教科の小学校用教科書について調査研究を行う。

【都教育委員会における調査研究に関する日程（予定）】

時期（予定）	附則9条本
4月中旬	・審議会①答申（採択方針）
4月下旬	・教育委員会への報告（審議会①） ・調査研究開始
6月中旬	・審議会②答申（調査研究資料）
6月下旬	・教育委員会への報告（審議会②） ・調査研究資料の公開

※上の表における「審議会」とは「東京都教科用図書選定審議会」を指す。

※ここでは、都教育委員会の業務のうち、他の採択権者への指導・助言・援助に関連する内容のみ記載した。

<連絡先>

東京都教育庁指導部管理課 教科書担当 和根川

電話：03-5320-6834

メール：Yasuhiro_Tonegawa@member.metro.tokyo.jp



5 文科初第 2 5 6 7 号
令和 6 年 3 月 2 9 日

各都道府県教育委員会教育長 殿

文部科学省初等中等教育局長

矢 野 和 彦

(公印省略)

教科書採択における公正確保の徹底等について（通知）

教科書は、全ての児童生徒の学校における授業や家庭における学習活動において重要な役割を果たすものであり、その採択については、公立学校（公立大学法人が設置する学校を除く。以下同じ。）において使用する教科書については当該学校を所管する教育委員会が、国立大学法人又は公立大学法人が設置する学校及び私立学校において使用する教科書については当該学校長が権限を有しています。

このため、教科書採択は、これらの採択権者の判断と責任により、綿密な調査研究を踏まえた上で、公正性・透明性に疑念を生じさせることのないよう適切に行われることが必要であることはもとより、採択権者である教育委員会や学校長は、採択結果やその理由について、保護者や地域住民等に対して説明責任を果たすことが重要となります。

教科書発行者においては、業界団体である一般社団法人教科書協会が中心となり、「教科書発行者行動規範」を制定するなど、信頼回復に向けた取組を進めてきました。

しかしながら、令和 4 年度、特定の教科書発行者が、採択期間中において、採択関係者に飲食を無償提供するなど、不当な利益供与を行っていた事実が確認されました。そして、利益の供与を受けた採択関係者の中には、一層の公正性・透明性の確保に留意すべき立場にある教育委員会関係者や、選定委員・調査員等の教科書採択に関与する者が含まれていました。この結果、教科書採択の公正性・透明性に疑念を生じさせ、教科書に対する信頼を大きく揺るがす事態に至ったことについては極めて遺憾であります。

教科書採択の公正確保のためには、発行者はもとより、教育委員会をはじめとする採択権者等における取組が引き続き不可欠であることは言うまでもありません。については、上記の事実や令和 5 年度における教科書採択の状況調査の結果（別添資料）も踏まえ、教科書採択に当たって特に留意すべき事項を下記のとおり通知しますので、貴教育委員会の委員及び知事部局を含む関係部署のほか、域内の市（特別区を含む。以下同じ。）町村教育委員会並びに国立大学法人又は公立大学法人が設置する学校及び私立学校を含む全ての学校、教師等その他全ての関係者に対して周知いただくとともに、これらの関係者と密に連携の上、今後の教科書採択にいかなる疑惑の目も向けられることのないよう、教科書採択の公正確保の徹底に万全を期すようお願いします。

なお、採択に関する事務処理の詳細については、別途、当局教科書課長から各都道府県教育委員会教科書関係事務主管課長宛てに通知していますので、これを十分参照し、事務処理に遺漏のないようお願いします。

1. 教科書採択の公正確保の徹底について

(1) 趣旨・目的

- 教科用図書（以下「教科書」という。）の採択は、児童生徒が学校の授業や家庭における学習活動において用いる教科書を決定する重要な行為である。このことから、教科書採択は、採択権者の判断と責任により、綿密な調査研究を踏まえた上で、公正性・透明性に疑念を生じさせることのないよう適切に行われることが必要である。

(2) 教科用図書選定審議会の委員又は調査員等の選任について

(ア) 選定することが不適当といえる者

- 義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（昭和 38 年法律第 182 号。以下「無償措置法」という。）第 11 条の規定により、各都道府県に置かれる教科用図書選定審議会（以下「選定審議会」という。）については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令（昭和 39 年政令第 14 号。以下「無償措置法施行令」という。）第 9 条第 2 項の規定により、「教科用図書の採択に直接の利害関係を有する者」（※ 1）は委員となることができないとされていること。

教育委員会や学校等において教科書の調査研究を行う調査員等についても同様に、「教科用図書の採択に直接の利害関係を有する者」（※ 1）を選任することは不適当であること。

- また、「教科用図書の採択に直接の利害関係を有する者」に該当しない者であっても、教科書発行者から個別に協力ないしは意見聴取の依頼を受け、著作・編集活動に一定の関与を行うなど、特定の教科書発行者と関係を有する者を選任することは不適当であること。

※ 1 「教科用図書の採択に直接の利害関係を有する者」については、無償措置法施行令第 9 条第 2 項に規定する「教科用図書の採択に直接の利害関係を有する者」と同義と解釈して差し支えない。具体的には、例えば、

- ① 教科書発行者の役員及び従業員並びにこれらの配偶者及び三親等内の親族
- ② 顧問、参与、嘱託等いかなる名称によるを問わず、事実上教科書発行者の事業の運営に重要な影響力を有している者
- ③ 教科書及び教師用指導書の著作・編集者（事実上、著作・編集に参加し、又は協力した者を含む。）
- ④ ③の著作・編集者が団体である場合は、当該団体の役員及びこれに準ずる者

⑤ 教科書の供給の事業を行う者及びこれに準ずる者

等が該当することとなる。また、これ以外の者であっても、上記に掲げる者と実質的に同視される者も同様に利害関係者に該当しうる。

その際、該当するか否かの検討にあたっては、個々の事案ごとに利害関係の有無について具体的に判断することが適当である。

また、「教科用図書の採択に直接の利害関係を有する者」には、特定の教科書が採択されることに直接の利害関係を有する者だけではなく、一又は二以上の特定の教科書が採択されないことに直接の利害関係を有する者も含むものであることに留意すること（「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行規則の一部を改正する省令等の公布、施行について」

（平成 28 年 6 月 20 日付け 28 文科初第 432 号初等中等教育局長通知）「第一 2．留意事項」参照）。このほか、採択権者である教育委員会における直接の利害関係のある事件に関する扱いについては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 14 条第 6 項を参照すること。

（イ）著作編修関係者名簿

○ 教科書発行者との関係は、一義的に採択権者（公立学校において使用する教科書については当該学校を所管する教育委員会、国立大学法人又は公立大学法人が設置する学校及び私立学校において使用する教科書については当該学校長をいう。以下同じ。）において把握すべきものであること。

○ もっとも、今後文部科学省から各都道府県教育委員会に対して、令和 5 年度に検定を経た教科書について、教科書協会非加盟会社のもの編著作者及び編集協力者に関する情報（※ 2）を取りまとめた名簿を、また、教科書協会等から各都道府県教育委員会に対して、同協会加盟会社のもの編著作者及び編集協力者に関する情報（※ 2）並びに教師用指導書及び教科書準拠周辺教材の執筆者に関する情報を取りまとめた名簿を送付する予定であるため、必要に応じてこれらの情報も参照すること。

○ これらの者については、検定期間中に検定申請本若しくはその内容の一部を了知し、又は特定の教科書発行者と関係を有するものであることから、教科書採択に関与することのないよう留意すること。

※ 2 これらの情報については、教科書発行者と関係を有する者が教科書採択に関与することのないようにすることを目的として提供するものであり、それ以外の目的への利用は認められていないことに留意すること。このほか、教科書発行者が負担した交通費・宿泊費、飲食費その他の費用についても、本人からの申告によっては不明確な点等がある場合には、必要に応じて教科書発行者に問い合わせを行うこと。

(3) その他審議・調査研究における留意事項

- 選定審議会の委員や調査員等の選任及びこれらの者が行う具体の審議や調査研究に当たっては、各教育委員会等における関係部署とも連携し、教科書発行者との関係について聴取又は自己申告を求めるなどした上で、特定の教科書発行者と関係を有する者が教科書採択に関与することのないよう留意すること。

(4) 教科書見本の取扱いについて

(ア) 教科書見本の上限

- 教科書発行者から各教育委員会等に送付することができる教科書見本の種類及び部数の上限について、毎年度、文部科学省から教科書発行者に通知（※3）しており、それを超える教科書見本の送付、又は採択関係者（採択関係者の定義については、1.（6）（イ）を参照すること。以下同じ。）に対する献本若しくは貸与は認められていないこと。

(イ) 教科書見本の追加送付等に関する留意事項

- 教科書発行者から上限に満たない部数の教科書見本の送付があった場合に、採択権者から当該教科書発行者に追加送付を求めることは差し支えないこと。
その際、教科書見本の送付は、教科書発行者の判断に委ねられるものであることに留意し、無理な送付を求めることのないようにすること。
- ただし、令和4年度以前に検定を経た教科書見本について、採択権者から教科書発行者に送付を求めることを許容している趣旨は、教科書採択に当たっての調査研究等の用に供するためであることに留意し、当該年度あるいは次年度以降の授業等の用に供することを目的として教科書発行者に送付を求めることのないようにすること。
- また、高等学校の分校若しくは学科への教科書見本の送付又は令和4年度以前に検定を経た教科書の見本の送付を希望する場合等、一定の場合には、採択権者（※4）から教科書発行者に教科書見本の追加送付を求めることを許容していること。
そして、この場合の運用上のルールについて明確にしておくとともに、当該ルールについて、教科書協会を通じて教科書発行者に予め示しておくことが望ましいこと。
- 教科書見本は、教科書の調査研究等を行うために不可欠なものである一方で、教科書発行者による教科書見本の送付は、教科書採択の勧誘を目的としたものと評価されるものであるとの認識に立った上で、教科書発行者と健全かつ

適切な関係を保つこと。

- 特に複数の市町村から構成される採択地区においては、教科書発行者から送付があった教科書見本の部数が過多となることも考えられるため、その場合に、教科書発行者に教科書見本の引取りを求めることは差し支えないこと。ただし、その取扱いについては教科書発行者間の公平性の観点に配慮することが必要であり、特定の教科書発行者の教科書見本のみ引取りを求めることは適切ではないこと。

※3 令和6年度における教科書見本の取扱いの詳細については、別添「教科書採択の公正確保について」（令和6年3月29日付け5文科初第2568号 初等中等教育局長通知）（以下「別添通知」という。）を参照のこと。

※4 教科書見本の追加送付について、採択権者の判断により、具体の手續を学校長に委任することも差し支えないが、その場合には、事前又は事後に報告を義務付ける等により適切に状況を把握することができる措置を講じること。

（ウ）教科書見本の献本・貸与依頼等の禁止

- 近年、多くの教科書発行者が、従前より継続的に教科書見本の不適切な取扱いを行っていたことが明らかとなり、それらの行為の中には採択関係者からの求めに応じて行われた例もあったことから、引き続き、採択関係者から教科書発行者に対して教科書見本の献本又は貸与を求めることのないよう、くれぐれも留意すること。

- 授業研究や教材研究等のための採択期間終了後における教科書見本の送付は、令和元年度からは行われていないため、教科書発行者に対して、教科書見本の献本又は貸与を求めることのないよう留意すること。このため、令和元年度以降は、採択期間に教育委員会等に送付された教科書見本を採択終了後の授業研究や教材研究のために有効活用すること。

（エ）教科書発行者の不当な利益供与への対処等

- 教科書見本と併せて、又は個別に、学習者用デジタル教科書の部分サンプルや内容解説資料その他教科書発行者が広く無償で配布する資料を受け取るとは差し支えないこと。ただし、資料の名称を問わず、有償の商品やサービスを無償又は廉価に提供を受けるなど教科書発行者からの不当な利益供与が禁止されていることにくれぐれも注意すること。

（5）過当な宣伝活動等への対処について

(ア) 教科書発行者の宣伝活動について

- 採択期間においても、教科書発行者が、採択関係者に対して自らが発行しようとする教科書の宣伝活動（※5）を行うことは禁止されるものではない。
- しかし、その宣伝活動により、採択権者の判断に不当な影響を及ぼすことのないよう、文部科学省から各教科書発行者に対しては、以下に記述する過当な宣伝活動等を慎むよう指導を行うとともに、教科書協会においても各会員に対して教科書発行者行動規範の遵守を求めているところである。

<各教科書発行者に慎むよう求めている過当な宣伝活動等>

(採択関係者等への働きかけについて)

- ・採択関係者若しくは公職関係者又はこれらの職にあった者など採択関係者に影響力を及ぼし得る者（教科書発行者の社員である者を除く。）を教科書採択の勧誘を目的とした宣伝活動等に従事させないこと。
- ・採択関係者の自宅訪問は一切行わないこと。

(説明会等について)

- ・採択期間においては、新たに採択される教科書に関する説明会、講習会又は研修会等（関連する教材の説明等を目的としたもののほか、教科書発行者の宣伝を目的としたもの又はその目的であるとの疑念を生じさせるおそれのあるものを含む。）を主催せず、他の主体が主催するこれらの会議の開催に原則として関与しないこと。また、教科書の編著作者及び編集協力者、関連する教材の執筆者並びにその他教科書発行者と実質的な関係にある者に対しても、これらの取扱いについて周知することにより、教科書発行者によるこれらの会議の主催ないしは開催への関与が禁止されていることの趣旨を損なうことのないよう留意すること。
- ・採択期間終了後に教科書見本、教師用指導書その他の教材等を献本すること又は教科書等に関する説明会、講習会若しくは研修会等を開催することを約することを以て、教科書採択の勧誘を行わないこと。

(資料等の配付について)

- ・教科書や教師用指導書と類似若しくは同視し得る資料を作成し、又は自ら行うと第三者をしてであるとを問わず配布しないこと。
- ・学校又は児童生徒への教科書の供給過程において、教科書以外の資料を挿入・添付し、又は宣伝用の袋を使用するなどして教科書その他の教材等の宣伝活動を行わないこと。

(検定申請本（申請図書）の取扱いについて)

- ・令和6年度においては、高等学校用教科書について検定申請の受付が行われ

ることとなるが、検定申請本（申請図書）は、検定の行政処分を行う際の審査対象であり、教科書発行者に対して、その内容について厳格な情報管理を求めていることから、教科書採択を勧誘するための宣伝活動（実質的にそれと同視され得る活動を含む。）に使用することは一切認められていないこと。

- ※5 教科書発行者が、採択関係者に対して自らが発行しようとする教科書の宣伝活動については、別添通知及び教科書発行者行動規範も併せて参照すること。

（イ）採択権者に求められる過大な宣伝活動等への対処

- 教科書発行者による過大な宣伝活動等は禁止されていることを十分に踏まえ、各教育委員会等においても、域内の学校とも情報共有をはじめ密に連携した上で、事前に適切な措置を講ずること。
- その際、文部科学省の指導や教科書発行者行動規範等に違反する行為について、教科書発行者に求めることのないようにすることはもとより、教科書発行者からそういった申出があった場合には明確に断るよう関係者への周知を徹底すること。
- 文部科学省から教科書発行者に対して、採択期間中の、教科書発行者（教科書発行者と実質的に関係する者を含む。）において、新たに採択される教科書に関する説明会、講習会又は研修会等（※6）を主催しないよう、また、開催に関与することのないよう指導しているところであり、各教育委員会・学校等においてもその趣旨を理解した上で適切に対応すること。

- ※6 「教科書に関する説明会、講習会又は研修会等」とは、関連する教材の説明等を目的としたもののほか、教科書発行者の宣伝を目的としたものを含み、2以上の学校の教師等を対象としたものを想定しているが、疑義がある場合には文部科学省に問い合わせ願いたい。

（ウ）採択権者が主催する説明会について

- この点、採択権者が、教科書発行者間の公平性を確保した上で、教育委員会関係者等の教科書採択に携わる者に説明を求める機会を設けることを妨げるものではないが、その際には、教科書発行者に過度な負担とならないよう、都道府県教育委員会による開催が望ましいこと。また、不参加の教科書発行者が発行する教科書について、不参加であることのみをもって、採択しないこととする取扱いを行うなどにより、事実上、参加を強制することは適当ではないこと。

（6）教科書発行者との関係において留意すべき事項について

(ア) 教科書発行者による教師等からの意見聴取等

- 質の高い教科書の実現のためには、日々の授業実践を通じて得られた教師等の意見を反映することが必要不可欠であり、教科書の著作・編集活動の一環として、教科書発行者が教師等から意見を聴取することは、大きな意義を有する側面もあること。
- また、教師等が行う授業研究や教材研究等の効果的な実施に当たっては、教科書発行者が有する知見を活用することも必要となると考えられること。
特に、学習者用デジタル教科書など新たな教材の開発等に当たっては、両者が連携して研究等を行うことが重要となると考えられること。

(イ) 教科書発行者からの利益供与への対処について

- 文部科学省は、教科書発行者に対し、採択関係者に対して、教科書採択の勧誘を目的として又はその目的であるとの疑念を生じさせるおそれがある形での金銭その他の利益の供与又はその申出は絶対に行わないように指導している。
- なお、「採択関係者」とは、採択権者である教育委員会の関係者（国立学校・私立学校においては学校長）のほか、教科用図書選定審議会若しくは採択地区協議会の委員又は調査員等として採択に至るまでの一連の手續に關与しうる者に加えて、実際にこれらの職に就いているか否かにかかわらず校長・教員等の全ての学校関係者を含む。（常勤・非常勤は問わない）
- 教科書発行者行動規範においては、不当な利益供与として教科書発行者が禁止される行為の具体例が挙げられている。
- よって、採択関係者は、教科書発行者に対して飲食の無償提供や金銭等を要求したり、これを受領したりすることがないように留意すること。また、このことを十分に踏まえ、各教育委員会等においても、本通知を採択関係者に周知徹底するなど、必要な措置を講ずること。

<禁止される行為の具体例>（教科書発行者行動規範より）

- ・ 採択関係者に対する金銭や物品の提供、饗応その他の利益の供与（交通費・宿泊費、飲食費等に名を借りて社会通念上相当とされる範囲を超えて供与されるもの及び中元・歳暮等による物品の贈答を含み、後記<許容される行為>に掲げるものを除く。）
- ・ 採択関係者に対する、教科書並びに学習者用デジタル教科書、教師用指導書及び教科書準拠周辺教材についての対価の支払いを伴う意見聴取（後記<許容される行為>に掲げるものを除く。）
- ・ 採択関係者が含まれる者が開催する会議等に係る会場費、印刷代等の提供、

その他の労務の提供、又は当該会議等の会員各社の役員・社員以外の講師に係る謝金若しくは交通費・宿泊費等の提供

- ・採択関係者が含まれる者が開催する会議等又は同者が発行する刊行物・印刷物等への過大な広告費・協賛金等の支出
- ・採択関係者に対する冠婚葬祭、転勤、昇進等に際しての金銭や物品の提供
- ・採択関係者に対する教師用指導書、教材、教具、書籍、辞典等の提供（採択関係者以外にも広く無償で配布しているものを除く。）
- ・採択関係者に対する宴席、ゴルフ、スポーツ観戦、観劇、旅行等への招待（招待に限らず、費用の一部を会員各社が負担する場合を含む。）

＜許容される行為＞

- ・教科書見本と併せて、又は個別に、学習者用デジタル教科書の部分サンプルや内容解説資料その他教科書発行者が広く無償で配布する資料を受け取ることは差し支えないこと。
ただし、資料の名称を問わず、有償の商品やサービスを無償又は廉価に提供を受けるなど教科書発行者からの不当な利益供与が禁止されていることにくれぐれも注意すること。
- ・採択関係者は、採択期間中、内容解説資料のほか、機関誌、定期刊行物、その他の広く無償で配布予定である資料を受領することは差し支えないこと。
- ・編集協力者（検定申請前から当該教科書の制作に関与・協力した者で、発行者が検定申請時に文部科学省に提出する著作編修関係者名簿等に記載される予定の者をいう。）は必要な手続きを経たうえで、教科書並びに学習者用デジタル教科書、教師用指導書及び教科書準拠周辺教材の編集・執筆・意見聴取等に対する適正な対価・経費を受領することは差し支えないこと。

- 教師等が適正な労務に対する対価として金銭等を受け取る場合については、その可否・手続等（受け取ることができない場合も含む。）について条例や規則等において定めるとともに、教師等に対して、法令のほかそれらの条例や規則等に従う必要がある旨を周知すること。

これらに加え、服務監督権者において、事前・事後を問わず、教師等からの相談に対応するなど適切な指導・助言を行うこと。

（ウ） その他教科書発行者と学校・教師等との適切な関係性の構築

- 一方で、仮に教師等と教科書発行者の認識が教科書の著作・編集活動あるいは授業研究や教材研究等の一環であったとしても、一般の国民ないしは地域住民等から見れば、教科書採択の公正性・透明性に疑念を生じさせるものと受け止められかねないことから、教科書発行者と健全かつ適切な関係を保つよう、全ての学校・教師等に対して指導を徹底すること。

- 教師等が、法令等に違反して、教科書発行者による不適切な行為に関与し、又は荷担した場合には、当該教師等に対して、懲戒処分も含めて厳正に対処すること。
- 特に、教科書発行者の行為の内容又はそれに対する教師等の関与若しくは荷担の内容・程度によっては、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 32 条（法令等及び上司の職務上の命令に従う義務）、第 33 条（信用失墜行為の禁止）又は第 38 条（営利企業への従事等の制限）の規定に違反することにもなり得ることに留意すること。

（７）文部科学省への情報提供について

- 本通知、別添通知及び教科書発行者行動規範に違反する行為をはじめとして、教科書発行者による不適切な行為が確認された場合には、速やかにその所属する教育委員会・学校等に対して報告すべき旨を、全ての教師等に対して指導すること。
また、報告を受けた教育委員会・学校等にあつては、その行為が教科書採択の公正性・透明性に疑念を生じさせるものである場合には、都道府県教育委員会を通じて、文部科学省に速やかに情報提供を行うこと。
- 文部科学省においては、都道府県教育委員会あるいは教科書発行者等からの情報に基づいて、教科書発行者による不適切な行為が確認された場合には、教科書発行者名を含めて文部科学省ホームページ等において公表する予定としており、各教育委員会等においても、域内で確認された教科書発行者による不適切な行為について、教科書採択に携わる関係者において共有するとともに、当該行為の内容に応じて公表することも検討すること。

２．教科書採択方法の改善について

（１）採択権者の判断と責任について

- 教科書の採択に当たっては、国公立を問わず、採択権者の判断と責任に基づいて十分な審議や調査研究を行うこと。
- 採択権者の責任が不明確となるような以下の方法がなされないように採択手続の適正化に努めること。
＜不適切な採択方法＞
 - ・ 教師等の投票によって決定される
 - ・ 事実上、一部の特定の教師のみによって決定される
 - ・ 十分な審議や調査研究を経ずこれまでの慣例のみによって決定される
 - ・ その他の採択権者の責任が不明確になる方法によって決定される

- 公立の高等学校並びに公立の中等教育学校及び併設型中学校において使用する教科書については学校ごとに異なる教科書を採択することが可能であり、採択に当たっては各学校の希望を聴取することが通例となっているが、これらの学校において使用する教科書についても採択権限は教育委員会が有するものである。これを踏まえ、単に各学校の意向に任せて採択を行うようなことがないよう、採択権者としての責務を適切に果たすこと。

(2) 都道府県教育委員会による指導、助言及び援助等について

- 都道府県教育委員会においては、無償措置法第10条の規定により、域内の市町村教育委員会並びに国立大学法人又は公立大学法人が設置する学校及び私立学校の学校長が行う教科書採択に関する事務について指導、助言及び援助を行わなければならないこととされており、適切にその責務を果たすことが必要であること。

- 市町村教育委員会並びに国立大学法人又は公立大学法人が設置する学校及び私立学校において教科書の調査研究の期間が十分に確保できるよう、都道府県教育委員会において、例えば、以下の取組を行うことで適切にその責務を果たす必要があること。

<具体的な取組例>

- ・市町村教育委員会等による採択・需要数報告に係る事務の調査・作業時間の確保に配慮し、需要数の報告の期限を更に遅くするなど採択スケジュールについて不断の見直しを行うこと。その際、市町村教育委員会等との協議を行い、確認体制が十分ある場合などに需要数の報告の期限を延長することも考えられる。
 - ・採択に関する基本的な考え方や採択に関する調査研究資料を早期に決定し、示すこと。
 - ・採択に関する事務や需要数の算定事務を並行して行うなど行政事務の効率化・迅速化を行うこと。
- 文部科学省においても、採択権者における十分な調査研究の期間を確保するために以下の方策を講じていること。
 - ・教科書発行者に対しては、調査研究をはじめとする採択事務に支障の生じないよう、可能な限り漏れなく教科書見本を送付するよう配慮を求めている。
 - ・都道府県教育委員会や採択権者が行う教科書の採択・需要数報告に係る事務負担を軽減する方策として、円滑な需要数集計のための新たなシステムの令和7年度からの運用に向けた構築などの取組に引き続き努めている。（なお、新たなシステムの構築については「令和5年の地方からの提案等に関する対

応方針」（令和５年１２月２２日閣議決定）においても、対応についてお示ししているところ。）

（３）教科書の調査研究の充実等について

（ア）教科書見本の十分な活用

- 公立学校において使用する教科書の採択権限は教育委員会が有しており、教育長及び委員の人数分の教科書見本が送付されることになっているが、教育長及び委員への教科書見本の提供状況に関する調査結果（別添資料参照）を見ると、必ずしも教科書見本が十分に活用されているとは言い難い。
- このため、教育長及び委員が十分な時間的余裕を持って教科書見本を閲覧し、その内容について適時吟味することができるような環境を整えることが必要であること。
- 教育長及び委員に適切に教科書見本が提供されないことはもちろん、教科書採択に係る会議における配布資料としてだけしか活用されないことも不十分であること。
- 教科書発行者の判断により、教科書見本が送付されない又は調査研究に足る十分な部数が送付されない場合には、その範囲内で調査研究を行うこととして差し支えないこと。

（イ）静ひつな調査研究の環境の確保

- 教科書採択については、教科書発行者に限らず、外部からのあらゆる働きかけに左右されることなく、静ひつな環境を確保し、採択権者の判断と責任において公正かつ適正に行われるよう努めること。

例えば、教科書採択に係る教育委員会の会議を行うに際しては、静ひつな審議環境の確保等の観点から検討を行い、会議の公開・非公開を適切に判断するとともに、傍聴に関するルールを明確に定めるなど、適切な審議環境の確保に努めること。

- 都道府県教育委員会は、外部からの働きかけについて域内における状況を適切に把握し、過大な宣伝活動その他外部からの不当な働きかけにより公正かつ適正な教科書採択に問題が生じていると考えられる場合には、各市町村教育委員会・学校等において適切な措置を講ずるよう指導するとともに、速やかに文部科学省に報告すること。

また、仮に、円滑な採択事務に支障を来すような事態が生じた場合や不当な働きかけがあった場合には、警察等の関係機関とも連携を図りながら、毅然とした対応を取ること。

(ウ) 調査研究の充実

- 教科書の調査研究については、必要な専門性を有し、公正・公平に教科書の調査研究を行うことのできる調査員等を選任し、教科等ごとに適切な数配置するなど体制の整備を図るとともに、調査員等が作成する資料については、採択権者の判断に資するよう一層充実したものとなるよう努めること。

その際、より幅広い視点からの意見を反映させるために、保護者等の意見を踏まえた調査研究の充実に努めること。

- 調査員等が作成する資料においてそれぞれの教科書について何らかの評定を付す場合であっても、採択権者が十分な審議を行うことが必要であり、必ず首位の教科書を採択・選定、又は上位の教科書の中から採択・選定することとするなど、当該評定に拘束力があるかのような取扱いを行うことにより、採択権者の責任が不明確になることがないよう留意すること。

- 公立の高等学校並びに公立の中等教育学校及び併設型中学校において使用する教科書の採択に際して、各学校から希望を聴取する場合には、事前に各都道府県又は市町村の教育目標等を踏まえた教科書採択の基準となるべきものを各学校に示した上で、各学校の希望を聴取し、当該聴取結果を踏まえて、教育委員会において審査を行うことが適切であること。

(参考) 一般社団法人教科書協会が制定した教科書発行者行動規範は、以下の URL を参照のこと。

<https://www.textbook.or.jp/about-us/publicity-standard.html>

【担当】

文部科学省初等中等教育局教科書課企画係
電話 03 (5253) 4111 内線 2576

令和 5 年度採択関係状況調査結果（都道府県教育委員会）

調査期間：令和 5 年10月17日から11月19日
回答者：都道府県教育委員会
調査項目：令和 5 年度に行った、令和 6 年度から公立小学校（義務教育学校の前期課程を含む。
 なお特別支援学校の小学部は含まない。）で使用する教科書の採択について
※表中の割合については、四捨五入しているため100%にならない場合があります。

1 採択地区の構成について
採択地区を設定する際の市町村教育委員会の意向の把握について

	数	割合
①定期的（採択期間の開始時期等）に意向を確認している。	14	29.8%
②定期的に確認は行わないが、市町村教育委員会等からの要望を適宜受け付けている。	32	68.1%
③その他	1	2.1%

2 採択事務のスケジュールについて
都道府県教育委員会における市町村教育委員会からの需要数報告の期限について

	数	割合
① 7 月16日以前	1	2.1%
② 7 月17日～ 7 月31日	1	2.1%
③ 8 月 1 日～ 8 月16日	13	27.7%
④ 8 月17日～ 8 月31日	19	40.4%
⑤ 9 月 1 日～ 9 月16日	12	25.5%
⑥市町村との協議に基づいて柔軟に決定。	1	2.1%
⑦数次にわたり設定している。	0	0.0%
⑧特段設けていない。	0	0.0%

3-1

			当該組織 の構成員 総人数	内 訳						
				(1)保護者	(2)校長	(3)教諭等	(4)教育長	(5)教育委員	(6)教育委員会事 務局職員	(7)その他
①	都道府県の 教科用図書 選定審議会の 委員	人数	881	91	198	138	92	45	167	150
		割合		10.3%	22.5%	15.7%	10.4%	5.1%	19.0%	17.0%
②	都道府県の 教科用図書 選定審議会の 調査員	人数	3221	3	88	2443	0	0	681	6
		割合		0.1%	2.7%	75.8%	0.0%	0.0%	21.1%	0.2%

			当該組織 の設置 地区数	内 訳						
				(1)保護者	(2)校長	(3)教諭等	(4)教育長	(5)教育委員	(6)教育委員会 事務局職員	(7)その他
①	採択地区の 採択地区協 議会	地区数	311	206	108	52	311	189	135	45
		割合		66.2%	34.7%	16.7%	100.0%	60.8%	43.4%	14.5%
②	採択地区の 選定委員会	地区数	392	323	325	173	148	132	226	157
		割合		82.4%	82.9%	44.1%	37.8%	33.7%	57.7%	40.1%
③	採択地区の 調査員	地区数	541	34	366	536	4	6	102	16
		割合		6.3%	67.7%	99.1%	0.7%	1.1%	18.9%	3.0%

		公表	非公表 (未作成 含む)	公表の方法、時期（複数回答可）			非公表の理由		
				ホーム ページ	情報セン ター等	その他	静ひつな採 択環境を確 保するため	請求があれば開示 しているため	その他
①	都道府県教育委員 会が作成する 採択基準	40	7	28	17	2	1	5	0
		85.1%	14.9%						
②	都道府県教育委員 会が作成する 選定関係資料	37	10	23	17	3	1	8	0
		78.7%	21.3%						

5 教科書見本の取扱いについて

5-1

都道府県教育委員会における、教育委員等への教科書見本の提供について（複数回答可）

	数	割合
①自宅・職場に送付するなど、教育委員等全員に全種類を提供している。	3	6.4%
②専用の部屋等に、教育委員等全員が閲覧するために備え置いている。	28	59.6%
③採択に関連する会議で配布資料としてのみ活用している。	11	23.4%
④見本本の比較資料などを提供し、見本本自体は提供していない。	6	12.8%
⑤見本本の比較資料も見本本自体も提供していない。	3	6.4%
⑥教科書展示会で見本本の閲覧の機会を提供している。	19	40.4%
⑦その他	6	12.8%

5-2

都道府県教育委員会における教科書見本の送付部数限度について

	数	割合
①教科書見本の送付部数限度は適切である。	41	87.2%
②教科書見本の送付部数限度は多い。	3	6.4%
③教科書見本の送付部数限度は少ない。	3	6.4%

6 教科書展示会について

教科書展示会の会場数等について

①都道府県域内において開催された法定展示会（※）の会場数の総数	1292
②来場者数の把握（概数でも構いません）を行っている法定展示会の会場数	1047
③来場者数の把握を行っていない法定展示会の会場数	270

※令和5年度における「法定展示期間」は6月14日から7月31日までの任意の14日間。

来場者数の把握を行っている法定展示会の1047の会場の内、来場者数の延べ人数は78181人（概数）

7 図書館等への教科書の整備について

都道府県教育委員会における図書館等への教科書の整備について（複数回答可）

	数	割合
①教科書センターで閲覧に供するようにしている（教科書見本を含む）。	45	95.7%
②学校図書館など各学校で閲覧等に供するようにしている。	3	6.4%
③公立図書館で閲覧等に供するようにしている。	18	38.3%
④特に整備していない。	1	2.1%

8 採択に関する公正確保について

都道府県教育委員会における公正確保のための措置について（複数回答可）

	数	割合
①文部科学省からの通知等をもとに、教科書採択の公正確保のための周知徹底の措置を行った。	47	100%
②①以外の教科書採択の公正確保のための措置を行った。	11	23%
③特に措置を行っていない。	0	0%

令和 5 年度採択関係状況調査（市区町村教育委員会）

調査期間：令和 5 年10月17日から11月19日
回答者：市区町村教育委員会
調査項目：令和 5 年度に行った、令和 6 年度から公立小学校（義務教育学校の前期課程を含む。
なお特別支援学校の小学部は含まない。）で使用する教科書の採択について
※表中の割合については、四捨五入しているため100%にならない場合があります。

1 採択事務のスケジュール等について

1-1

採択の決定時期等について

	数	割合
①7月16日以前	94	5.4%
②7月17日～ 7 月31日	846	48.4%
③8月1日～8月10日	363	20.8%
④8月11日～8月20日	100	5.7%
⑤8月21日～8月31日	344	19.7%

1-2

採択権限の行使方法について

	数	割合
①教育委員会の会議に諮り教科書を採択している。	1658	94.9%
②教育委員会規則により教育長に委任し、教育長の権限により教科書を採択している。	18	1.0%
③教育委員会規則により教育長に委任されたものをさらに教育委員会事務局職員に委任し、当該事務局職員の権限により教科書を採択している。	3	0.2%
④教育長の専決により教科書を採択している （事後に教育委員会に報告し、教育委員の意見聴取をする場合を含む）。	35	2.0%
⑤その他	33	1.9%

2 採択にあたっての調査研究について

2-1

採択地区における調査員等（他の名称で同様の役割の組織がある場合も含む。）が教科書について作成する資料とその扱いについて

	数	割合
①総合的・観点別の評定を付さず、特徴や留意点のみを記述した資料を作成し、全ての教科書の中から採択・選定することとしている。	1116	63.9%
②総合的な評定を付さず、観点別の評定を付した資料を作成し、全ての教科書の中から採択・選定することとしている。	124	7.1%
③総合的な評定を付した資料（観点別の評定を併せて付したものを含む）を作成し、全ての教科書の中から採択・選定することとしている。	351	20.1%
④総合的な評定を付した資料（観点別の評定を併せて付したものを含む）を作成し、首位の教科書を採択・選定、または上位の教科書の中から採択・選定することとしている。	95	5.4%
⑤資料を作成していない（調査員組織がない場合を含む）。	61	3.5%

2-2-1

貴市区町村内の市区町村立小学校で使用する教科書の採択に関する基準について

	数	割合
①域内の公立学校で使用する教科書の採択に関する基準を設けている。	1357	77.7%
②域内の公立学校で使用する教科書の採択に関する基準を設けていない。	390	22.3%

2-2-2

採択基準を設けている場合、市区町村教育委員会が採択に関する基準として設けている項目について

	数	割合
①教育基本法、学習指導要領への準拠性	1172	67.1%
②都道府県の教育目標・方針への適合性	681	39.0%
③市区町村の教育目標・方針への適合性	686	39.3%
④各教科書の説明等の理解しやすさ	998	57.1%
⑤各教科書の題材等の構成や配分の適切さ	1092	62.5%
⑥各教科書の使いやすさや見やすさ	1073	61.4%
⑦いわゆる発展的学習に係る記述の分量や記述の内容	738	42.2%
⑧その他の観点や基準	231	13.2%

※2-2-1で「①域内の公立学校で使用する教科書の採択に関する基準を設けている。」を選択した市区町村教育委員会のみ回答

3 採択に係る資料の公表等について

市区町村教育委員会における採択資料の公表等について

		公表	非公表 (未作成 含む)	公表の方法			非公表の理由				
				ホーム ページ	情報セン ター等	その他	静ひつな 採択環境 を確保す るため	請求があれば 開示してい るため	採択地区協 議会の事務 局が公表し ているため	都道府県教 育委員会が 公表してい るため	その他
①	市区町村教育委員会が 作成する採択基準	276	1471	149	130	25	268	507	126	109	57
		15.8%	84.2%								
②	市区町村教育委員会が 作成する 選定関係資料	422	1325	234	182	39	196	679	191	21	29
		24.2%	75.8%								
③	市区町村立小学校で使 用する教科書の 採択結果	1002	745	879	184	91	48	332	170	179	16
		57.4%	42.6%								
④	市区町村立小学校で 使用する教科書の 採択理由	629	1118	494	151	38	165	650	219	18	66
		36.0%	64.0%								
⑤	市区町村立小学校で使 用する教科書の 採択に係る議事録	608	1139	525	102	29	262	603	136	6	28
		34.8%	65.2%								
⑥	採択地区協議会の 議事録	381	1091	268	90	34	127	615	240	5	33
		25.9%	74.1%								

※⑥は採択地区協議会を設置している市区町村教育委員会のみ回答

4 教科書見本の取扱いについて

4-1

市区町村教育委員会における教育長及び教育委員（以下「教育委員等」という。）への教科書見本の提供について

	数	割合
①自宅・職場に送付するなど、教育委員等全員に全種類を提供している。	309	17.7%
②専用の部屋等に、教育委員等全員が閲覧するために備え置いている。	841	48.1%
③採択に関連する会議で配布資料としてのみ活用している。	523	29.9%
④見本本の比較資料などを提供し、見本本自体は提供していない。	32	1.8%
⑤見本本の比較資料も見本本自体も提供していない。	51	2.9%
⑥教科書展示会で見本本の閲覧の機会を提供している。	788	45.1%
⑦その他	105	6.0%

4-2

市区町村教育委員会における教科書見本の送付部数限度について

	数	割合
①教科書見本の送付部数限度は適切である。	1465	83.9%
②教科書見本の送付部数限度は多い。	225	12.9%
③教科書見本の送付部数限度は少ない。	57	3.3%

5 図書館等への教科書の整備について

市区町村教育委員会における図書館等への教科書の整備について（複数回答可）

	数	割合
①学校図書館など各学校で閲覧等に供するようにしている。	161	9.2%
②公立図書館で閲覧等に供するようにしている。	595	34.1%
③特に整備していない。	1052	60.2%

6 共同採択における採択手続き等について

採択地区協議会の委員に、委員の職務上知り得た秘密に係る守秘義務を課しているかについて

	数	割合
①公務員以外の者が採択地区協議会の委員に含まれており、その者に守秘義務を課している。	1162	78.9%
②公務員以外の者が採択地区協議会の委員に含まれているが、その者に守秘義務を課していない。	18	1.2%
③公務員以外の者は採択地区協議会の委員に含まれていない。	293	19.9%

※採択地区協議会を設置している市区町村教育委員会のみ回答

7 採択に関する公正確保について

市区町村教育委員会における公正確保のための措置について（複数回答可）

	数	割合
①文部科学省からの通知等をもとに、教科書採択の公正確保のための周知徹底の措置を行った。	1690	96.7%
②①以外の教科書採択の公正確保のための措置を行った。	41	2.3%
③特に措置を行っていない。	48	2.7%

8 学習者用デジタル教科書の見本版について

	数	割合
①採択の考慮の一事項とした。	1028	58.8%
②採択の考慮には入れていない。	719	41.2%

令和 5 年度採択関係状況調査（国立・私立小学校）

調査期間：令和 5 年10月17日から11月19日
回答者：国立大学法人が設置する小学校、私立小学校
調査項目：令和 5 年度に行った、令和 6 年度から国立・私立小学校（義務教育学校の前期課程を含む。
 なお特別支援学校の小学部は含まない。）で使用する教科書の採択について
※表中の割合については、四捨五入しているため100%にならない場合があります。

1 採択決定時期と採択方法について

1-1

採択の決定時期について

	国立大学法人が設置する小学校		私立小学校	
	学校数(校)	全体に占める割合(%)	学校数(校)	全体に占める割合(%)
① 7 月16日以前	5	8.2%	71	34.5%
② 7 月17日～ 7 月31日	21	34.4%	81	39.3%
③ 8 月 1 日～ 8 月10日	17	27.9%	21	10.2%
④ 8 月11日～ 8 月20日	6	9.8%	10	4.9%
⑤ 8 月21日～ 8 月31日	12	19.7%	23	11.2%

1-2

採択方法について

	国立大学法人が設置する小学校		私立小学校	
	学校数(校)	全体に占める割合(%)	学校数(校)	全体に占める割合(%)
①学校内の関係者から構成される調査研究のための組織を設置し、調査研究の結果を踏まえて校長が採択している。	33	54.1%	41	19.9%
②学校内・学校外の関係者から構成される調査研究のための組織を設置し、調査研究の結果を踏まえて校長が採択している。	5	8.2%	1	0.5%
③①又は②のような調査研究のための組織は設置せず、各教科担当の教員等による調査研究の結果を踏まえて校長が採択している。	19	31.1%	134	65.0%
④特定の教員（校長等）が調査研究を行い、調査研究の結果を踏まえて校長が採択している。	3	4.9%	20	9.7%
⑤その他	1	1.6%	10	4.9%

2 採択に係る資料の公表等について

	属性	作成	公表・非公表の別		未作成
①採択基準	国立	39	公表	24	22
			非公表	15	
	私立	72	公表	34	134
			非公表	38	
②選定関係資料	国立	35	公表	18	26
			非公表	17	
	私立	69	公表	28	137
			非公表	41	
	属性	公表		非公表	
③採択結果	国立	51		10	
	私立	107		99	
④採択理由	国立	45		16	
	私立	87		119	

3 採択に関する公正確保について（複数回答可）

	国立大学法人が設置する小学校		私立小学校	
	学校数(校)	全体に占める割合(%)	学校数(校)	全体に占める割合(%)
①文部科学省からの通知等をもとに、教科書採択の公正確保のための周知徹底の措置を行った。	59	96.7%	167	81.1%
②①以外の教科書採択の公正確保のための措置を行った。	3	4.9%	5	2.4%
③特に措置を行っていない。	2	3.3%	34	16.5%

4 学習者用デジタル教科書の見本版について

	国立大学法人が設置する小学校		私立小学校	
	学校数(校)	全体に占める割合(%)	学校数(校)	全体に占める割合(%)
①採択の考慮の一事項とした。	32	52.5%	68	33.0%
②採択の考慮には入れていない。	29	47.5%	138	67.0%

別添通知

5 文科初第 2 5 6 8 号
令和 6 年 3 月 2 9 日

各教科書発行者 殿

文部科学省初等中等教育局長
矢 野 和 彦
(公印省略)

教科書採択の公正確保について（通知）

我が国においては、民間の教科書発行者が教科書の制作に主たる役割を担っており、教科書の宣伝活動についても一義的にはその判断と責任に委ねられています。しかしながら、教科書が、全ての児童生徒が必ず使用するものであることに鑑みれば、その採択に高い公正性と透明性が求められることは言うまでもなく、教科書発行者においても、その意味を十分に認識し、教科書の制作に携わる者としての自覚と責任を持って自らの活動を律することが必要となります。

過去に教科書採択の公正性・透明性に疑念を生じさせる事態が発生し、これが二度と生じることのないよう、一般社団法人教科書協会において、新たな自主ルールとして「教科書発行者行動規範」が制定されました。

しかし、令和 4 年度、特定の教科書発行者が、採択期間中において、採択関係者に飲食を無償提供するなど、不当な利益供与を行っていた事実が確認されました。この結果、教科書採択の公正性・透明性に疑念を生じさせ、教科書に対する信頼を大きく揺るがす事態に至ったことについては極めて遺憾であります。

文部科学省としても今回の事案を重く受け止めており、令和 4 年度に、教科用図書検定規則に基づき、当該発行者に対して、令和 5 年度の中学校用教科書の 3 種目を検定審査不合格とする処分方針を通知いたしました。

教科書業界全体として、二度とこのような事態が生じることがないよう、教科書発行者における徹底した不断の取組が不可欠です。

このため、各教科書発行者において、同行動規範及びそれを具体化するための社内ルール（教科書協会に非加盟の教科書発行者においては同行動規範に準じて策定した社内ルール）に基づき、自らの活動に如何なる疑惑の目も向けられることのないよう、教科書の著作・編集から検定、採択、供給に至るあらゆる段階における教科書採択の公正確保に努めていただくことが強く求められます。

ついでには、宣伝活動等に関し、特に留意すべき事項について通知しますので、教科書の編著作者及び編集協力者並びに関連する教材の執筆者を含む全ての関係者への周知と併せて、これらに違反又は逸脱する行為を社内全体として防止するための措置、取組に万全を期していただくようお願いいたします。

記

(採択期間における教科書見本の取扱いについて)

- 多くの教科書発行者が、教科書見本の不適切な取扱いを行っていたことが明らかとなり、該当の教科書発行者に対して改善を求めたところであるが、該当の教科書発行者においては、引き続き、再発防止のための具体的な措置を確実に講ずること。
- 令和6年度においては、採択権者（公立学校（公立大学法人が設置する学校を除く。以下同じ。）において使用する教科書については当該学校を所管する教育委員会、国立大学法人又は公立大学法人が設置する学校及び私立学校において使用する教科書については当該学校長）による調査研究に支障が生じないように、教科書見本の送付先及び送付部数の上限について下記のとおりとする。

[小学校用教科書]

- ・ 令和6年度は、法令に基づいて、前年度と同一の教科書が採択されることとなることから、原則として教科書見本は送付できない。
- ・ ただし、義務教育諸学校の教科用図書は無償措置に関する法律施行規則（昭和39年文部省令第2号）第6条各号に掲げる場合には、採択権者からの個別の求めに応じ、下記「中学校用教科書」の取扱いに準じて教科書見本を送付することができる。

[中学校用教科書]

- | | | |
|-------------------------------|---|-------------|
| ・ 都道府県教育委員会 | : | 15部 |
| ・ 指定都市教育委員会 | : | 17部 |
| ・ 中核市、特例市、特別区教育委員会 | : | 8部 |
| ・ その他の市町村教育委員会 | : | 5部 |
| ・ 採択地区（単独採択地区を含む。） | : | （構成市町村数＋3）部 |
| ・ 国立大学法人又は公立大学法人が設置する学校及び私立学校 | : | 1部 |
| ・ 教科書センター | : | 2部 |

(※) 原則として、新たに検定を経た教科書の見本に限り送付できるが、新たに検定を経た教科書の見本のほか、令和元年度の検定に合格した教科書の供給本（「中学校用教科書目録（令和7年度使用）」に掲載されているものに限る）についても、教科書見本として送付することができる。

(※) 指定都市の区域内に設定された採択地区については、4部を上限とする。

(※) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第3条の規定により、教育長及び委員の数が5人を超える場合には、その超える数1人につき1部を上限として追加で送付することができる。

[高等学校用教科書]

◇ 令和5年度に検定を経た教科書の見本

- ・ 都道府県教育委員会 : 6 部
- ・ 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）を所管する市（特別区を含む。以下同じ。）町村教育委員会 : 原則 1 部
- ・ 高等学校に置かれる課程（全日制・定時制・通信制） : 原則 1 部
- ・ 教科書センター : 1 部

(※) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 3 条の規定により、教育長及び委員の数が 5 人を超える場合には、その超える数 1 人につき 1 部を上限として追加で送付することができる。

(※) このほか、採択権者から個別に求めがあった場合に、当該採択権者が教科書採択の権限を有する中等教育学校の前期課程及び併設型中学校の数を上限として、当該採択権者に送付することは差し支えない。

(※) 高等学校を所管する市町村教育委員会から個別に求めがあった場合には、教育長及び委員の数を上限として追加で送付することができる。

(※) 採択権者から個別に求めがあった場合に、当該採択権者が教科書採択の権限を有する高等学校の分校又は各学科（普通科・専門学科・総合学科）に 1 部を上限として送付することは差し支えない。ただし、専門学科については、高等学校設置基準（平成 16 年文部科学省令第 20 号）第 6 条第 2 項各号に規定する学科ごとに 1 部を上限とする。

◇ 令和4年度以前に検定を経た教科書の見本

- ・ 令和5年度以前に教科書見本を送付していない場合には、上記「令和5年度に検定を経た教科書の見本」の取扱いに準じて送付することができる。
- ・ 令和5年度以前に教科書見本を送付した場合にも、採択権者からの個別の求めに応じて、上記「令和5年度に検定を経た教科書の見本」の送付先に 1 部を上限として送付することは差し支えない。

【その他留意すべき事項】

- ・ 上記部数は、送付することができる教科書見本の上限であるが、採択事務に支障が生じないように、特に都道府県教育委員会及び実際に教科書の採択を行う採択権者に対しては、可能な限り漏れなく送付するよう配慮すること（ただし、職業に関する教科については、各 1 部を送付することとして差し支えない。）。

また、上述のように、公立学校において使用する教科書を採択する権限は、当該学校を所管する教育委員会が有しており、教科書採択に当たっての調査研究についてもその判断と責任において実施するものであることから、高等学校にのみ教科書見本を送付し、当該高等学校を所管する教育委員会に送付しないといった取扱いは厳に慎むこと。

- ・ 上記を除き、「採択関係者」（採択権者である教育委員会の関係者（国

立学校・私立学校においては学校長）のほか、教科用図書選定審議会若しくは採択地区協議会の委員又は調査員等として採択に至るまでの一連の手続に関与しうる者に加えて、実際にこれらの職に就いているか否かにかかわらず校長・教員等の全ての学校関係者を含む（常勤・非常勤は問わない）。以下同じ。）への教科書見本の献本又は貸与は、名目の如何を問わず認められていないこと（採択関係者からの求めに応じた献本又は貸与も同様である。）。

特に、令和４年度以前に検定を経た教科書の見本については、既に有償で販売されていることから、採択関係者への不当な利益供与との疑念を生じさせることのないよう、その取扱いにはくれぐれも注意すること。

- ・ 各学校への教科書見本の送付は、原則として、郵送等によるものとし、教科書発行者が持参する場合には、当該学校の了解を得た上で行うこと。
また、例年、教科書見本の管理が煩雑になるとの指摘もあることから、採択権者等への送付に当たっては、複数の種目の教科書見本をまとめて送付する、送付目録を添付する等の工夫を講ずるよう努めること。
- ・ 教科書見本については、制作し次第、速やかに送付し、４月末日（教科書センターには５月末日）までに送付が完了するよう努めること。
- ・ 教科書見本の送付先及び送付部数の管理を厳格に行い、文部科学省あるいは採択権者からの問合せに適切に対応できるようにすること。
また、教科書協会に加盟の教科書発行者にあつては、採択期間終了後に採択権者等に送付した教科書見本の総部数を教科書協会に報告すること。
- ・ 教科書の発行に関する臨時措置法施行規則（昭和２３年文部省令第１５号）第８条第２項の規定により、都道府県教育委員会（又は教科書センター）において保存されている教科書見本を教科書展示会に出品しようとするときは、同条第３項の規定により、その旨を文部科学省及び都道府県教育委員会に対して、５月末日までに通知すること。
- ・ 教科書見本と併せて、内容解説資料その他広く無償で配布する資料を採択権者等に送付することは差し支えないが、その場合には、教科書見本と紛れのないよう、外観により容易に見分けがつく装丁、梱包とすること。
- ・ 教科書見本の送付先や送付部数等に疑義がある場合には、必要に応じて教育委員会等に確認した上で送付すること。特に、採択権者からの個別の求めに応じて、高等学校の分校若しくは学科に教科書見本を送付する場合又は令和元年度以前に検定を経た教科書の見本を送付する場合等の具体の手続については、各教育委員会等が定めることとなるため注意すること。

（教科書の編著作者及び編集協力者並びに関連する教材の執筆者に関する情報の取扱いについて）

- 令和６年度に検定を経た教科書等の編著作者及び編集協力者に関しては、その氏名及び所属等に関する情報については、教科書協会や文部科学省から各都道府県教育委員会に対して、同年度末を目途に送付することとしているため、これを取りまとめた上で、当該編著作者及び編集協力者の同意を得ること。
- 教師用指導書及び教科書準拠周辺教材の執筆者に関する情報についても、当該執筆者の同意を得た上で、教科書協会に加盟の教科書発行者にあ

っては教科書協会を通じて、各都道府県教育委員会に送付すること。

- そのほか、交通費・宿泊費、飲食費その他名目を問わず、採択関係者に係る何らかの費用を負担した場合には、その状況についても、採択権者からの問い合わせに対応することができるよう適切な情報管理を行うこと。

(検定申請本の取扱いについて)

- 令和6年度においては、高等学校用教科書について検定申請の受付が行われることとなるが、当該検定に係る検定申請本の取扱いについては、教科用図書検定規則実施細則（平成元年文部大臣裁定）の規定のほか、下記事項を遵守すること。
 - ・ 検定申請本及びその内容を、教科書採択を勧誘するための宣伝活動（実質的にこれと同視され得るものを含む。）には一切用いないこと。
 - ・ 検定申請本及びその内容については、教科書の編著作者及び編集協力者のほか、教師用指導書及び教科書準拠周辺教材の執筆者並びに学習者用デジタル教科書の製作関係者に、その執筆に当たって必要な部分を提供する場合を除いては、採択関係者その他の第三者に対して提供又は開示を行わないこと。
 - ・ 教科書の編著作者及び編集協力者、教師用指導書及び教科書準拠周辺教材の執筆者並びに学習者用デジタル教科書の製作関係者に検定申請本の内容の一部を提供するに当たっては、情報の取扱いに関する誓約書を取り交わすとともに、翌年度以降の教科書採択に当たって、当該者の氏名及び所属、提供した検定申請本の内容等に関する情報を都道府県教育委員会等に提供することができるよう適切な情報管理を行うこと。

(過大な宣伝活動等について)

- 採択権者による教科書採択の判断に不当な影響を及ぼすことのないよう、下記事項を遵守するなど、過大な宣伝活動等は厳に慎むこと。特に、採択期間における教科書発行者の活動は、その意図に関係なく、教科書採択の勧誘を目的としていると受け止められかねないことから、採択関係者に対する不公正な行為との疑念を生じさせることのないようくれぐれも注意すること。
 - ・ 採択関係者若しくは公職関係者又はこれらの職にあった者など採択関係者に影響力を及ぼし得る者（教科書発行者の社員である者を除く。）を教科書採択の勧誘を目的とした宣伝活動等に従事させないこと。
 - ・ 採択関係者の自宅訪問は一切行わないこと。
 - ・ 採択期間においては、新たに採択される教科書に関する説明会、講習会又は研修会等（関連する教材の説明等を目的としたもののほか、教科書発行者の宣伝を目的としたもの又はその目的であるとの疑念を生じさせるおそれのあるものを含む。）を主催せず、他の主体が主催するこれらの会議の開催に原則として関与しないこと。また、教科書の編著作者及び編集協力者、関連する教材の執筆者並びにその他教科書発行者と実質的な関係にある者に対しても、これらの取扱いについて周知することにより、教科書発行者によるこれらの会議の主催ないしは開催への関与が禁止されていることの趣旨を損なうことのないよう留意すること。

- ・ 採択期間終了後に教科書見本、教師用指導書その他の教材等を献本すること又は教科書等に関する説明会、講習会若しくは研修会等を開催することを約することを以て、教科書採択の勧誘を行わないこと。
- ・ 教科書や教師用指導書と類似若しくは同視し得る資料を作成し、又は自ら行くと第三者をしてであるとを問わず配布しないこと。
- ・ 学校又は児童生徒への教科書の供給過程において、教科書以外の資料を挿入・添付し、又は宣伝用の袋を使用するなどして教科書その他の教材等の宣伝活動を行わないこと。

(不当な利益供与の禁止について)

- 採択関係者に対して、教科書採択の勧誘を目的として又はその目的であるとの疑念を生じさせるおそれがある形での金銭その他の利益の供与又はその申出は、絶対に行わないこと。
この点、教科書発行者行動規範においては、不当な利益供与として禁止される行為の具体例が挙げられているとともに、教科書採択の公正性・透明性の確保の徹底を目的として、教科書、教師用指導書及び教科書準拠周辺教材に関する意見聴取の対価の支払いが禁止されていることに留意すること。

(違反した場合の対応について)

- 本通知若しくは教科書発行者行動規範等に違反し、又は逸脱する行為が教科書発行者により行われていることが確認された場合には、教科書発行者名を含めて公表する場合もあること。
- また、事案の内容を踏まえ、法令上の要件に該当する場合は下記の措置を講ずる場合もあること。

- ・ 検定、採択、発行に関し不公正な行為をした申請者による当該事案に係る種目の申請図書については、直近の年度の検定において内容審査に入ることなく検定審査不合格の決定を行うこととなること。

【教科用図書検定規則第7条第2項】

- ・ 教科書の採択に関して教科書発行者その他の教科書の採択に直接の利害関係を有する者の不公正な行為があったと認められる場合、同一の教科書の採択期間中（4年間）であっても、当該不公正な行為に関する教科書と同一種目の教科書を採択替えすることができる。

【義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条第2項、同法施行規則第6条第2号】

- ・ 教科書発行者やその代表者等が図書の発行に関し著しく不公正な行為をした場合については、既に行った教科書発行者の発行指定の取消しを行うこととなること

【義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第19条第1号】

- なお、教科書発行者の構成員が採択関係者に不当な利益を供与した場合、事案の内容によっては、刑法上の贈賄罪等の法的責任を負う可能性がある

こと。

(その他)

- 如何なる理由があろうとも、自ら行くと第三者をしてであるとを問わず、他の教科書発行者及びその発行する教科書の内容に関する誹謗中傷は、絶対に行わないこと。
- なお、万が一、自社においてそのような行為が行われていることを了知した場合には、速やかに当該行為を停止する等の措置を講ずるとともに、文部科学省に対してその旨を申し出ること。

【担当】

文部科学省初等中等教育局教科書課企画係
電話 03(5253)4111 内線 2576



5 初 教 科 第 3 4 号
令 和 6 年 3 月 2 9 日

各都道府県教育委員会
教科書関係事務主管課長 殿

文部科学省初等中等教育局教科書課長
黄 地 吉 隆

(公印省略)

令和 7 年度使用教科書の採択事務処理について（通知）

教科書採択の公正確保については、「教科書採択における公正確保の徹底等について」（令和 6 年 3 月 2 9 日付け 5 文科初第 2 5 6 7 号文部科学省初等中等教育局長通知）において通知したところですが、円滑な教科書の採択事務処理については、下記事項にも十分留意いただくようお願いします。

文部科学省では、各採択権者の採択事務処理の円滑化・効率化に資するように、採択事務処理等（需要数報告事務処理も含む）に係る必要な情報を取りまとめ、以下のポータルサイトを新設したことから積極的に活用されたい。

なお、本通知は、貴教育委員会の教育長及び教育委員、知事部局を含む関係部署のほか、域内の市（特別区を含む。以下同じ。）町村教育委員会並びに国立大学法人又は公立大学法人が設置する学校及び私立学校を含む全ての学校に対しても周知いただくようお願いします。

【採択事務処理等ポータルサイト】

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/saitaku/1282214_00007.htm

【担当】

文部科学省初等中等教育局教科書課企画係
電話 03(5253)4111 内線 2576

記

1. 各学校段階における令和6年度の教科書採択について

(1) 小学校用教科書の採択について

令和5年度に採択したものと同一の教科書を採択しなければならないこと。

ただし、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（以下「無償措置法」という。）第14条及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令（昭和39年政令40号。以下「無償措置法施行令」という。）第15条の規定に基づき、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行規則（昭和39年文部省令第2号。以下「無償措置法施行規則」という。）第6条各号に掲げる場合は、異なる教科書を採択することができること。

(2) 中学校用教科書の採択について

全ての教科書について、令和5年度に採択したものと異なる教科書を採択することができること。その際、「中学校用教科書目録（令和7年度使用）」に登載されているもののうちから採択すること。

(3) 特別支援学校の小・中学部用教科書の採択について

① 小学部

令和5年度に採択したものと同一の教科書を採択しなければならないこと。

ただし、以下の（5）のとおり、学校教育法附則第9条第1項に規定する教科書の採択を行う場合は、異なる教科書を採択することができる。

② 中学部

全ての教科書について、令和5年度に採択したものと異なる教科書を採択することができること。その際、「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（令和7年度使用）」に登載されている中学部用の教科書のうちから採択すること。

(4) 高等学校用教科書の採択について

現行の高等学校学習指導要領（平成30年文部科学省告示第68号。以下「平成30年学習指導要領」という。）の適用を受ける生徒が使用する教科書は、「高等学校用教科書目録（令和7年度使用）」の第1部に登載されている教科書のうちから採択しなければならないこと。

従前の高等学校学習指導要領（平成21年文部省告示第34号。以下「平成21年学習指導要領」という。）の適用を受ける生徒が使用する教科書は、同目録の第2部に登載されている教科書のうちから採択すること。なお、「平成三十一年四月一日から新高等学校学習指導要領が適用されるまでの間における現行高等学校学習指導要領の特例を定める件」（平成30年文部科学省告示第172号）に基づき、保健体育、芸術、福祉、体育、音楽及び美術については、その全部又は一部について、平成30年学習指導要

領の規定によることとすることができることとなっていることから、その場合は、これらの科目の教科書について、同目録の第1部に登載されている教科書のうちから採択することができること。

(5) 学校教育法附則第9条第1項に規定する教科用図書の採択について

① 特別支援学校の小・中学部及び特別支援学級並びに高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）においては、学校教育法（昭和22年法律第26号）附則第9条第1項の規定により、教科書目録に掲載されている教科書以外の教科用図書（以下「一般図書」という。）を採択することができること。その際、採択権者は教科の主たる教材として教育目標の達成上適切な図書を選定すること。

② 特別支援学校・学級用の一般図書の採択に際しては、まずは文部科学省著作教科書の使用の適否とともに、文部科学大臣の検定を経た下学年用教科書の採択の適否を十分考慮すること。その上で、これら以外の図書を採択することが適当である場合には、以下の（ア）から（オ）までの事項に、特に留意すること。

（ア）児童生徒の障害の種類・程度、能力・特性に最もふさわしい内容（文字、表現、挿絵、取り扱う題材等）の図書が適切であること。

（イ）可能な限り体系的に編集されており、教科の目標に沿う内容を持つ図書が適切であること（特定の題材又は一部の分野しか取り扱っていない参考書、図鑑類、問題集等の図書は適切ではない。）。

（ウ）上学年で使用する図書や、採択する他教科の図書との関連性も考慮すること。

（エ）価格については、前年度の実績を考慮するなどし、高額なものに偏ることのないようにすること。

（オ）別途送付している「令和6年度用一般図書契約予定一覧について」（令和6年2月13日付け事務連絡参照）を参考にしつつ、それ以外の図書も含めて最も適切なものを採択すること。

③ 分冊となっている一般図書や弱視児童生徒のための拡大教科書、点字教科書については、教科書と同様に分冊本を採択できるが、その供給については、教科書と同様の時期に一括して行われるものであること。

なお、拡大教科書及び点字教科書のうちボランティア団体が作成するものについて、全分冊の一括供給が困難である場合においては、年度当初の授業で使用される分冊が授業開始前に供給され、以降の供給も授業に支障が生じない時期に供給可能であることが必要であること。

④ 特別支援学校・学級用一般図書を採択する場合には、採択権者において当該図書の種類、発行部数及び発行者の所在地等について把握するだけでなく、教科書として供給可能であるか、発行者が国との契約意向があるかについて、該当発行者に十分に確認した上で採択を行う必要があること。

なお、令和7年度用特別支援学校・学級用一般図書の需要数を取りま

とめた後、改めて文部科学省から当該発行者に対し、供給が可能かどうか確認することになるため、その結果、絶版や在庫不足等の理由により、発行者が供給に応じられない場合もあることに留意すること。

2. 採択に当たっての留意事項について

(1) 教科書の採択期限について

義務教育諸学校において使用する教科書の採択については、無償措置法施行令第14条第1項の規定により、当該教科書が使用される年度の前年度の8月31日までに行わなければならないとされていること。

高等学校等において使用する教科書については、法令上、採択期限は定められていないが、都道府県教育委員会から文部科学省に9月16日までに教科書需要数の報告をしなければならないとされていることを踏まえ、都道府県教育委員会において適切にスケジュール管理を行うこと。

(2) 同一の教科書の採択期間について

義務教育諸学校において使用する教科書については、無償措置法施行令第15条第1項の規定により、基本的に同一の教科書を4年間採択しなければならないとされていること。

その特例として、無償措置法施行規則第6条各号に掲げる場合には、上記にかかわらず異なる教科書を採択することができることとされていること。またその際には、教科書発行者に対して、調査研究等に必要な部数の教科書見本の送付を求めても差し支えない。

(3) 採択する際の検討の在り方について

① 学習者用デジタル教科書の考慮について

- 教科書採択は紙の教科書を決定する行為であり、調査・検討の対象は紙の教科書であることが基本であること。
- 一方で、令和6年度以降、英語の学習者用デジタル教科書（以下「デジタル教科書」という。）を紙の教科書と併せて提供する予定であり、令和6年度の中学校英語の教科書採択については、中学校英語のデジタル教科書を調査し、考慮の一事項とすることができること。

② ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 障害その他の特性の有無にかかわらず児童生徒にとって読みやすいものであることが重要であることから、各教科書発行者において、教科書のユニバーサルデザイン化に向けた取組が進められているところである。
- 各採択権者においても、教科書の採択に係る調査研究に当たっては、教科書が障害その他の特性の有無にかかわらず児童生徒にとって読みやすいものになっているかどうかについても比較検討すること

が望ましいこと。

（教科書発行者による取組の例）

○ユニバーサルデザインフォントに関する取組

- ・ルビのフォントを大きくしたり、ゴシックにしたりする。
- ・本文、グラフの線や数字に太いフォントを使用する。

○カラーユニバーサルデザインに関する取組

- ・色覚の特性に配慮した見やすい色を使用する。
- ・色だけで情報を伝えないよう、グラフ等で線の種類を変えたり、模様を付けたりする。

○レイアウトに関する取組

- ・重要な部分を囲むことにより明確に視覚化する。
- ・写真を重ねる際は境目をわかりやすくする。

（４）教科書採択に関する情報の公表について

教科書採択に係る資料の公表状況に関する調査結果（令和６年３月２９日付け５文科初第２５６７号文部科学省初等中等教育局長通知別添資料参照）を見ると、採択基準、採択結果や採択理由等について十分に公表されているとはいえない。

教科書採択の結果及びその理由等の公表に関し、義務教育諸学校については、無償措置法第１５条の規定により、採択権者である教育委員会並びに国立大学法人又は公立大学法人が設置する学校及び私立学校の学校長に努力義務が課されているところであり、採択権者においては、より一層、採択結果及びその理由をはじめとする教科書採択に関する情報の積極的な公表に取り組み、採択に関する説明責任を果たすことが求められること。

また、既に公表を行っている採択権者においても、保護者や地域住民等が容易にその情報を得ることができるよう、公表の時期・方法等について不断の改善を図ること。

なお、共同採択地区においては、採択地区協議会の事務局が公表する部分もあると考えられるが、その場合であっても、共同採択地区を構成する各教育委員会として、ホームページに当該公表情報へのリンクを貼る等、主体的に公表に取り組むこと。

また、高等学校等において使用する教科書についても、義務教育諸学校において使用する教科書に準じてその採択結果及びその理由等の公表に努めるなどにより、採択権者である教育委員会や学校長は、説明責任を果たすことが求められること。

（５）その他

令和６年度においては、高等学校用教科書について検定申請の受付が行われることとなるため、申請受理種目及び期間を確認の上、採択関係者と

教科書発行者との関係に特に留意すること。

【参考】教科書検定の申請受付

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/kentei/shinsei.htm

3. 教科書見本等について

(1) 教科書見本の送付について

教科書見本の送付先と送付部数の上限は「教科書採択の公正確保について」（令和6年3月29日付け5文科初第2568号文部科学省初等中等教育局長通知）において教科書発行者に対して指導がなされているので参照すること。

また、同通知において、教科書発行者に対しては、令和5年度検定において合格した教科書について、採択事務に支障のないよう教科書見本を制作し次第、4月末日（教科書センターについては5月末日）までに送付するよう求めていること。

(2) 高等学校用教科書見本の取扱いについて

高等学校用教科書見本については、各高等学校にも送付できることとしているが、翌年度以降の採択替えの際の調査研究に支障が生じないよう、各学校において教科書見本の適切な保管・管理を行うよう努めること。（各高等学校で採択された教科書見本を教育委員会等に提出を求める際も、教育委員会は手続き終了後に各高等学校へ教科書見本を返却し保管するよう指導すること）

(3) デジタル教科書の見本について

中学校英語においては、デジタル教科書を採択時の考慮の一事項とすることができることから、来年度の5月上旬頃、デジタル教科書の一部を見本として文部科学省から提供予定であること。その際の留意事項については、別途通知することとなる。

(4) 編修趣意書について

文部科学省では、教科書の編集の趣旨や基本方針についてまとめられた「編修趣意書」を取りまとめた上で以下のURLに掲載しているので、採択事務処理を行う際には参考にすることができること。

加えて、各採択権者にその旨を周知すること（令和6年度は4月下旬頃に更新予定）。

URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/tenji/1364484.htm

4. 教科書展示会及び教科書センターについて

(1) 教科書展示会の意義について

教科書展示会は、教育関係者の教科書研究の便宜を図り、一般公開を通

じて地域住民等の多くの方々に教科書に触れていただくための取組であり、教科書展示会の開催に係る経費は、地方交付税で措置されていること。

各都道府県教育委員会は、教科書展示会の開催時期・場所等について、教育関係者はもとより、保護者等広く一般にも積極的に周知を図ること。

なお、文部科学省ホームページ（※）においても、各都道府県教育委員会が毎年開催する教科書展示会についての情報を公開することとしていること。

（※）文部科学省ホームページ

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/tenji/1359114.htm

（２）令和６年度法定展示会の開始の時期及び期間について

教科書の発行に関する臨時措置法（昭和 23 年法律第 132 号）第 5 条の規定に基づく教科書展示会は、6 月 14 日から 7 月 31 日までの間で都道府県教育委員会において定める任意の連続した 14 日間（法定展示期間）開催すること（令和 6 年文部科学省告示第 3 1 号）。

（３）出品教科書に関する留意点について

教科書見本が送付されない場合を除いて、教科書展示会の出品教科書については、その取扱い上の差別をしてはならないこと。

また、出品された教科書見本については、教科書の発行に関する臨時措置法施行規則第 9 条により、展示後 1 年間保存することとされていることに留意すること（翌年度使用教科書のみ）。

学校教育法附則第 9 条第 1 項に規定する教科用図書については、これを展示することができるが、その際、これらの図書の見本は、基本的には都道府県教育委員会が購入することが適切であること。

（４）その他教科書展示会について

法定展示期間（上記（２）に記載の 14 日間）に加えて、法定展示期間外であっても、教科書展示会を開催することは可能であり、法定展示期間の前後にも展示を行ったり、移動展示会や図書館や公民館等における展示を行ったりするなど、広く地域住民の方々が展示会に参加できるよう工夫すること。

また、拡大教科書及び点字教科書や、学習障害やその他発達障害等により、教科書に一般的に使用されている文字等を認識することが困難な児童生徒向けに作成されている音声教材についても、教科書展示会等の機会を活用し、普及促進を図っていくことが望ましいこと。その際、平成 27 年 3 月に全国の教科書センターに配布したサンプル集や、平成 29 年 1 月に全国の都道府県教育委員会及び市町村教育委員会に配布したサンプル集を活用することも考えられること。

（５）教科書センターについて

教科書センターは、教科書を常時展示し、教科書の調査研究の便宜を図るとともに、保護者や地域住民等も利用することを目的として設けられた施設であること。

教科書センターの新設、移転（住所表示の変更を含む。）、名称変更、

廃止の場合又は既設の教科書センターにおいて展示する教科書の種類（小・中・高・特別支援学校）の変更があった場合には、その旨を文部科学省初等中等教育局教科書課に報告すること。

その際、報告の様式は任意であるが、教科書センターの名称、住所、設置場所、電話番号、展示教科書の種類について、変更前と変更後のものが分かる形で示すとともに、変更後の都道府県内の教科書センターの一覧表及び変更についての簡単な理由を付記すること。

5. 需要数報告について

（1）需要数報告の期限について

需要数の報告は、文部科学大臣が教科書発行者に対して行う発行指示の基礎となる数を把握するためのものであり、都道府県教育委員会においては、国立大学法人又は公立大学法人が設置する学校及び私立学校分も含めて需要数の把握を適切に実施し、報告後に生じたやむを得ない事情による場合を除き、可能な限り正確な需要数を把握するものとする。

都道府県教育委員会においては、市町村教育委員会等からの需要数の報告について、適切なスケジュール管理を行い、各都道府県教育委員会から文部科学大臣への需要数報告期限（9月16日）を遵守すること。その際、都道府県教育委員会が市町村教育委員会に対して設定する締切りについては、採択・需要数報告に係る事務の調査・作業時間の確保に配慮したものとする。なお、本要請は「令和5年の地方からの提案等に関する対応方針」（令和5年12月22日閣議決定）を踏まえたものであることを申し添える。

（2）需要数報告の変更について

需要数報告後の大幅な需要数変更は、教科書の発行及び供給に混乱を生じさせることにもつながりかねないので、学校や学科の新設・廃止等、新たに採択する必要がある場合によるほかは、極力変更がないよう、正確な需要数の把握に努めること。

なお、やむを得ない事情により需要数を変更する場合には、採択権者は都道府県教育委員会及び教科書取扱書店に、都道府県教育委員会は文部科学大臣に報告するとともに、教科書・一般書籍供給会社に連絡すること。また、この需要数報告の変更及び連絡は、教科書の製造・供給に支障が生じないように、遅くとも教科書を使用することとなる年度の前年度の12月末までに行うよう努めると共に、万一、1月末以降に需要数の変更が生じた場合には、可及的速やかに教科書取扱書店及び教科書・一般書籍供給会社等へ連絡を行うとともに、文部科学省にその旨報告し対応を相談すること。

（3）一般図書及び教科用特定図書等の需要数報告について

特別支援学級・学校用一般図書及び教科用特定図書等（拡大教科書・点字教科書）の需要数報告については、別途送付する通知を参照すること。

なお、音声教材については、必要とする児童生徒への円滑な提供のため、障害のある児童生徒が使用する音声教材の需要数を把握するための調査を実施予定である。教科書関係事務主管課のみではなく、特別支援教育関係

事務主管課とも連携を図り、音声教材の需要を適切に把握し、普及推進に積極的に取り組むこと。

(4) 高等学校使用教科書の需要数報告について

高等学校においては、平成 30 年学習指導要領の適用を受ける生徒が使用する教科書（教科書目録第 1 部掲載）と、平成 21 年学習指導要領の適用を受ける生徒が使用する教科書（同第 2 部掲載）は異なるため、需要数報告に当たっては混同することのないよう十分注意すること。

なお、第 1 学年の需要数の把握に当たっては、過去数年間の入学者数の実績を考慮する等により正確な数の把握に努め、過大な報告とならないよう特に留意すること。

6. 義務教育諸学校用教科書の採択地区の設定又は変更について

採択地区がより適切なものとなるよう、採択地区の設定又は変更に当たっては、各市町村教育委員会の意向等を踏まえるとともに、随時その状況を把握すること。

採択地区を設定し、又は変更したときは、無償措置法第 12 条第 3 項の規定に基づいて告示を行い、関係者に周知するとともに、文部科学大臣にその旨を速やかに報告すること。その際、以下の資料を添付すること。

- ① 採択地区変更に係る告示の写し
- ② 採択地区の区域及び名称を明示した地図（構成市町村の境界を点線で示すこと）
- ③ 採択地区変更に係る理由書
- ④ 変更前及び変更後の採択地区の名称及び構成市町村名等を対照する書類

7. 今後の検定・採択のスケジュール等について

令和 6 年度以降の採択事務処理の準備に当たっては、今後の検定・採択のスケジュールについて、別記の表を参照すること。

また、文部科学省では、教科書に関する法令等について、最新の法改正等を反映させた教科書関係法令集（令和 5 年 4 月時点）を取りまとめ、以下の文部科学省ホームページに掲載したので適宜参考にされたい。

【教科書関係法令集（令和 5 年 4 月）】

URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/mext_00002.htm

以上

【別記】検定・採択の周期

年度（西暦） 学校種別等区分		H30 (2018)	H31/R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
小 学 校	検 定	◎				◎				◎
	採 択	△	△				△			
	使用開始	●	○	○				○		
中 学 校	検 定	◎	◎				◎			
	採 択	▲	△	△				△		
	使用開始		●	○	○				○	
高 等 学 校	主として 低学年用	検 定		◎	◎			◎		
		採 択			△	△			△	
		使用開始				○	○			○
	主として 中学年用	検 定			◎	◎			◎	
		採 択				△	△			△
		使用開始	○				○	○		
	主として 高学年用	検 定				◎	◎			◎
		採 択	△				△	△		
		使用開始		○				○	○	

◎：検定年度

△：直近の検定で合格した教科書の初めての採択が行われる年度

○：使用開始年度（小・中学校は原則として４年ごと、高校は毎年度採択替え）

▲：直近の検定で合格した「特別の教科 道徳」の教科書の初めての採択が行われる年度

●：「特別の教科 道徳」の使用開始年度

※ 小学校には義務教育学校の前期課程を、中学校には義務教育学校の後期課程及び中等教育学校の前期課程を、高等学校には中等教育学校の後期課程を含む。

※ 小学校における平成 30 年度、中学校における平成 31 年度／令和元年度においては、「特別の教科 道徳」を除く各教科の教科書について採択が行われた。

※ 太線以降は、学習指導要領改訂後の教育課程の実施に伴う教科書についてである。

区市町村教育委員会教育長 殿

東京都教育委員会教育長

浜 佳 葉 子

(公印省略)

令和7年度使用義務教育諸学校用教科書の採択方針について（通知）

東京都教育委員会は、令和6年4月16日に開催した東京都教科用図書選定審議会（第1回）において、「教科書の採択方針」について諮問し、別紙のとおり答申を得ました。

つきましては、令和7年度使用義務教育諸学校用教科書の採択に当たっては、下記について特段の御留意をいただきますようお願いいたします。

記

教科書採択に当たっての留意事項について

- （1）採択は、採択権者が自らの責任と権限において、適正かつ公正に行うこと。
- （2）学習指導要領及び採択権者の教育方針を踏まえ、より専門的な調査研究を行うこと。
- （3）特別支援学級及び特別支援学校の児童・生徒の実情も十分配慮すること。
- （4）各採択地区の実情に応じて、創意・工夫をすること。

なお、1採択地区に2以上の教育委員会が存する場合、種目ごとに同一の教科書を採択するための協議について、関係教育委員会は採択地区協議会を設置して行うこと。

また、採択地区協議会における最終的な合意形成の方法等はあらかじめ定めること。

<担当>

東京都教育庁指導部管理課（教科書担当） 利根川

電話：03-5320-6834

メール：Yasuhiro_Tonegawa@member.metro.tokyo.jp



令和6年4月16日

東京都教育委員会 殿

東京都教科用図書選定審議会

会長 中西 有

**教科書の採択方針について（答申）**

令和6年4月16日付けで諮問のあった事項のうち、「教科書の採択方針」について、下記のとおり答申します。

記**1 教科書採択に当たっての留意事項について**

東京都教育委員会は、次の事項に留意し、総合的に判断して、令和7年度に義務教育諸学校で使用する教科書の採択を行うとともに、他の採択権者においても同様の方針で採択するように指導、助言又は援助を行うこと。

- (1) 採択は、採択権者が自らの責任と権限において、適正かつ公正に行うこと。
- (2) 学習指導要領及び採択権者の教育方針を踏まえ、より専門的な調査研究を行うこと。
- (3) 特別支援学級及び特別支援学校の児童・生徒の実情も十分配慮すること。
- (4) 各採択地区の実情に応じて、創意・工夫をすること。

なお、1採択地区に2以上の教育委員会が存する場合、種目ごとに同一の教科書を採択するための協議について、関係教育委員会は採択地区協議会を設置して行うこと。

また、採択地区協議会における最終的な合意形成の方法等はあらかじめ定めること。

2 教科書の調査研究に当たって留意・検討すべき事項について**(1) 小学校用教科書**

東京都教育委員会は、小学校、義務教育学校（前期課程）及び特別支援学校（小学部）で使用する教科書について、学習指導要領の教科の目標等を踏まえ、各教科書の違いが明瞭に分かるように、内容及び構成上の工夫について調査研究すること。

(2) 中学校用教科書

東京都教育委員会は、中学校、義務教育学校（後期課程）、中等教育学校（前期課程）及び特別支援学校（中学部）で使用する教科書について、学習指導要領の教科の目標等

を踏まえ、各教科書の違いが明瞭に分かるように、内容及び構成上の工夫について調査研究すること。

(3) 都立の義務教育諸学校で使用する教科書

ア 都立小学校で使用する教科書

東京都教育委員会は、都立小学校で使用する教科書の採択に当たって、学習指導要領の教科の目標等を踏まえ、小中高一貫教育の特色及び学校の特色を考慮し、各教科書の違いが明瞭に分かるように、内容及び構成上の工夫について調査研究すること。

なお、都立小学校の英語の採択に当たって、小学校英語の学習者用デジタル教科書を調査し、採択の考慮の一事項とすることができることに配慮して調査研究すること。

イ 都立中学校及び都立中等教育学校（前期課程）で使用する教科書

東京都教育委員会は、都立中学校及び都立中等教育学校（前期課程）で使用する教科書の採択に当たって、学習指導要領の教科の目標等を踏まえ、中高一貫教育の特色及び各学校の特色を考慮し、各教科書の違いが明瞭に分かるように、内容及び構成上の工夫について調査研究すること。

なお、都立中学校及び都立中等教育学校（前期課程）の英語の採択に当たって、中学校英語の学習者用デジタル教科書を調査し、採択の考慮の一事項とすることができることに配慮して調査研究すること。

ウ 都立特別支援学校（小学部・中学部）で使用する教科書

東京都教育委員会は、都立特別支援学校（小学部・中学部）で使用する教科書の採択に当たって、学習指導要領の教科の目標等を踏まえ、児童・生徒の障害の状態や特性等を考慮し、各教科書の違いが明瞭に分かるように、内容及び構成上の工夫について調査研究すること。

なお、都立特別支援学校（小学部・中学部）の英語の採択に当たって、小学校英語及び中学校英語の学習者用デジタル教科書を調査し、採択の考慮の一事項とすることができることに配慮して調査研究すること。

(4) 学校教育法附則第9条第1項の規定による教科書（以下「一般図書」という。）

ア 東京都教育委員会は、令和6年度使用教科書として採択された一般図書及びその他の図書について検討し、調査すること。

イ 東京都教育委員会は、特別支援学級及び特別支援学校で使用する一般図書の調査研究に当たって、学習指導要領の教科の目標等を踏まえ、児童・生徒の障害の状態や特性等を考慮し、内容及び構成上の工夫について調査研究すること。

なお、一般図書を教科書として使用する際の指導上の配慮事項やその他参考となる事項等についても、併せて調査研究すること。

教科書展示会の実施について

1 目 的

保護者等区民に教科書を公開することにより、教育内容への一層の関心と理解を深めることを目的とする。

2 内 容

教科書の発行に関する臨時措置法第5条に基づき、法定展示会を14日間開催するとともに、特別展示会を10日間開催する。

3 展示期間

特別展示会：令和6年6月6日（木）から6月15日（土）

法定展示会：令和6年6月16日（日）から6月30日（日）

※6月23日の休館日を除く

4 展示時間

千代田図書館の開館時間と同じ

- ・月～金 午前10時から午後10時まで
- ・土 午前10時から午後 7時まで
- ・日 午前10時から午後 5時まで

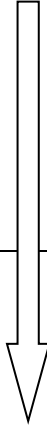
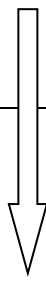
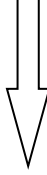
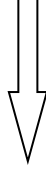
5 展示教科書

「中学校・中等教育学校前期課程」「小学校」「中等教育学校後期課程」の3つの区分で、各教科の教科書を展示する。

6 展示会場

千代田図書館 第3研修室（区役所9階）

令和7年度使用 千代田区立学校教科用図書の採択事務日程

月	教育委員会事務局	中学校・中等教育学校（前期）	特別支援学級（小・中）	九段中等教育学校（後期課程）	展示会
4月	4/9（火）教育委員会報告 【令和7年度使用 教科用図書の採択事務日程等】	4/11(木) 校園長会（予告・依頼） 校長会長へ選定委員、調査委員推薦、各校での 自主研究の実施依頼			
	4/25(木)第1回選定委員会 <事務局> ・中学校長会長に、選定委員(4/11 通知)、調査委員(4/25 通知)推薦依頼 ・教科書見本確認（4月末までに届く予定）	4/25(木) 第1回選定委員会（役所、15:30）			
5月	5/21(火) 教育委員会定例会(詳細報告) 【令和7年度使用教科用図書の採択について】 <事務局> ・中・中等教育学校に、見本本配付5/1(水)～5/31(金) ・特別支援学級設置校長に、調査及び申請依頼 ・九段中等校長に、選定依頼	5/1(水)～5/31(金) 自主研究（各校） 見本本の閲覧・各教科書について調査研究 研究結果をまとめて調査委員で集約	5月中旬～6月下旬 調査研究・選定 	5月中旬 選定委員会設置 要綱及び委員名簿提出 5月中旬～6月下旬 調査研究・選定 	5/ 7(火)校園長会 5/14(火)部課長会 5/21(火)教委報告 5月中旬に図書館HP公表・広報ちよだ掲載
6月	6/4(火)第1回調査委員会 6/13(木)第2回調査委員会	6/4(火)第1回調査委員会 6/13(木)第2回調査委員会 各委員長校にて開催 ※都合がつかない場合は 6/4(火)～6/13(木)の期間で調整実施 ※調査状況により、各部会で第3回実施も可			6/5(水) 会場設営・搬入 6/6(木)～6/30(日) （6/23(日)は休館日） 教科書展示会 （於：千代田図書館） 7/1(月)、7/2(火) 撤収・搬出

	調査委員会の報告内容について集約、確認	6/14 (金) までに調査結果を各教科の選定委員長に報告			
	6/21(金) 第2回選定委員会	6/21(金) 第2回選定委員会 (役所13:30～)			
	6/24(月) 第3回選定委員会	6/24(月) 第3回選定委員会 (役所13:30～)			
	7/2(火) 部課長会				
	7/9(火) 教育委員会定例会 【中・中等 (前期) 学校教科用図書選定委員会答申 (報告)】	7/9(火) 教育委員会定例会 教育委員会に選定結果答申の報告			
	～7/19 教育委員会教科書検討				
	7/19 (金) 教科書懇談会 (役所13:00～)	7/19 (金) 教科書懇談会 (役所13:00～)			
	7/30 (火) 臨時教育委員会【協議】秘密会				
7月			7/9 (火) 選定理由及び結果報告 (→事務局)	7/9 (火) 選定理由及び結果報告 (→事務局)	教科書展示会報告 7/23 (火) ・九段中等後期の教科書・選定理由書、特支の選定理由書の準備
			7/16 (火) 部課長会	7/16 (火) 部課長会	
			7/30 (火) 臨時教育委員会【協議】秘密会	7/30 (火) 臨時教育委員会【協議】秘密会	
8月	8/20(火) 部課長会				
	8/27(火) 教育委員会定例会【議決】 【中学校・中等教育学校前期課程教科用図書の採択】 【小学校教科用図書の採択】 【九段中等教育学校後期課程用教科用図書の採択】 【特別支援学級 (小・中) 教科用図書の採択】				
	8/30(金) 採択結果提出 (→東京都)				

いじめ、不登校、白鳥教室の状況(令和6年4月末の報告)

教 育 委 員 会 資 料
令 和 6 年 5 月 2 1 日
指 導 課

校種	学年	いじめ報告数			不登校者数		白鳥教室利用者数		
		今月 未解消	今年度 解消(転出含)	今年度 累計	今月 不登校者	今年度 累計	今月 利用者数	今月 登録者数	先月末 登録者数
小 学 校	1年				4月は登校日が30 日未満のため、不 登校に該当する児 童・生徒はなし				
	2年								
	3年		1	1					
	4年	4		4			1	1	
	5年	4		4			1	1	
	6年	2		2			2	2	
中・中 等（前期）	1年				4月は登校日が30 日未満のため、不 登校に該当する児 童・生徒はなし				
	2年	2		2			2	4	
	3年	1		1			5	7	
中 等（後期）	4年								
	5年								
	6年								
計	合計	13	1	14			11	15	

教育委員会行事予定表

教育委員会資料
令和6年5月21日
子ども総務課

月	日	曜	時刻	行 事（事 業 名）	場所等	出席者等
5	21	火	15:00～	教育委員会定例会	教育委員会室	教育委員出席
5	22	水	9:30～	指導課訪問訪問 昌平幼小	昌平幼小	
5	23	木				
5	24	金				
5	25	土				
5	26	日				
5	27	月				
5	28	火				
5	29	水				
5	30	木	14:00～	学校保健会総会	カスケードホール	区長・教育長・区議会議長
5	31	金				
6	1	土		開校・開園30周年記念行事	お茶の水幼稚園・小学校	教育委員出席
6	2	日				
6	3	月		箱根移動教室③（番町小・昌平小・和泉小）～5日	神奈川県箱根町	
6	4	火				
6	5	水	10:00～	教育委員訪問 麴町幼稚園	麴町幼稚園	教育委員出席
6	6	木				
6	7	金	10:00～	教育委員訪問 千代田幼稚園	千代田幼稚園	教育委員出席

教育委員会行事予定表

教育委員会資料
令和6年5月21日
子ども総務課

月	日	曜	時刻	行 事（事 業 名）	場所等	出席者等
6	8	土				
6	9	日				
6	10	月	10:00～	教育委員訪問 富士見小学校	富士見小学校	教育委員出席
6	11	火	15:00～	教育委員会定例会	教育委員会室	教育委員出席
6	12	水				
6	13	木				
6	14	金				
6	15	土				
6	16	日				
6	17	月				
6	18	火				
6	19	水	13:00～	保幼小合同研修会 昌平幼稚園・小学校	昌平幼稚園・小学校	教育委員出席
6	20	木				
6	21	金				
6	22	土				
6	23	日				
6	24	月	10:00～	教育委員訪問 九段中等教育学校	九段中等教育学校	教育委員出席

「広報千代田」
【6月5日号広報原稿一覧

子ども部、地域振興部（文化振興課、生涯学習・スポーツ課）

20件

課	件名	事業の概略 (体言止めで記入)	とき	会場	主催者	備考
			開催日・ 開催期間	住所は区立施設以外の み記入	区以外が主催のとき	その他付記事項など、特に説明を要するこ とを記入
九段中等教育学校	至大荘「親子の臨海体験」	九段中等教育学校が夏季臨海施設として使用する「至大荘」でアストロバイ オロジーセンター特任専門員日下部博士（理学）の研修プログラムを使用し た天体観測や地層の観察などを実施	8月①10日（土）～12日（月） ②12日（月）～14日（水） ③14日（水）～16日（金）	至大荘（千葉県勝 浦市）	（公社）九段事務 局	
児童・家庭 支援センター	親子の絆プログラム ベビママの会 ～お母さんは赤ちゃんの安全基地～	Baby(赤ちゃん)とMama(お母さん)が参加できる初めての交流会。おしゃべり しながら子育てについて楽しく学ぶ。	7月10日/17日（水） 10時～12時	西神田児童セン ター		
児童・家庭 支援センター	子育てサポートが受けられる利用会 員登録説明会	自宅へ子育て・家族支援者を派遣し、宿泊や病後児の保育なども行う、千代 田子育てサポート事業の利用会員登録説明会。	6月21日(金) 10時30分～ 11時30分	あい・ぼーと麹町 （三番町7）	NPO法人 あい・ぼーとス テーション	
指導課	教科書展示会	小学校・中学校・中等教育学校の教科書の展示会を開催。	6月6日（木）～6月30日 （日）10時～22時（土曜は19 時まで／日曜は17時まで）	千代田図書館第3研 修室		
文化振興課	第33回千代田文化連盟展 （千代田区共催事業）	千代田区と千代田区文化連盟との共催事業。区内で活動するサークル等によ る展示会。	6月9日（日）～16日（日） 11時～18時	九段生涯学習館	千代田区文化連盟	
文化振興課	日比谷カレッジ 日本トルコ外交関係樹立100周年 ト ルコを知る 第一夜：トルコとトルコの文化 第二夜：風刺漫画から見るトルコと 日本の100年	日本とトルコ共和国の外交樹立から100年の節目に合わせ講座を開催	7月3日（水） 19時00分～20時45分 7月24日（水） 19時00分～20時45分	日比谷図書文化館 地下1階日比谷コン ベンションホール （日比谷公園1-4）	日比谷図書文化館	
文化振興課	日比谷カレッジ関連展示 トルコを読む トルコ風刺漫画を見 る	トルコ共和国について知る日比谷カレッジの開催に合わせ、関連書籍とトル コ人作家による風刺漫画作品を展示	5月21日(火)～7月24日(水)	日比谷図書文化館 （日比谷公園1-4）	日比谷図書文化館	
文化振興課	四番町図書館 おはなし会	毎月開催している四番町図書館のおはなし会	毎週土曜日11時～	2階児童室	四番町図書館	
文化振興課	日比谷図書文化館ツアー	館内施設や常設展の見学・朗読企画など実施	8月1日（木） 10時30分～12時00分	日比谷図書文化館 4 階セミナールームA （日比谷公園1-4）	日比谷図書文化館	
文化振興課	中学生のためのやさしい小説書き方 講座	初めて小説を書く中学生向けのセミナー	8月1日（木） 13時30分～16時30分	日比谷図書文化館 4 階セミナールームA （日比谷公園1-4）	日比谷図書文化館	

課	件名	事業の概略 (体言止めで記入)	とき	会場	主催者	備考
			開催日・ 開催期間	住所は区立施設以外の み記入	区以外が主催のとき	その他付記事項など、特に説明を要するこ とを記入
生涯学習・スポー ツ課	ちよだ生涯学習ガイドブック「ち よだ生涯学習ガイドブック2024配 布」	区内で実施する生涯学習関連の講座や講習会、イベント、施設、刊行物など をまとめた「ちよだ生涯学習ガイドブック2024」を6月中旬頃から配布。	令和6年6月中旬～	情報コーナー（区 役所2階）・出張 所・九段生涯学習 館・スポーツセン ターなど	九段生涯学習館	
生涯学習・スポー ツ課	すぽすたちよだクラブスタディプロ グラム 7月開催	脳をリラックスさせるヘッドケアやアロマ・快眠について理論と実践から学 習。	7月11日（木） 18時30分～20時	スポーツセンター	九段生涯学習館	
生涯学習・スポー ツ課	人材バンク活用講座「『共読』の楽 しみ～語りあい、つながりあえる 『読書サロン』へようこそ～」	本を通じて人とつながり、地域を豊かにする「共読」の醍醐味を体験。	①7月21日（日） ②8月4日（日） 10時～11時30分	九段生涯学習館	九段生涯学習館	
生涯学習・スポー ツ課	区民自主企画運営講座「らくらく姿 勢改善ストレッチ&トレーニング」	自身の正しい姿勢を知り、身体の慢性的な痛みをセルフケア。	7月17日・31日 8月7日・21日 9月4日 10時～11時30分	九段生涯学習館	九段生涯学習館	
生涯学習・スポー ツ課	ラジオ体操指導者講習会	区内在住・在勤者を対象にラジオ体操指導者育成の講習会を行う。	7月6日（土）18時～	お茶の水小学校 体育館	千代田区ラジオ 体操会連盟	
生涯学習・スポー ツ課	第45回昌平童夢寄席	地域の住民・昌平童夢館利用者向けに、落語家を招いて寄席を開催する。	6月22日(土)18時～	昌平幼稚園遊戯室	昌平評議会	
生涯学習・スポー ツ課	プロコーチから学ぶ！夏のランニ ング教室	中学生を除く16歳以上を対象に、①ハーフマラソンクラス、②フルマラソ ンクラスに分けてランニング教室を行う。	①7月11日（木）9時30分～11 時30分②7月25日（木）19時～ 21時	スポーツセンター	スポーツセンター	
生涯学習・スポー ツ課	介護予防教室LaLaLa Fit	60歳以上を対象にした運動機能向上プログラム	7月19日～9月6日の毎週金曜日 13時30分～14時30分	スポーツセンター	スポーツセンター	
生涯学習・スポー ツ課	卓球教室Ⅲ期	中学生を除く15歳以上を対象に、①入門・初心者クラスと②中級者クラスに 分けて卓球教室を実施。	7月22日～9月2日の毎週月曜日 （ただし8月12日・8月19日は 除く）①10時～11時30分②13 時～14時30分	スポーツセンター	スポーツセンター	
生涯学習・スポー ツ課	スポーツセンターHPのイベント ページにとぶ二次元コード	スポーツセンターのイベント紹介	毎月更新しています。記事の どこかに添付してください。	スポーツセンター	スポーツセンター	